

科目名: 心理臨床学演習 I

クラス:

授業コード: BJ00100001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する、4) 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を進行する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

到達目標: 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

各回の授業計画:

1. 研究倫理基準や研究倫理規程の指導
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. 卒業論文の発表(3)
5. 卒業論文の発表(4)
6. 研究室紹介(各指導教員による)
7. 配属研究室の調整
8. 配属研究室の決定
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート(修士論文のテーマについて)

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。

1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 卒論の発表とディスカッション
5. 卒論の発表とディスカッション
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12. レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)(研究倫理について)
2. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
3. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
4. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
5. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
6. 文献調べ(180分)(文献を読む)
7. 文献調べ(180分)(文献を読む)
8. 文献調べ(180分)(文献を読む)
9. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
10. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
12. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
13. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
14. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
15. レポート作成(180分)(修士論文のテーマについて)

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------------------------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | 発表を行ったり、ディスカッションを積極的に行う。 | 40 % | | | |
| | その他2: | | % | | | |

評価基準: 基礎的な研究の方法論を理解することができる。(60~69点)
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
わかりやすく親切な指導をしています。適宜弱点補強や実力チェックを行っています。

科目名: 心理臨床学演習 I

クラス:

授業コード: BJ00100003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個性性がどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

到達目標: 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

各回の授業計画:

1. 研究倫理基準や研究倫理規程の指導
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. 卒業論文の発表(3)
5. 卒業論文の発表(4)
6. 研究室紹介(各指導教員による)
7. 配属研究室の調整
8. 配属研究室の決定
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート(修士論文のテーマについて)

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔での参加を許可することがある。

授業方法:

1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 卒論の発表とディスカッション
5. 卒論の発表とディスカッション
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12. レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)(研究倫理について)
2. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)

3. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
4. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
5. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
6. 文献調べ(180分)(文献を読む)
7. 文献調べ(180分)(文献を読む)
8. 文献調べ(180分)(文献を読む)
9. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
10. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
11. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
12. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
13. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
14. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
15. レポート作成(180分)(修士論文のテーマについて)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 基礎的な研究の方法論を理解することができる。(60~69点)
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: 演習内で適宜紹介する

授業・準備学習のアドバイス:
わかりやすく親切的な指導をしています。適宜弱点補強や実力チェックを行っています。

科目名: 心理臨床学演習 I

クラス:

授業コード: BJ00100004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個性性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

到達目標: 1 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

各回の授業計画:

1. 研究倫理基準や研究倫理規程の指導
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. 卒業論文の発表(3)
5. 卒業論文の発表(4)
6. 研究室紹介(各指導教員による)
7. 配属研究室の調整
8. 配属研究室の決定
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート(修士論文のテーマについて)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 卒論の発表とディスカッション
5. 卒論の発表とディスカッション
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12. レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)(研究倫理について)

2. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
3. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
4. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
5. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
6. 文献調べ(180分)(文献を読む)
7. 文献調べ(180分)(文献を読む)
8. 文献調べ(180分)(文献を読む)
9. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
10. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
11. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
12. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
13. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
14. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
15. レポート作成(180分)(修士論文のテーマについて)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 基礎的な研究の方法論を理解することができる(60~69点)
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる(80~100点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: 適宜授業中に紹介する

授業・準備学習のアドバイス:
わかりやすく親切的な指導をしています。適宜弱点補強や実力チェックを行っています。

科目名: 心理臨床学演習 I

クラス:

授業コード: BJ00100005

担当者: 三井 知代

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する、4) 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を迫る。

また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

到達目標: 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

各回の授業計画:

1. 研究倫理基準や研究倫理規程の指導
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. 卒業論文の発表(3)
5. 卒業論文の発表(4)
6. 研究室紹介(各指導教員による)
7. 配属研究室の調整
8. 配属研究室の決定
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート(修士論文のテーマについて)

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面で行うが、事情によりオンラインで行うときもある。

1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 卒論の発表とディスカッション
5. 卒論の発表とディスカッション
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12. レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)(研究倫理について)
2. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
3. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
4. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
5. 卒論発表の整理(180分)(卒論をまとめる)
6. 文献調べ(180分)(文献を読む)
7. 文献調べ(180分)(文献を読む)
8. 文献調べ(180分)(文献を読む)
9. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
10. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
12. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
13. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
14. レポート作成(180分)(文献をまとめる)
15. レポート作成(180分)(修士論文のテーマについて)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 基礎的な研究の方法論を理解することができる。(60~69点)
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバックを行う

教科書: なし

参考書: 講義内で紹介する

授業・準備学習のアドバイス:
大学院での研究の基盤となる重要な授業です。主体的に取り組んでください。

科目名: 心理臨床学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ00200001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 基礎的な理論と方法を理解し、自らの関心や問題意識と照合して、研究テーマを暫定的に作成する。その研究テーマに即して、関連文献・資料収集・分析し、研究テーマを次第に精緻化していく。専門分野である臨床心理学的研究における知識を院生に教授し、院生の修士論文テーマの設定、実施方法等について具体的に指導する。

到達目標: 大学院において研究を進めるために必要な準備と方向づけを行い、各自の興味、関心、将来の希望などに基づいて研究領域を選択し、研究論文のテーマを設定することを目標とする。

各回の授業計画:

1. 専門分野の文献講読と発表①
2. 専門分野の文献講読と発表②
3. 専門分野の文献講読と発表③
4. 専門分野の文献講読と発表④
5. 専門分野の文献講読と発表⑤
6. 研究テーマの精緻化と研究デザイン的具体化①
7. 研究テーマの精緻化と研究デザイン的具体化②
8. 研究テーマの精緻化と研究デザイン的具体化③
9. 研究テーマの精緻化と研究デザイン的具体化④
10. 研究テーマの精緻化と研究デザイン的具体化⑤
11. 個別指導①
12. 個別指導②
13. 個別指導③
14. 個別指導④
15. まとめとレポート(研究テーマに関することについて)

特記事項: なし

授業方法: 授業は基本的に対面授業で行うが、必要に応じてオンライン授業も行う。

1. レポート作成
2. レポート作成
3. レポート作成
4. レポート作成
5. レポート作成
6. 研究計画の作成
7. 研究計画の作成
8. 研究計画の作成
9. 研究計画の作成
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 論文作成
14. 論文作成
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
2. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
3. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)

4. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
5. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
6. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
7. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
8. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
9. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
10. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
11. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
12. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
13. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
14. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
15. 全体的な整理(180分)(修論について)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 研究を進めるために必要な準備と方向づけを行い、研究領域を選択することができる。(60~69点)
研究論文のテーマを設定し、研究計画を立てることができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
必要に応じて、口頭でフィードバックする。

教科書: なし

参考書: 学会誌や海外ジャーナル類などを適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。心理学に深い関心を持ち、深く考察しましょう。

科目名: 心理臨床学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ00200003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 提出された研究計画と春学期での議論を踏まえて、研究計画を検討することを目的とする。各自の関心に従って、授業時間以外に精読した先行論文を発表し、問題点を明らかにしながら、研究計画を具体化していく。

到達目標: 論文のより批判的な読み方ができるようになる。
引き出された問題点を、ディスカッションを通じて研究計画にまとめることができるようになる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 各自の研究の方向性の確認を行う
2. 先行論文の検索と紹介1: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する
3. 先行論文の検索と紹介2: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する
4. 先行論文の検索と紹介3: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する
5. 先行論文の精読と発表1: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
6. 先行論文の精読と発表2: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
7. 先行論文の精読と発表3: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
8. 先行論文の精読と発表4: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
9. 先行論文の精読と発表5: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
10. 先行論文の精読と発表6: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
11. 研究計画の立案1: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
12. 研究計画の立案2: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
13. 研究計画の立案3: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
14. 研究計画の立案4: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
15. まとめ: 次年度に向けて残されている問題点の洗い出しと課題を確認する

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔で実施することがある。

- 授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
2. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
3. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
4. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
5. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)

6. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
7. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
8. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
9. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
10. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
11. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
12. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
13. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
14. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
15. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
 レポートについては、以下に従って評価を決定する。
 30～34 課題のまとめがなされている。
 35～39 過不足のないまとめとなっている。
 40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
 45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

授業への取り組みについては適宜、レポートについては、添削した上で次年度の春学期に返却する。

教科書: なし

参考書: 福澤一吉 (2018). 新版議論のレッスン NHK生活人新書
 福澤一吉 (2010). 議論のルール NHK出版新書
 木下是雄 (1981). 理解系の作文技術 中公新書
 戸田山 和久 (2011). 「科学的思考」のレッスン-学校で教えてくれないサイエンス NHK出版新書

授業・準備学習のアドバイス:

指示待ちでなく、積極的・自発的な活動を期待します。

科目名: 心理臨床学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ00200004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学に関する先行研究を精読し、諸理論や研究計画の立案、研究の遂行、分析方法について学習する。その後、各自のテーマにおける文献購読と具体的な研究計画の立案と検討を行う。

到達目標: 自らの研究計画に応じた方法論の習得と具体的な研究の進め方について先行研究から学び、研究計画を立案できる。

各回の授業計画:

1. 先行研究精読と発表①
2. 先行研究精読と発表②
3. 先行研究精読と発表③
4. 先行研究精読と発表④
5. 先行研究精読と発表⑤
6. 先行研究精読と発表⑥
7. 研究デザインの検討・発表①
8. 研究デザインの検討・発表②
9. 研究デザインの検討・発表③
10. 研究デザインの検討・発表④
11. 個別指導①
12. 個別指導②
13. 個別指導③
14. 個別指導④
15. 個別指導⑤

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 討論
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
2. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
3. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
4. 関心あるテーマの文献を読む(180分)

5. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
6. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
7. 研究計画を考える(180分)研究方法
8. 研究計画を考える(180分)倫理面について
9. 研究計画を考える(180分)調査方法について
10. 研究計画を考える(180分)分析方法について
11. 修士論文の流れを考える(180分)
12. 修士論文の流れを考える(180分)
13. 修士論文の流れを考える(180分)
14. 修士論文の流れを考える(180分)
15. 修士論文の流れを考える(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 修士論文の計画を作成し、計画通りに進める(60~69点)
 修士論文について質の高い研究計画を作成し、主体的に研究を進めている(80~100点)

課題へのフィードバック:
 希望者に口頭でフィードバック

教科書: 学会誌など適宜紹介

参考書: 学会誌など適宜紹介

授業・準備学習のアドバイス:
 主体的な研究姿勢、積極的に学びに取り組んでいく情熱を期待しています。

科目名: 心理臨床学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ00200005

担当者: 三井 知代

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野における研究方法を理解し、自らの研究テーマに沿って先行研究を概観する。その上で研究テーマを決定し、研究計画の立案を行う。

到達目標: 先行研究を概観する中で、自らの研究テーマに応じた研究方法を選択し、具体的な研究計画を立案できる

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 文献講読と発表(1)
3. 文献講読と発表(2)
4. 文献講読と発表(3)
5. 文献講読と発表(4)
6. 文献講読と発表(5)
7. 研究デザインの検討と発表(1)
8. 研究デザインの検討と発表(2)
9. 研究デザインの検討と発表(3)
10. 研究デザインの検討と発表(4)
11. 個別指導(1)
12. 個別指導(2)
13. 個別指導(3)
14. 個別指導(4)
15. 個別指導(5)

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面で行うが、必要に応じてオンラインで行うこともある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 文献を読む(180分)
2. 文献を読む(180分)
3. 文献を読む(180分)
4. 文献を読む(180分)

5. 文献を読む(180分)
6. 文献を読む(180分)
7. 研究計画を検討する(180分)
8. 研究計画を検討する(180分)
9. 研究計画を検討する(180分)
10. 研究計画を検討する(180分)
11. 論文の流れを考える(180分)
12. 論文の流れを考える(180分)
13. 論文の流れを考える(180分)
14. 論文の流れを考える(180分)
15. 論文の流れを考える(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 60~69点: 修士論文作成の実行可能な計画を作成している
80~100点: 修士論文作成の緻密な研究計画を作成し、それによって主体的に研究を進めている

課題へのフィードバック:
発表時に適宜フィードバックを行う

教科書: なし

参考書: 授業内で紹介します

授業・準備学習のアドバイス:
数多くの先行研究を精読することにより、適切な研究計画が立案できます。研究の基盤をしっかりと固めてください。

科目名: 心理臨床学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BJ00300001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

到達目標: 修士論文を完成させることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 修士論文の研究計画発表と確認①
2. 修士論文の研究計画発表と確認②
3. 修士論文の研究計画発表と確認③
4. 修士論文の研究計画発表と確認④
5. 修士論文の研究計画発表と確認⑤
6. 修士論文の研究計画発表と確認⑥
7. 修士論文の研究計画発表と確認⑦
8. 修士論文の研究計画発表と確認⑧
9. 修士論文のデータの収集と分析①
10. 修士論文のデータの収集と分析②
11. 修士論文のデータの収集と分析③
12. 修士論文のデータの収集と分析④
13. 修士論文のデータの収集と分析⑤
14. 修士論文のデータの収集と分析⑥
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 基本的に対面授業を行うが、必要に応じてオンライン授業も行う。

1. 論文指導
2. 論文指導
3. 論文指導
4. 論文指導
5. 論文指導
6. 論文指導
7. 論文指導
8. 論文指導
9. 論文指導
10. 論文指導
11. 論文指導
12. 論文指導
13. 論文指導
14. 論文指導
15. 論文指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)
3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)

5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文の作成(180分)
15. 修士論文の作成(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進めることができる。(60~69点)
修士論文を完成させることができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。

科目名: 心理臨床学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BJ00300002

担当者: 大島 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野における修士論文作成のための指導を目的とする。まず演習Ⅰで形作られてきた研究計画に対して、問題意識、先行研究からの流れや位置付けを明確にした上で、個々の院生のオリジナリティーが発揮されるような研究方法を具現化しながら調査・実験などを積み重ね、修士論文を作成するプロセスをとる。

到達目標: 修士論文完成の完成に向けた論点の整理、調査の開始。

各回の授業計画:

1. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
2. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
3. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
4. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
5. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
6. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
7. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
8. 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味
9. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
10. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
11. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
12. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
13. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
14. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
15. 調査実験研究の途中経過報告およびまとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面 中間発表を通して個々人の情報の共有や相互の意見交換をする。一方で個別的な指導を並行させていく。

1. 個人指導
2. 個人指導
3. 個人指導
4. 個人指導
5. 個人指導
6. 個人指導
7. 個人指導
8. 個人指導
9. 個人指導
10. 個人指導
11. 個人指導
12. 個人指導
13. 個人指導
14. 個人指導
15. 討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 宿題:研究法・復習(180分)
2. 宿題:問題再確認・復習(180分)

3. 宿題:方法再確認・復習(180分)
4. 宿題:分析法再確認・復習(180分)
5. 宿題:題目案・復習(180分)
6. 宿題:題目案・復習(180分)
7. 宿題:調査法・復習(180分)
8. 宿題:倫理・復習(180分)
9. 宿題:調査・復習(180分)
10. 宿題:調査・復習(180分)
11. 宿題:調査・復習(180分)
12. 宿題:調査・復習(180分)
13. 宿題:調査・復習(180分)
14. 宿題:調査・復習(180分)
15. 宿題:調査・復習(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 修士論文の研究を着実に進め、しっかりと発表ができる(80~100点)
何とか修士論文の研究に着手している(60~69点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

考えること、結果を解釈することが興味深く、楽しくてしょうがなくなるような研究を目指しましょう。そうすると修士論文が自分の財産になります。

科目名: 心理臨床学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BJ00300003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標: 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

各回の授業計画:

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告(予定)
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔での参加を許可することがある。

- 授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する(各回4時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 議論の整合性 | | 50 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士、公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

科目名: 心理臨床学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BJ00300004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 各自の研究テーマや目的に基づいた研究計画に応じて、調査などを通じたデータの収集と分析を行い、修士論文の作成ができるレベルに到達する。

到達目標: 研究のテーマや目的に沿った研究方法による調査等を通して、データの収集と分析を完成することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(心理臨床学演習Ⅱの振り返り)
2. 研究のテーマ・目的・方法の確認(1)
3. 研究のテーマ・目的・方法の確認(2)
4. 研究のテーマ・目的・方法の確認(3)
5. データの収集(1)
6. データの収集(2)
7. データの収集(3)
8. データの分析(1)
9. データの分析(2)
10. データの分析(3)
11. データの検討(1)
12. データの検討(2)
13. 中間発表(1)
14. 中間発表(2)
15. まとめ(心理臨床学演習Ⅳに向けて)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 講義・発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 講義・発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 講義・発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 研究目的・テーマ・方法の検討(180分)
3. 研究目的・テーマ・方法の検討(180分)
4. 研究目的・テーマ・方法の検討(180分)

5. データ収集の検討(180分)
6. データ収集の検討(180分)
7. データ収集の検討(180分)
8. データの分析(180分)
9. データの分析(180分)
10. データの分析(180分)
11. データの総合的検討(180分)
12. データの総合的検討(180分)
13. 研究全体の検討(180分)
14. 研究全体の検討(180分)
15. 修士論文の完成に向けた検討(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 自らの研究テーマ・目的・方法に沿ったデータの収集ができる。(60~69点)
収集したデータを適切に分析することができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
各自のテーマに沿って、適宜フィードバックを行う。

教科書: 特になし

参考書: 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
各自のテーマに沿って、適宜フィードバックを行う。

科目名: 心理臨床学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BJ00400001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

到達目標: 修士論文を完成させることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換①
2. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換②
3. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換③
4. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換④
5. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑤
6. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑥
7. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑦
8. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑧
9. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑨
10. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑩
11. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑪
12. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑫
13. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑬
14. 最終確認
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面で行う。

1. 論文の発表と指導
2. 論文の発表と指導
3. 論文の発表と指導
4. 論文の発表と指導
5. 論文の発表と指導
6. 論文の発表と指導
7. 論文の発表と指導
8. 論文の発表と指導
9. 論文の発表と指導
10. 論文の発表と指導
11. 論文の発表と指導
12. 論文の発表と指導
13. 論文の発表と指導
14. 論文の発表と指導
15. 論文の発表と指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)
3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)

5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文のまとめ(180分)
15. 修士論文のまとめ(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 臨床心理学分野の先行研究を理解し、研究計画を進めることができる。(60~69点)
修士論文を完成させることができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
課題のフィードバックは、課題を発表させるなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。種々の心理学に対する深い関心、自分のテーマに関する深い考察をしましょう。

科目名: 心理臨床学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BJ00400002

担当者: 大島 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野における修士論文作成のための指導を目的とする。まず演習Ⅰで形作られてきた研究計画に対して、問題意識、先行研究からの流れや位置付けを明確にした上で、個々の院生のオリジナリティーが発揮されるような研究方法を具現化しながら調査・実験などを積み重ね、修士論文を作成するプロセスをとる。

到達目標: 修士論文完成

各回の授業計画:

1. 調査実験研究の途中経過報告(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など)
2. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
3. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
4. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
5. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
6. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
7. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
8. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
9. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
10. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
11. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
12. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
13. 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換(結果の解釈、考察、今後の展開など)
14. 最終確認
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面 中間発表を通して個々人の情報の共有や相互の意見交換をする。一方で個別的な指導を並行させていく。

1. 討論・個別指導
2. 討論・個別指導
3. 討論・個別指導
4. 討論・個別指導
5. 討論・個別指導
6. 討論・個別指導
7. 討論・個別指導
8. 討論・個別指導
9. 討論・個別指導
10. 討論・個別指導
11. 討論・個別指導
12. 討論・個別指導
13. 討論・個別指導
14. 討論・個別指導
15. 討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 宿題: 修士論文作成(180分)
2. 宿題: 修士論文作成(180分)

3. 宿題:修士論文作成(180分)
4. 宿題:修士論文作成(180分)
5. 宿題:修士論文作成(180分)
6. 宿題:修士論文作成(180分)
7. 宿題:修士論文作成(180分)
8. 宿題:修士論文作成(180分)
9. 宿題:修士論文作成(180分)
10. 宿題:修士論文作成(180分)
11. 宿題:修士論文作成(180分)
12. 宿題:修士論文作成(180分)
13. 宿題:修士論文作成(180分)
14. 宿題:口頭試問準備(180分)
15. 復習(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 優レベルの修士論文を作成し、試問でも十分な応答をする(80~100点)
基準に最低限の修士論文の作成(60~69点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
思ったよりも時間経過が早く、時間が足りなくなります。早めに動くようにしましょう。

科目名: 心理臨床学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BJ00400003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標: 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

各回の授業計画:

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔での参加を許可することがある。

- 授業方法:
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 議論の整合性 | | 50 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士、公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

科目名: 心理臨床学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BJ00400004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: これまでの研究の成果をもとに、質の高い修士論文を完成させる。

到達目標: これまでの研究をもとにして、質の高い修士論文を完成することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(心理臨床学演習Ⅲの振り返り)
2. 修士論文の内容の最終確認(1)
3. 修士論文の内容の最終確認(2)
4. 修士論文の内容の最終確認(3)
5. 修士論文の作成(1)
6. 修士論文の作成(2)
7. 修士論文の作成(3)
8. 修士論文の作成(4)
9. 修士論文の推敲(1)
10. 修士論文の推敲(2)
11. 修士論文の推敲(3)
12. 修士論文の推敲(4)
13. 口頭試問に向けて(1)
14. 口頭試問に向けて(2)
15. まとめ(研究の振り返りと今後の展望)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 講義・発表・討議
14. 講義・発表・討議
15. 討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 研究内容の最終確認(180分)
3. 研究内容の最終確認(180分)
4. 研究内容の最終確認(180分)

5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 作成した論文の推敲(180分)
10. 作成した論文の推敲(180分)
11. 作成した論文の推敲(180分)
12. 作成した論文の推敲(180分)
13. 口頭試問の準備(180分)
14. 口頭試問の準備(180分)
15. これまでの研究の整理と展望(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 研究を論文としてまとめることができる。(60~69点)
質の高い論文を作成することができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
各自のテーマに沿って、適宜フィードバックを行う。

教科書: 特になし

参考書: 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
修士論文作成の最終段階です。質の高い論文となるよう、広い視野をもつとともに細部にも細心の注意を払って、論文作成に取り組みましょう。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BJ10100001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

到達目標: 各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を執筆できるようにすることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 修士論文の年間スケジュールに関する全体討議
2. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討①
3. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討②
4. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討③
5. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討④
6. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑤
7. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑥
8. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション①
9. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション②
10. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション③
11. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション④
12. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション⑤
13. 修士論文の調査に関する指導①
14. 修士論文の調査に関する指導②
15. 修士論文の中間発表(予定)

特記事項: (授業方法)オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。
(授業計画)課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

授業方法: すべての授業を対面で行う。

1. 論文発表と指導
2. 論文発表と指導
3. 論文発表と指導
4. 論文発表と指導
5. 論文発表と指導
6. 論文発表と指導
7. 論文発表と指導
8. 論文発表と指導
9. 論文発表と指導
10. 論文発表と指導
11. 論文発表と指導
12. 論文発表と指導
13. 論文発表と指導
14. 論文発表と指導
15. 論文発表と指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)

3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)
5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文の作成(180分)
15. 修士論文の作成(180分)

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|----|---|---------------|---|---|--------------|----|---|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 | % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: 自分の設定したテーマ、研究方法、データ分析などを適切に行うことができる。(60~69点)
質の高い修士論文を執筆することができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。また相互ディスカッションも活発に行いましょう。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BJ10100002

担当者: 大島 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文作成に結びつく個人研究と心理臨床学専攻の教員、院生全員参加による課題研究。

到達目標: 広く発達臨床心理学に関係するテーマを設定し、研究方法・データの分析などについて検討し、考察を深めていく。質の高い修士論文作成のために力量を高めていく。研究指導教員とともに研究テーマを絞っていき、修士論文に結び付けていく。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションおよび今後の研究計画の全体的なスケジュール作成
2. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討①
3. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討②
4. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討③
5. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討④
6. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑤
7. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑥
8. 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討①
9. 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討②
10. 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討③
11. 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討④
12. 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討⑤
13. 中間発表準備
14. 中間発表①
15. 中間発表②

特記事項: なし

授業方法: オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色ある演習を行う。

1. 講義
2. 個別指導・討論
3. 個別指導・討論
4. 個別指導・討論
5. 個別指導・討論
6. 個別指導・討論
7. 個別指導・討論
8. 個別指導・討論
9. 個別指導・討論
10. 個別指導・討論
11. 個別指導・討論
12. 個別指導・討論
13. 個別指導
14. 討論
15. 討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 宿題:スケジュール作成(180分)
3. 宿題:文献研究(180分)

4. 宿題:文献研究(180分)
5. 宿題:文献研究(180分)
6. 宿題:文献研究(180分)
7. 宿題:研究法確認(180分)
8. 宿題:研究法確認(180分)
9. 宿題:研究倫理確認(180分)
10. 宿題:研究妥当性確認(180分)
11. 宿題:中間発表資料作成(180分)
12. 宿題:中間発表資料作成(180分)
13. 復習(180分)
14. 復習(180分)
15. 復習(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 修士論文の作成にあたり、しっかりとした研究計画が立てられ、それに向けて着実に進めていける(80～100点)
研究の基礎的なところを理解して、修士論文を進めていく(60～69点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
総合的な思考力を養うための課題演習であるのでがんばってほしい。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BJ10100003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理臨床学演習Ⅲと平行して、研究のためのノウハウ、論文作成のためのノウハウを獲得することを目的とする。

到達目標: 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

各回の授業計画:

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

特記事項: (授業方法)発表とディスカッションによって進める。
対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔での参加を許可することがある。また、随時個別指導を行う。

授業方法: 1～15を通じて、学生からの質問、疑問について議論することを中心に置く。特に学生からの論点の提起がない場合は、教員から提案する場合もある。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する(各回4時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 80 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 議論の整合性 | | 20 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。

その他の割合は、論文作成のルールの習得水準に基づいて評価する。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士、公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BJ10100004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理臨床学演習Ⅲと平行して、各自の修士論文作成に必要な具体的な知識やスキルを身につけさせることを目的とする。

到達目標: 研究のテーマ・目的に沿った研究方法による調査等に必要となる知識やスキルを獲得することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(特別研究の意味)
2. 先行研究の収集(1)
3. 先行研究の収集(2)
4. 先行研究の収集(3)
5. 先行研究の検討(1)
6. 先行研究の検討(2)
7. 先行研究の検討(3)
8. 先行研究の検討(4)
9. 論文作成のポイント(1)
10. 論文作成のポイント(2)
11. 論文作成のポイント(3)
12. 論文作成のポイント(4)
13. 中間発表の内容の検討(1)
14. 中間発表の内容の検討(2)
15. まとめ(特別研究Ⅱに向けて)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 発表・講義・討議
3. 発表・講義・討議
4. 発表・講義・討議
5. 発表・講義・討議
6. 発表・講義・討議
7. 発表・講義・討議
8. 発表・講義・討議
9. 発表・講義・討議
10. 発表・講義・討議
11. 発表・講義・討議
12. 発表・講義・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 先行研究の収集(180分)
3. 先行研究の収集(180分)
4. 先行研究の収集(180分)

5. 先行研究の分析(180分)
6. 先行研究の分析(180分)
7. 先行研究の分析(180分)
8. 先行研究の分析(180分)
9. 問題と目的の検討(180分)
10. 研究方法の検討(180分)
11. 研究結果の検討(180分)
12. 考察の検討(180分)
13. 中間発表の内容の作成(180分)
14. 中間発表の内容の作成(180分)
15. 修士論文の完成に向けた作業の確認(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 自らの研究テーマ・目的・方法に沿った論文作成のための知識やスキルを理解することができる(60~69点)
論文作成のための知識やスキルを適切に活用することができる(80~100点)

課題へのフィードバック:
各自のテーマに沿って、適宜フィードバックを行う。

教科書: 特になし

参考書: 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
修士論文作成のための知識やスキルを正確に身につけることは、質の高い論文作成に不可欠です。しっかりした論文を構築するために、能動的な態度での学習を望みます。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ10200001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

到達目標: 各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるようにすることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 修士論文完成に向けての個人指導①
2. 修士論文完成に向けての個人指導②
3. 修士論文完成に向けての個人指導③
4. 修士論文完成に向けての個人指導④
5. 修士論文完成に向けての個人指導⑤
6. 修士論文完成に向けての個人指導⑥
7. 修士論文完成に向けての個人指導⑦
8. 修士論文完成に向けての個人指導⑧
9. 修士論文完成に向けての個人指導⑨
10. 修士論文完成に向けての個人指導⑩
11. 修士論文完成に向けての個人指導⑪
12. 修士論文完成に向けての個人指導⑫
13. 修士論文完成に向けての個人指導⑬
14. 修士論文の最終確認
15. 研究成果の総括

特記事項: (授業方法)オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。
(授業計画)課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。

1. 論文の発表と指導
2. 論文の発表と指導
3. 論文の発表と指導
4. 論文の発表と指導
5. 論文の発表と指導
6. 論文の発表と指導
7. 論文の発表と指導
8. 論文の発表と指導
9. 論文の発表と指導
10. 論文の発表と指導
11. 論文の発表と指導
12. 論文の発表と指導
13. 論文の発表と指導
14. 論文の発表と指導
15. 論文の発表と指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)

3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)
5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文のまとめ(180分)
15. 修士論文のまとめ(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 自分の設定したテーマ、研究方法、データ分析などを適切に行うことができる。(60~69点)
質の高い修士論文を執筆することができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:

課題へのフィードバックは、課題を発表させるなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。また、相互ディスカッションも活発に行いましょう。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ10200002

担当者: 大島 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文作成に結びつく個人研究と心理臨床学専攻の教員、院生全員参加による課題研究。

到達目標: 広く発達臨床心理学に関係するテーマを設定し、研究方法・データの分析などについて検討し、考察を深めていく。質の高い修士論文作成のために力量を高めていく。研究指導教員とともに研究テーマを絞っていき、修士論文に結び付けていく。

各回の授業計画:

1. 夏休み中の進捗状況発表
2. 予備調査・データ収集準備①
3. 予備調査・データ収集準備②
4. データ収集および解析①
5. データ収集および解析②
6. データ収集および解析③
7. 先行研究との比較検討および考察作成①
8. 先行研究との比較検討および考察作成②
9. 先行研究との比較検討および考察作成③
10. 研究成果の概括
11. 研究成果の報告準備①
12. 研究成果の報告準備②
13. 研究成果の報告
14. まとめ①
15. まとめ②

特記事項: なし

授業方法: オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色ある演習を行う。

1. 討論・個別指導
2. 討論・個別指導
3. 討論・個別指導
4. 討論・個別指導
5. 討論・個別指導
6. 討論・個別指導
7. 討論・個別指導
8. 討論・個別指導
9. 討論・個別指導
10. 討論・個別指導
11. 討論・個別指導
12. 討論・個別指導
13. 討論・個別指導
14. 討論・個別指導
15. 討論・個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 宿題: 予備調査整理(180分)
3. 宿題: 予備調査整理(180分)

4. 宿題: 先行研究確認(180分)
5. 宿題: データ分析(180分)
6. 宿題: データ分析(180分)
7. 宿題: 考察案(180分)
8. 宿題: 考察案(180分)
9. 宿題: データ整合性(180分)
10. 宿題: 研究妥当性(180分)
11. 宿題: 本論文作成(180分)
12. 宿題: 本論文作成(180分)
13. 修士論文ふりかえり(180分)
14. 復習(180分)
15. 復習(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 質の高い研究法を身につけて、実証的に修士論文を作成(80～100点)
最低限の研究法を身につけて、修士論文の作成に利用(60～69点)

課題へのフィードバック:
希望者に口頭でフィードバック

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
総合的な思考力を養うための課題演習であるのでがんばってほしい。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ10200003

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標: 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

各回の授業計画:

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と、各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔での参加を許可することがある。
また随時個別指導も行う。

- 授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
 15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する(各回4時間)

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|--------|---|---------------|----|---|--------------|---|---|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 | % | 確認テスト: | - | % | レポート: | - | % |
| | その他1: | 議論の整合性 | | | 50 | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。
その他の割合は、統計学の適用を含めた論文作成のルール of 習得水準に基づいて評価する。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士、公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ10200004

担当者: 松本 剛

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理臨床学演習Ⅳと平行して、各自の論文作成の進捗に合わせた指導を受けることを通して、質の高い修士論文を完成させる。

到達目標: 論文作成の進捗に沿った学びを通して、質の高い修士論文を完成することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(特別研究Ⅰの振り返り)
2. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(1)
3. 全体での論文の検討(1)
4. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(2)
5. 全体での論文の検討(2)
6. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(3)
7. 全体での論文の検討(3)
8. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(4)
9. 全体での論文の検討(4)
10. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(5)
11. 全体での論文の検討(5)
12. 各自の論文作成の進捗に沿った個人指導(6)
13. 修士論文の最終確認(1)
14. 修士論文の最終確認(2)
15. まとめ(研究の総括)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 修士論文の作成(180分)
3. 修士論文の検討(180分)
4. 修士論文の作成(180分)

5. 修士論文の検討(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の検討(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の検討(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の検討(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の確認(180分)
14. 修士論文の確認(180分)
15. 修士論文の振り返りと今後の活用(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 自らの研究テーマ・目的・方法に沿った論文を完成させることができる(60~69点)
論理性や独自性などに優れた、総合的に質の高い論文を完成させることができる(80~100点)

課題へのフィードバック:
各自のテーマに沿って、適宜フィードバックを行う。

教科書: 特になし

参考書: 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
これまでの研究の成果としての修士論文を完成させる時期です。理論的にも実践的にも意味のある質の高い論文を期待します。

科目名: 臨床心理学特論 I

クラス:

授業コード: BJ20100001

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学は、科学、理論、実践とを統合して人間の行動や心的過程の問題に関わる学問である。この授業では、科学者-実践者モデルに軸足を置いて、臨床心理学という学問がどのような体系から成り立っているかを理解することを目的とする。

到達目標:

1. 臨床心理学の基本構造と体系を把握すること。
2. 臨床心理学が科学的な研究活動と説明責任を果たすことのできる実践活動とに支えられていることを理解する。
3. 臨床心理学を支えている基本的な理論の概要を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学の全体構造、カウンセリング・心理療法・臨床心理学の違い
3. 世界の臨床心理学と日本の臨床心理学
4. 臨床心理学における実践活動と研究活動
5. 臨床心理学の基本理論(1) ナラティブ・アプローチ、社会構成主義
6. 臨床心理学の基本理論(2) エンパワメント、エビデンス・ベースト・アプローチ
7. 臨床心理学の基本理論(3) 科学者-実践者モデル
8. 臨床心理学の基本理論(4) 生物-心理-社会モデル
9. 臨床心理学の基本理論(5) 実践の全体像
10. アセスメントの目的と技法
11. 様々な介入技法
12. 臨床心理学における一般化と個別性
13. 臨床心理学における社会的責任
14. 臨床心理士になるために
15. まとめ

特記事項: 対面での実施が原則であるが、遠隔で実施することがある。

授業方法:

1. 講義
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
15. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学部で使用した教科書参考書を用いて臨床心理学についての復習(90分)、学んだ内容との違いについての復習(90分)。
2. 計画に示されている内容について教科書の予習(90分)、学んだ内容との違いについての復習(90分)。
3. 計画に示されている内容について教科書の予習(90分)、学んだ内容との違いについての復習(90分)。
4. 計画に示されている内容について教科書の予習(90分)、学んだ内容との違いについての復習(90分)。

5. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
6. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
7. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
8. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
9. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
10. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
11. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
12. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
13. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
14. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
15. これまで学んだ内容に基づいたレポート作成の準備 (180分)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
 レポートについては、以下に従って評価を決定する。
 36～41 課題のまとめがなされている。
 42～47 過不足のないまとめとなっている。
 48～53 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
 54～60 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 下山 晴彦 (2010) 臨床心理学1 これからの臨床心理学 東京大学出版会
 伊藤 絵美・坂本 真士・杉山 崇 (編) (2011). 事例でわかる心理学のうまい活かし方-基礎心理学の臨床的ふだん使い 金剛出版
 下山晴彦・中嶋義文 (編) (2016) 精神医療・臨床心理の知識と技法 医学書院

授業・準備学習のアドバイス:

臨床心理学=カウンセリングと誤解している人がいるかもしれません。また、臨床心理学を学ぶことはテクニックを学ぶことではありません。
 現代の臨床心理学の全体像をきちんと把握するためにも、自ら積極的に学んで下さい。

科目名: 臨床心理学特論Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ20200001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 担当教員は兵庫県のスクールカウンセラーとして20年、スクールカウンセラーのスーパーバイザーとして9年間、学生相談員として26年の臨床経験があり、その勤務経験を活かし、具体的な事例を交えながら実務の視点も積極的に取り入れた授業を実施します。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学に関する原理について学び、またカウンセリングや心理療法の実践について文献のレビューを行い、考察していく。様々な精神疾患(強迫神経症、パニック障害、精神分裂病、境界例)の理解、及び対人援助技術、精神分析的な心理療法、認知行動療法、家族療法などについて理解を深めていくことを目的とする。

到達目標: 臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性についての理解を確立し、種々の臨床場面で柔軟な対応ができるようにすること。

各回の授業計画:

1. 臨床心理学に関する基本的な理論、心理アセスメントと心理的援助と精神医学的診断の三角形について解説し、文献を紹介する。
2. 臨床心理学の原理①
3. 臨床心理学の原理②
4. 臨床心理学の原理③
5. 精神医学的診断①
6. 精神医学的診断②
7. 精神医学的診断③
8. 種々の心理療法①
9. 種々の心理療法②
10. 教育臨床の課題と展望
11. 病院臨床の課題と展望
12. 福祉臨床の課題と展望
13. 司法・犯罪臨床の課題と展望
14. 産業・労働臨床の課題と展望
15. まとめとレポート

特記事項: なし

授業方法: 基本的には対面で演習形式で行うが、場合によって適宜オンラインで行う。

1. 課題と発表
2. 課題と発表
3. 課題と発表
4. 課題と発表
5. 課題と発表
6. 課題と発表
7. 課題と発表
8. 課題と発表
9. 課題と発表
10. レポート発表とディスカッション
11. レポート発表とディスカッション
12. レポート発表とディスカッション
13. レポート発表とディスカッション
14. レポート発表とディスカッション
15. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 課題解決(180分)(臨床心理学の基本について)
2. 課題解決(180分)(臨床心理学の原理について①)

3. 課題解決(180分)(臨床心理学の原理について②)
4. 課題解決(180分)(臨床心理学の原理について③)
5. 課題解決(180分)(精神医学的診断について①)
6. 課題解決(180分)(精神医学的診断について②)
7. 課題解決(180分)(種々の心理療法について①)
8. 課題解決(180分)(種々の心理療法について②)
9. 課題解決(180分)(種々の心理療法について③)
10. レポート作成(180分)(教育臨床について)
11. レポート作成(180分)(病院臨床について)
12. レポート作成(180分)(福祉臨床について)
13. レポート作成(180分)(司法・犯罪について)
14. レポート作成(180分)(産業・労働について)
15. 課題と展望のまとめ(180分)(これからの臨床心理士について)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性について理解できる。(60~69点)
臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性について理解でき、種々の臨床場面で柔軟な対応ができる。(80~100点)

課題へのフィードバック:

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし(随時、資料配布)

参考書: なし(随時、資料配布)

授業・準備学習のアドバイス:

臨床心理学関係の文献をなるべくたくさん読むようにしましょう。それを基に自由に臨床査定、精神医学的診断、心理療法などについて生き生きと議論しましょう。

8回目と15回目に課題レポートを実施(時間:30分、配点:50点)

科目名: 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

クラス:

授業コード: BJ21100001

担当者: 松本 剛

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理面接の基盤となる考え方や重要なポイントを整理し、そのうえで面接の基本的な方法やスキルについての理解を深める。

到達目標: 臨床心理面接の基盤となる考え方をもとに、面接の基本的な方法を理解することができる。

各回の授業計画:

- オリエンテーション 授業の方法について紹介します。臨床心理面接について話し合います。
2. 臨床心理面接とは 臨床心理面接・カウンセリング面接の特徴について紹介します。それをもとに話し合います。
3. 面接の構造 臨床心理面接の要素について講義します。臨床心理面接の共通要因とさまざまな対象に応じた独自要因について考えます。
4. 面接の構造の検討 臨床心理面接のプロセスについて紹介します。話し合いにより理解を深めます。
5. インテーク面接とは 面接を始めるにあたって行われるインテーク面接の重要性について考えます。また、インテーク面談に活かすことができる傾聴や質問について演習します。
6. 初回面接の検討 初回面接の役割について知り、その際の関係性の構築について考えます。
7. 見立て・アセスメント・診断とは クライアントとの面接を進めるにあたって必要な、アセスメントとそれに必要な技法について考えます。
8. 臨床心理面接の展開・治療（サイコセラピー）関係1 さまざまな臨床心理面接に関する関係性の持ち方について紹介します。
9. 臨床心理面接の展開・心理治療（サイコセラピー）関係2 さまざまな臨床心理面接・治療関係を深めるための技法や関係性について考えます。
10. 心理治療（サイコセラピー）関係の検討 治療関係を深めるための技法について考えます。
11. 治療（サイコセラピー）関係の展開1 臨床心理面接を進めるにあたって必要な心理療法について概説し、話し合います。
12. 治療（サイコセラピー）関係の展開2 臨床心理面接を進めるにあたって必要なセラピストとクライアントの関係について演習しながら考えます。
13. 治療（サイコセラピー）関係の展開3 臨床心理面接を進め、終結に至るに至るにあたって必要なセラピストとクライアントのセラピー関係について考えます。
14. 守秘義務等の倫理的課題、終結・中断、事後面接について 臨床心理面接を進めるにあたって必要な倫理的課題について紹介し、話し合います。また、臨床心理面接の終わり方、事後面接について考えます。
15. まとめ（臨床心理面接に関わる総合的な議論）

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 講義・討議・発表・レポート
3. 講義・討議・発表・レポート
4. 講義・討議・発表・レポート
5. 講義・討議・発表・レポート
6. 講義・討議・発表・レポート
7. 講義・討議・発表・レポート
8. 講義・討議・発表・レポート
9. 講義・討議・発表・レポート
10. 講義・討議・発表・レポート
11. 講義・討議・発表・レポート
12. 講義・討議・発表・レポート
13. 講義・討議・発表・レポート
14. 講義・討議・発表・レポート
15. 討議・全体レポート

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. これまでの臨床心理面接に関する学習の振り返り(180分)
2. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
3. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
4. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
5. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
6. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
7. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
8. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
9. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
10. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
11. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
12. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
13. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
14. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
15. 課題の整理(総合レポート)(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 臨床心理面接の基盤となる考え方を理解できる。(60～69点)
面接の実践力の基礎を身につけることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

必要に応じて、適宜、個別または全体にフィードバックする。

教科書: 特になし。

参考書: 授業において、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

具体的な面接場面をイメージし、自らがカウンセラーやクライアントになったときに必要な心構えや技法について学ぶ姿勢で授業に臨んでください。演習を適宜加えます。

科目名: 臨床心理面接特論Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ21200001

担当者: 吉田 圭吾

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 担当教員は兵庫県のスクールカウンセラーとして20年、スクールカウンセラーのスーパーバイザーとして9年間、学生相談員として26年の臨床経験があり、その勤務経験を活かし、具体的な事例を交えながら実務の視点も積極的に取り入れた授業を実施します。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理面接とは、心理学的な立場からの対人支援の中心的方法を指している。このような視座から、本授業の目的とは、教育現場における人が抱えるさまざまな心理社会的な課題とその支援としての面接のあり方について理解を深める。現代の教育現場である中学校において、不登校・摂食障害・いじめ・解離性障害・対人恐怖・リストカット症候群・アスペルガー障害、学習障害などの問題行動や異常心理、発達障害が表れることが増加してきており、スクールカウンセラーやカウンセリングルームの心理相談員がそれらの対応に迫られる機会が増えている。そのような問題行動や発達障害への心理相談員やスクールカウンセラーの対応の仕方、保護者との連携の仕方、校内の教育相談のシステムの作り方、教師とスクールカウンセラーとスクールサポーターとの連携の仕方などについて学ぶことを目標とする。

到達目標: 現代の教育現場における種々の問題を教師やカウンセラーとして解決していける、臨床心理的面接の基本的な知識及び態度を養うことを目標とする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(教育相談とは:学校現場における現状)
資料に基づき、学校現場における教育相談やスクールカウンセリングの現状を説明する。
2. 現代の中高生の抱える問題
3. カウンセリングの原理(来談者中心療法)
4. サイコダイナミック・アプローチ
5. 教育現場における臨床心理面接の鉄則
6. 不登校生徒の心理
7. 教育現場における臨床心理面接に影響を与える性格特性
8. 教育現場における臨床心理面接の鉄則のまとめ
9. 子どもの発達段階における母親と父親
10. 不登校の生徒の心の成長
11. 思春期と摂食障害(拒食症)
12. 家族療法と心理療法
13. いじめとスクールカースト
14. 学校現場とLGBTQA+
15. 子育てのサポートネットワークとまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義・討議(対面)
4. 討議(対面)
5. 講義・討議(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義・討議・レポート(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義・討議(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義・討議(対面)
14. 講義・討議(対面)
15. 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. これまでの学習の振り返り(180分)
2. 課題の検討(180分)
3. 課題の検討(180分)
4. 課題の検討(180分)
5. 課題の検討(180分)
6. 課題の検討(180分)
7. 課題の検討(180分)
8. 課題のレポート(180分)
9. 課題の検討(180分)
10. 課題(180分)
11. 課題の検討(180分)
12. 課題の検討(180分)
13. 課題の検討・レポート(180分)
14. 課題の検討(180分)
15. 課題の整理・レポート(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: さまざまな心理社会的課題について理解できる。(60～69点)
 さまざまな心理社会的課題に対応するための臨床心理面接の方法を身につけることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:

授業の中で、個別または集団に対して、適宜フィードバックを行う。

教科書: 吉田圭吾 教師における教育相談の技術 金子書房

参考書: 授業の中で、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

スクールカウンセラーや心理相談員になったとき、どのように子どもや保護者の心理社会的な課題を解決していけばよいかを考えながら、積極的・主体的に取り組んでください。

科目名: 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)

クラス:

授業コード: BJ22100001

担当者: 大島 剛、吉野 俊彦

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:[大島]児童相談所心理判定員

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 公認心理師や臨床心理士の実践現場でよく用いられる心理的アセスメントについて、その意義や理論と方法の理解および実際のスキルの習得をめざす。またこれらを心理に関する相談、助言、指導等へ応用する能力を身につける。前半では、主に質問紙法による人格査定について概括し、後半部分では、知能検査や発達検査を学び、事例研究も交えていく。

到達目標: 公認心理師および臨床心理士として、心理的アセスメントの意義や理論と方法を理解して、現場においてこれらを心理に関する相談、助言、指導等に応用できる基本的能力を身につける。

各回の授業計画:

1. 心理的アセスメントの意義(大島、吉野)
2. 質問紙法による人格の査定1(吉野)
MMPI, TEG, NEO-PI-R, PFスタディ, クレベリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
3. 質問紙法による人格の査定2(吉野)
MMPI, TEG, NEO-PI-R, PFスタディ, クレベリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
4. 質問紙法による人格の査定3(吉野)
MMPI, TEG, NEO-PI-R, PFスタディ, クレベリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
5. 病院臨床で用いられる特性の査定1(吉野)
BDI, STAI, CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
6. 病院臨床で用いられる特性の査定2(吉野)
BDI, STAI, CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
7. 病院臨床で用いられる特性の査定3(吉野)
BDI, STAI, CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
8. 質問紙による査定の特徴と問題点、測定することの意味とその問題点についての議論(吉野)
9. WISC-Ⅲの実施方法、解釈の基礎1(大島)
10. WISC-Ⅳ、Ⅴの実施方法、解釈の基礎2(大島)
11. 新版K式発達検査2020の理論と方法(大島)
12. 新版K式発達検査2020の実践ロールプレイ(大島)
13. 新版K式発達検査2020のスコア(大島)
14. 新版K式発達検査2020の解釈(大島)
15. WISCおよび新版K式発達検査2020を用いた助言・指導(大島)

特記事項: なし

授業方法: 対面 前半では吉野が担当し、質問紙等による人格検査について、基礎的な理論や背景、施行方法、解釈のポイントを習得した上で、単なる実習体験だけでなく、質問紙による測定の問題点と意味を批判的に考えることに主眼をおく。後半では大島が担当し、知能検査の代表格であるWISCと発達検査の代表格である新版K式発達検査について施行方法を習得した上で、事例を交えて解釈の実践を体験していく。また臨床現場で相談、助言、指導等に应用的に用いる方法にも触れる。

1. 講義
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習

11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:統計学(90分)・復習(90分)
2. 予習:性格心理学・パーソナリティ(90分)・復習(90分)
3. 予習:性格心理学・パーソナリティ(90分)・復習(90分)
4. 予習:性格心理学・パーソナリティ(90分)・復習(90分)
5. 予習:臨床心理アセスメント(90分)・復習(90分)
6. 予習:臨床心理アセスメント(90分)・復習(90分)
7. 予習:臨床心理アセスメント(90分)・復習(90分)
8. 予習:臨床心理アセスメント(90分)・レポート作成(90分)
9. 予習:WISC(90分)・復習(90分)
10. 予習:WISC(90分)・復習(90分)
11. 予習:新版K式発達検査(90分)・復習(90分)
12. 予習:新版K式発達検査(90分)・復習(90分)
13. 予習:新版K式発達検査(90分)・復習(90分)
14. 予習:新版K式発達検査(90分)・復習(90分)
15. レポート作成(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 心理検査を理解して、現場で使えるだけの基礎知識を持つ(80～100点)
最低限の検査に関する知識を持つ(60～69点)

課題へのフィードバック:

授業中に適宜フィードバックを行う

教科書: 大島他(2013)『発達相談と新版K式発達検査』明石書店

参考書: 上里一郎監修(2001)『心理アセスメントハンドブック』(第2版) 西村書店
山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
小塩真司(2011)『性格を科学する心理学のはなしー血液型性格判断に別れを告げよう』新曜社
小塩真司(2010)『はじめて学ぶパーソナリティ心理学ー個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房
下山 晴彦(2008)『臨床心理アセスメント入門ー臨床心理学は、どのように問題を把握するのか』金剛出版

授業・準備学習のアドバイス:

各担当がそれぞれ適宜レポート課題を出します。
臨床現場でよく用いる心理検査です。「知っている」ではなく「使える」というレベルを目指しましょう。

科目名: 臨床心理査定演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ22200001

担当者: 大島 剛、吉田 圭吾

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔大島〕児童相談所心理判定員
〔吉田〕病院の臨床心理士

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床現場でよく用いられる心理検査(投射法)について、特に重要と思われる「描画法」と「ロールシャッハテスト」を担当教員がそれぞれ担当し、徹底習得を目指す。

到達目標: 現場で実践的に使える準備性を持つ。

各回の授業計画:

1. 描画法全般の効用と限界および留意点(大島)
2. 樹木画テストの方法と解釈、留意点(大島)
3. 自然樹木画描画法の体験(大島)
4. 人物画テストの方法と解釈、留意点(大島)
5. HTPテストの方法と解釈、留意点(大島)
6. 風景構成法の方法、留意点(大島)
7. 風景構成法の解釈とその応用(大島)
8. 描画法のまとめと報告の仕方(大島)
9. ロールシャッハテストの原理と目的(吉田)
10. ロールシャッハテストの実施方法1(吉田)
11. ロールシャッハテストの記号化①(吉田)
12. ロールシャッハテストの記号化②(吉田)
13. ロールシャッハテストの解釈(吉田)
14. ロールシャッハテストの解釈のまとめと報告の仕方(吉田)
15. テストバッテリーについて(吉田)

特記事項: なし

授業方法: 対面 前半では、大島が担当し、さまざまな描画法を体験、いろいろなデータを鑑賞し、それぞれの描画法の施行方法と解釈、その応用について実践的に学ぶ。
後半では、吉田が担当する。ロールシャッハテストは人によって異なる知覚の仕方から、その人の生活経験や感情・欲求・葛藤や性格などを知り、パーソナリティを明らかにしようとする心理テストである。そのテストの実施と記号化の方法、結果の解釈の仕方について臨床的な視点から考察を深める。またテストバッテリーに関しても解説する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 描画法復習(180分)
2. 宿題:樹木画法の復習(180分)
3. 宿題:自然樹木画の復習(180分)
4. 宿題:人物画法の復習(180分)
5. 宿題:HTP法の復習(180分)
6. 宿題:風景構成法の復習(180分)
7. 宿題:検査法解釈の復習(180分)
8. 宿題:レポート作成(180分)
9. ロールシャッハの予習(180分)
10. 宿題:ロールシャッハの実施方法(180分)
11. 宿題:記号化①(180分)
12. 宿題:記号化②(180分)
13. 宿題:解釈(180分)
14. 宿題:解釈のまとめと報告の仕方(180分)
15. 宿題:テストバッテリー(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 描画法・ロールシャッハ法についての十分な理解があり、実践で利用できる準備ができている(80～100点)
描画法・ロールシャッハ法の最低限の理解があり、一応実施できる(60～69点)

課題へのフィードバック:

授業内外で適宜フィードバックを行う

教科書: なし

参考書: 高石浩一・谷口高士『心理学実習 基礎編』培風館
片岡安史『改訂 新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究』金子書房

授業・準備学習のアドバイス:

前半、後半でそれぞれの担当者が、事例(実践例)に基づくレポート課題を出題します。
臨床現場では必須の心理検査です。現場に出て即使用できるレベルを目指します。

科目名: 臨床心理基礎実習

クラス:

授業コード: BJ23100001

担当者: 古川 心、椎野 智子

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
〔古川〕臨床心理士、公認心理師(保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、病院臨床、指定大学院附属相談室での臨床心理活動)
〔椎野〕臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニックにて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本実習は、臨床心理士になるための必要不可欠な資質を身につけることを目的とする。主として、心理相談業務の把握と実践的技術の習得、および心理臨床家として相応しい姿勢を体得することの「難しさ」を経験してもらう。

到達目標: 臨床心理実習における実践(ケース担当)に要求される水準までの資質の向上

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 臨床心理士・公認心理師養成コースのカリキュラム
3. 心理職の倫理①
4. 心理職の倫理②
5. 心理面接の目的
6. 心理面接の方法
7. 心理教育相談室の業務(初回面接・治療構造)
8. 心理教育相談室の業務(見立て・面接記録)
9. 心理相談室の見学実習
10. 相談申し込みのロールプレイ①
11. 相談申し込みのロールプレイ②
12. 相談申し込みのロールプレイ③
13. 相談申し込みのロールプレイ④
14. 相談申し込みのロールプレイ⑤
15. 病院臨床の実際
16. 教育臨床の実際
17. 心理面接の技法訓練(基本的傾聴)
18. 心理面接の技法訓練(基本的傾聴ロールプレイ)
19. 心理面接の技法訓練(質問技法)
20. 心理面接の技法訓練(要約技法)
21. 初回面接のロールプレイ①
22. 初回面接のロールプレイ②
23. 初回面接のロールプレイ③
24. 初回面接のロールプレイ④
25. 初回面接のロールプレイ⑤
26. 初回面接のロールプレイ⑥
27. 初回面接のロールプレイ⑦
28. 初回面接のロールプレイ⑧
29. 初回面接のロールプレイ⑨
30. まとめとレポート(ロールプレイの振り返りについて)

特記事項: なし

授業方法: 基本的にすべて対面で実施する。

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 実習
10. ロールプレイの振り返り
11. ロールプレイの振り返り
12. ロールプレイの振り返り
13. ロールプレイの振り返り
14. ロールプレイの振り返り
15. レポート発表と実習
16. レポート発表と実習
17. レポート発表と実習
18. レポート発表と実習
19. レポート発表と実習
20. レポート発表と実習
21. ロールプレイと振り返り
22. ロールプレイと振り返り
23. ロールプレイと振り返り
24. ロールプレイと振り返り
25. ロールプレイと振り返り
26. ロールプレイと振り返り
27. ロールプレイと振り返り
28. ロールプレイと振り返り
29. ロールプレイと振り返り
30. レポート作成

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 紹介された関連論文を読む(180分)
2. 紹介された関連論文を読む(180分)
3. 紹介された関連論文を読む(180分)
4. 紹介された関連論文を読む(180分)
5. 紹介された関連論文を読む(180分)
6. 紹介された関連論文を読む(180分)
7. 紹介された関連論文を読む(180分)
8. 紹介された関連論文を読む(180分)
9. 紹介された関連論文を読む(180分)
10. ロールプレイの準備と整理(180分)
11. ロールプレイの準備と整理(180分)
12. ロールプレイの準備と整理(180分)
13. ロールプレイの準備と整理(180分)
14. ロールプレイの準備と整理(180分)
15. 紹介された関連論文を読む(180分)
16. 紹介された関連論文を読む(180分)
17. 紹介された関連論文を読む(180分)
18. 紹介された関連論文を読む(180分)
19. 紹介された関連論文を読む(180分)
20. 紹介された関連論文を読む(180分)
21. ロールプレイの準備と整理(180分)
22. ロールプレイの準備と整理(180分)
23. ロールプレイの準備と整理(180分)
24. ロールプレイの準備と整理(180分)
25. ロールプレイの準備と整理(180分)
26. ロールプレイの準備と整理(180分)
27. ロールプレイの準備と整理(180分)

28. ロールプレイの準備と整理(180分)
 29. ロールプレイの準備と整理(180分)
 30. ロールプレイの全体的まとめ(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ケース担当 における基本的な能力を身につけている。(60~69点)
 ケース担当における応用的な能力を身につけている。(80~100点)

課題へのフィードバック:

課題のフィードバックは、課題を発表させたりすることで全体的な評価を行う。

教科書: なし
 関連書および資料については適宜紹介し、必要に応じて配布する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

可能な限り感じたことを言葉にする努力をしてください。毎回のセッションの内容については守秘義務を厳守してください。
 授業への積極的な取り組み、職業人としての倫理的視点を重視して評価します。

科目名: 臨床心理実習Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ23200001

担当者: 大島 剛、古川 心、椎野 智子、松本 剛、吉田 圭吾、三井 知代

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
 [大島]児童相談所心理判定員
 [三井]病院の臨床心理士
 [吉田]スクールカウンセラー
 [松本]スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理・教育相談室において担当したケースについて報告するインテーク・カンファレンスおよびケース・カンファレンスに発表および積極的ディスカッションに参加することを通して、心理臨床家に必要な基本的スキル、倫理および態度を養うことを目的とする。また病院実習への参加も義務づけられている。

到達目標: 心理臨床家としての実務体験およびケース報告を通して、臨床家に必要な基本的スキル、倫理、および態度を身につける。

各回の授業計画:

(春学期)

1. オリエンテーション(心理・教育相談室、病院実習)
2. ケース・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. インテーク・カンファレンス
6. ケース・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. インテーク・カンファレンス
10. ケース・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. インテーク・カンファレンス
14. ケース・カンファレンス
15. ケース・カンファレンス

(秋学期)

1. オリエンテーション(病院実習)
2. インテーク・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. ケース・カンファレンス
6. インテーク・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. ケース・カンファレンス
10. インテーク・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. ケース・カンファレンス
14. 終結・中断・継続・リファーマ等のケース検討
15. 病院実習・総括

特記事項: なし

授業方法: (春学期)

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 討論

(秋学期)

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(春学期)

1. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
2. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
3. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
4. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
5. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
6. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
7. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
8. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
9. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
10. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
11. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
12. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
13. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
14. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
15. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)

(秋学期)

1. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
2. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
3. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
4. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
5. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)

6. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
7. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
8. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
9. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
10. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
11. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
12. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
13. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
14. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
15. 1年間の振り返り(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | 病院実習 | | 10 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ケースを持つことに対する倫理、心理的なメカニズム、心理療法の効用と限界が理解できて、自分のケースにも反映できる。(80～100点)
 ケースを持つことに対して最低限の理解と能力を持つ(60～69点)

課題へのフィードバック:
 カンファレンス資料として授業中にフィードバックされる。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

積極的な参加を通して、心理臨床家に必要な基本的スキルおよび態度を身につけてほしい。カンファレンスで積極的に発言することにより「授業の取り組み」が評価されます。

科目名: 臨床心理実習 I (心理実践実習A)

クラス:

授業コード: BJ23260001

担当者: 大島 剛、古川 心、吉田 圭吾、椎野 智子、吉野 俊彦、三井 知代、松本 剛

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:
[大島]児童相談所心理判定員
[三井]病院の臨床心理士
[吉田]スクールカウンセラー
[松本]スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理の知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。学内の心理・教育相談室のケースにおけるカンファレンスを通して、以下について修得をめざす。

- ア) 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識および技能の習得
イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成

到達目標: 心理に関する支援を要する者等に対して、適切な心理的アセスメント等を通して、理解とニーズの把握を行い、支援計画を作成し、心理面接などを駆使しながら支援をしていける素養を習得する。

各回の授業計画:

また、ケースカンファレンスに参加、終了後に相談室のケースおよび実習に関する報告や事前事後指導を受ける。

(春学期)

1. オリエンテーション(心理・教育相談室、病院実習)
2. ケース・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. インテーク・カンファレンス
6. ケース・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. インテーク・カンファレンス
10. ケース・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. インテーク・カンファレンス
14. ケース・カンファレンス
15. ケース・カンファレンス

(秋学期)

1. オリエンテーション(病院実習)
2. インテーク・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. ケース・カンファレンス
6. インテーク・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. ケース・カンファレンス
10. インテーク・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. ケース・カンファレンス
14. 終結・中断・継続・リファー等のケース検討
15. 病院実習・総括

特記事項: なし

授業方法: (春学期)

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 討論

(秋学期)

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

(春学期)

1. カンファレンスにおける基礎知識の復習(180分)
2. カンファレンス参加の経験整理(180分)
3. カンファレンス参加の経験整理(180分)
4. カンファレンス参加の経験整理(180分)
5. カンファレンス参加の経験整理(180分)
6. カンファレンス参加の経験整理(180分)
7. カンファレンス参加の経験整理(180分)
8. カンファレンス参加の経験整理(180分)
9. カンファレンス参加の経験整理(180分)
10. カンファレンス参加の経験整理(180分)
11. カンファレンス参加の経験整理(180分)
12. カンファレンス参加の経験整理(180分)
13. カンファレンス参加の経験整理(180分)
14. ロールプレイの振り返り(180分)
15. 実習先の予習(180分)

(秋学期)

1. カンファレンスにおける基礎知識の復習(180分)
2. カンファレンス参加の経験整理(180分)

3. カンファレンス参加の経験整理(180分)
4. カンファレンス参加の経験整理(180分)
5. カンファレンス参加の経験整理(180分)
6. カンファレンス参加の経験整理(180分)
7. カンファレンス参加の経験整理(180分)
8. カンファレンス参加の経験整理(180分)
9. カンファレンス参加の経験整理(180分)
10. カンファレンス参加の経験整理(180分)
11. カンファレンス参加の経験整理(180分)
12. カンファレンス参加の経験整理(180分)
13. カンファレンス参加の経験整理(180分)
14. 実習事例に関する振り返り(180分)
15. 1年間の振り返りレポート作成(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 80 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 20 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ケースを持つことの本質的な理解とその準備が整う(80～100点)
 ケースに対する心構えと意欲を持つ(60～69点)

課題へのフィードバック:
 カンファレンス時および適宜フィードバックがされる。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

公認心理師、臨床心理士養成の根幹をなす実習である。積極的に参加する態度で臨んでほしい。カンファレンスで積極的に発言することにより「授業の取り組み」が評価されます。

科目名: 臨床心理実習 I (心理実践実習B)

クラス:

授業コード: BJ23280001

担当者: 大島 剛、吉田 圭吾、三井 知代、吉野 俊彦、古川 心、椎野 智子、松本 剛

単位数: 8

科目に関連した実務経験: 実務経験有: (大島) 児童相談所心理判定員 (三井) 病院の臨床心理士 (吉田) スクールカウンセラー (松本) スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理専門職が働く実践現場に赴き、現場実習ないし見学実習を通して得られた実務経験から、公認心理師・臨床心理士としての基本的な能力の修得を目的とする。学内の心理・教育相談室と5領域(医療保健、教育、福祉、産業、司法犯罪)の実践現場において、既定の実習時間数以上を経験する。大学院修了後、資格修得後に就職する職場での心理専門職としてのあり方を学ぶ。

到達目標: 実際に就職した場合に、最低限の業務がこなせるようになること。

各回の授業計画:

実習に関する事前事後指導を受ける。

期間内に心理・教育相談室でのケース担当、それぞれの領域に該当する機関、施設にて、実習ルールに従い、実習を行う。実習の仕方、時間数などはそれぞれ異なるが、既定の時間数と領域数に達するまで、複数の場所で適宜実習を積み重ねていく。

実習場所および実習方法は、別途指示する。

実習開始前に、「現場実習に関する規則」についての授業を行う。この規則について十分に理解し、規則を遵守することが現場実習に参加する必要条件となる。規則を守ることができなかった際には、「規則」に定められているように実習中止要件に準じて、実習が中止される場合がある。また、必要な実習時間の管理は各自行うこと。実習日誌は実習先の担当者に提出すると同時に学内の実習担当教員にも提出し、実習の進捗状況について報告を行うこと。

特記事項: 規定時間数、領域に関しては、担当教員とよく相談して、決めていくこと。

授業方法: 外部機関、施設に赴いて、見学実習か、週1日の実践実習を行う。
必ず、実習日誌を各実習日ごとに作成し、実習先担当者の閲覧の後、担当教員に提出する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

実習先の情報を事前に調べ、オリエンテーションに臨み、実習に入る。

| | | | | | | |
|-------|------------|------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 80 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: 実習日誌 | | | 20 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ケースを持つこと、外部の機関、施設での実務体験をしっかりと身につけて、公認心理師・臨床心理士としての自覚が醸成されているか。

課題へのフィードバック:

各実習先独自の指導方法に則り、実習日誌でフィードバックされる。また日誌の提出時に担当教員から指導を受ける。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

公認心理師、臨床心理士養成の根幹をなす実習である。外部に出るために、社会的常識や心理士としての知識、態度が試される。さまざまな積極的に参加する態度で臨んでほしい。

科目名： 相談指導 I

クラス：

授業コード： BJ23300001

担当者： 三井 知代

単位数： 1

科目に関連した実務経験： -

教職課程における位置づけ： -

含めることが必要な事項： -

教科に関する専門的事項： -

一般的包括的科目： -

授業の目的： 個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

到達目標： 担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

各回の授業計画：

1. 相談指導1
2. 相談指導2
3. 相談指導3
4. 相談指導4
5. 相談指導5
6. 相談指導6
7. 相談指導7
8. 相談指導8
9. 相談指導9
10. 相談指導10
11. 相談指導11
12. 相談指導12
13. 相談指導13
14. 相談指導14
15. 相談指導15

特記事項： なし

授業方法： 相談指導は1回90分、年間30回程度を基本として、ケース指導を対面で行う。

1. 個別指導
2. 個別指導
3. 個別指導
4. 個別指導
5. 個別指導
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

予習・復習・宿題など(内容・時間)：

1. 事例研究(180分)
2. 事例研究(180分)
3. 事例研究(180分)

4. 事例研究(180分)
5. 事例研究(180分)
6. 事例研究(180分)
7. 事例研究(180分)
8. 事例研究(180分)
9. 事例研究(180分)
10. 事例研究(180分)
11. 事例研究(180分)
12. 事例研究(180分)
13. 事例研究(180分)
14. 事例研究(180分)
15. 事例研究(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----------------------|--------|-----|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 90 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 事例についての報告書(担当者から指示する) | 10 % | | | |
| | その他2: | | % | | | |

評価基準: ケースを理解し、適切なアセスメント、クライアントの状況に応じた心理治療ができる(80～100点)
 ケース理解し、アセスメントや心理治療ができる(60～69点)

課題へのフィードバック:
 課題へのフィードバックは、授業内で必要に応じて行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
 ケースについての悩みを積極的に相談してください。

科目名: 相談指導Ⅱ

クラス:

授業コード: BJ23400001

担当者: 三井 知代

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

到達目標: 担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

各回の授業計画:

1. 相談指導1
2. 相談指導2
3. 相談指導3
4. 相談指導4
5. 相談指導5
6. 相談指導6
7. 相談指導7
8. 相談指導8
9. 相談指導9
10. 相談指導10
11. 相談指導11
12. 相談指導12
13. 相談指導13
14. 相談指導14
15. 相談指導15

特記事項: なし

授業方法: 対面で行う。

1. 事例検討
2. 事例検討
3. 事例検討
4. 事例検討
5. 事例検討
6. 事例検討
7. 事例検討
8. 事例検討
9. 事例検討
10. 事例検討
11. 事例検討
12. 事例検討
13. 事例検討
14. 事例検討
15. 事例検討

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
2. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
3. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
4. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)

5. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
6. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
7. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
8. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
9. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
10. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
11. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
12. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
13. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
14. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
15. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------------------------|--------|-----|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 90 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 事例についての報告(担当者からの指示による) | 10 % | | | |
| | その他2: | | % | | | |

評価基準: ケースに合った適切なアセスメントや心理治療ができている。(60~69点)
心理臨床の目的に合った心理的援助ができている。(80~100点)

課題へのフィードバック:
課題へのフィードバックは、授業内で適宜行う。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
ケースについての悩みを積極的に相談してください。

科目名: 心理学研究法特論

クラス:

授業コード: BJ30100001

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理学においても、基礎心理学と同様な実験や調査についての研究法を習得することは必須である。そして研究を進める上で、出版されている論文を批判的に読むことが必要である。この講義では教科書に紹介されている、誤りを含む臨床心理学についての論文を読んで、どこに問題があるか、そしてなぜそれが問題であるかについて、まず自分で考え、それを共有することで、研究に必要な基礎的な力を身につけることを目的とする。

到達目標:

1. 心理学において用いられる研究法を理解して使えること。
2. 臨床心理学についての論文を批判的に読めること。
3. 妥当な研究デザインを立てられること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 心理学の研究法についての受講生の理解を確認する。
2. 臨床心理学における研究に必要とされることの確認
3. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
4. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
5. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
6. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
7. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
8. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
9. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
10. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
11. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
12. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
13. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
14. 選択した論文の発表と問題点の指摘, それに基づくディスカッション
15. まとめ 批判的に論文を読む力の確認

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔で実施することがある。

授業方法:

1. 講義
2. 講義
3. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
4. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
5. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
6. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
7. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
8. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
9. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
10. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
11. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
12. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
13. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
14. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 心理学研究法について各自が用いてきた教科書や参考書によって復習 (180分)
2. 心理学研究法について各自が用いてきた教科書や参考書によって復習 (180分)

3. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
4. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
5. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
6. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
7. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
8. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
9. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
10. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
11. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備 (90分) および当日の内容についての復習 (90分)
12. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分) および当日の内容についての復習 (90分)
13. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分) および当日の内容についての復習 (90分)
14. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分) および当日の内容についての復習 (90分)
15. これまでの内容を踏まえてのレポートの準備 (180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価する。
 レポートについては、以下に従って評価を決定する。
 30～34 課題のまとめがなされている。
 35～39 過不足のないまとめとなっている。
 40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
 45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: なし

参考書: 高野陽太郎・岡隆 (2017). 心理学研究法 補訂版 有斐閣アルマ
 下山晴彦・佐藤隆夫 (監) (2020). 心理学研究法 (公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4) ミネルヴァ書房
 メルツォフ, J. 中澤 潤 (訳) (2005). クリティカルシンキング 研究論文篇 北大路書房

授業・準備学習のアドバイス:

臨床心理学における研究法についての立場は様々である。この講義では、科学者・実践者モデル、エビデンス・ベーストからの視点を重視します。臨床心理学においても科学的な視点が重要であることを意識しながら参加してほしい。

科目名: 心理学統計法特論

クラス:

授業コード: BJ30200001

担当者: 水谷 聡秀

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 公益財団法人研究センターから業務委託

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理学で用いられる統計手法を学ぶ。調査や実験などで研究を進めるとき、問題設定から実験計画や調査計画などの設計、データ収集、集計、分析、考察を行う。これらの研究計画を立てる段階から結果の考察にかけて、記述統計や推測統計、多変量解析に関する知識と技術を必要とする。そこで、さまざまな統計処理が解説され、探索的研究や仮説検証的研究での利用法について論じられる。その際、実際のデータを分析することで理解を深める。

到達目標:

1. 各自の研究に適切な統計手法が適用できる。
2. 各自で書籍やマニュアルを見てHADIによる操作ができる。
3. 記述統計や図表表現、検定、重回帰分析、因子分析などによる分析ができる。

各回の授業計画:

1. 統計手法を学ぶにあたって
2. 記述統計(代表値と散布度)
3. 相関関係の分析(相関係数と散布図)
4. 推測統計の基礎
5. 平均値の差に関するt検定
6. 一要因の分散分析
7. 二要因の分散分析
8. カイ2乗検定
9. 回帰分析の基礎
10. 重回帰分析1(モデルの概要)
11. 重回帰分析2(分析の実践)
12. 因子分析1(モデルの概要)
13. 因子分析2(分析の実践)
14. 共分散構造分析
15. その他の統計処理の紹介

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う

1. 講義、パソコンを使用した授業
2. 講義、演習、パソコンを使用した授業
3. 講義、演習、パソコンを使用した授業
4. 講義、パソコンを使用した授業
5. 講義、演習、パソコンを使用した授業
6. 講義、演習、パソコンを使用した授業
7. 講義、演習、パソコンを使用した授業
8. 講義、演習、パソコンを使用した授業
9. 講義、パソコンを使用した授業
10. 講義、演習、パソコンを使用した授業
11. 講義、演習、パソコンを使用した授業
12. 講義、演習、パソコンを使用した授業
13. 講義、演習、パソコンを使用した授業
14. 講義、演習、パソコンを使用した授業
15. 講義、パソコンを使用した授業

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習:学部で勉強した統計手法について把握する(50分)、復習:概念を確認し、各研究テーマへの適用例を考える(130分)
2. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
3. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
4. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認(130分)
5. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
6. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
7. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
8. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
9. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認(130分)
10. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
11. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
12. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
13. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
14. 予習:教科書・参考書の該当した章を読む(50分)、復習・課題:概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解(130分)
15. 予習:各自で知りたい内容を勉強する(50分)、復習:15回すべての内容について復習し、各研究テーマへの適用例を考える(130分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|-------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: | 課題や宿題 | | 60 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 【最低限の到達度(60~69点)】
 ・授業へのとりくみ ノートやメモを取り、課題に取り組んでいる。
 ・課題や宿題 どんな分析をしたか、結果をどう読み取れるかを記載している。
 【望ましい到達度(80~100点)】
 ・授業へのとりくみ 自ら進んで書籍や論文等を読み、データ解析の計画が立てられる。
 ・課題や宿題 分析法と結果の解釈が適切に記載されている。

課題へのフィードバック:
 ・課題の遂行時に理解を促進するよう双方向にやり取りする。
 ・課題や宿題の提出期限の次週には講評、あるいは添削後返却する。

教科書: 小宮 あすか・布井 雅人 (2024). Excelで今すぐはじめる心理統計 第2版——簡単ツールHADで基本を身につける 講談社

参考書: 野島 一彦・繁樹 算男・山田 剛史 (2019). 心理学統計法(公認心理師の基礎と実践) 遠見書房
 山内 光哉 (2009). 心理・教育のための統計法(第3版) サイエンス社
 管 民郎 (1993). 多変量解析の実践—初心者がらくらく読めるく上 現代数学社

授業・準備学習のアドバイス:

Microsoft ExcelのVBAで動く統計プログラムHADを使用します。エクセルさえあればどこでもできます。高度な分析もでき、心理学向けの教育用としては十分と言えます。これを主に用いてデータ処理することで統計手法の理解を深めてもらいます。修士論文でデータ分析する必要のある人には履修することをお薦めします。また、原則的には各統計手法について課題を出し、翌週までに提出とします。

科目名: 神経心理学特論

クラス:

授業コード: BJ40200001

担当者: 宮内 哲

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: ・公認心理師、心理学の大学院生として知っておいてほしい脳の構造・機能、脳に関する知識やトピックを可能な限り供覧実験や実習形式で説明します。
・単に講義を聴く授業ではありません。
・授業の2～3日前までに講義で使う資料をuploadするので、講義開始までに必ず読んできてください。そして講義での説明に対して、質問したり、意見を述べてもらい、ディスカッション形式で進めます。

到達目標: ・脳の構造と機能についてその概要を把握する。
・実際にヒトの脳活動や生理学的指標を計測し、神経心理学・生理心理学の技法を体得する。
・神経心理学及び生理心理学分野の学術論文を読んで理解する能力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
講義の概要、評価基準について説明します。
2. 光トポグラフィー検査と精神疾患の診断
光トポグラフィーという脳血流を測る装置について説明し、光トポグラフィーや脳波を用いた精神疾患の診断について説明します。
3. 脳の構造1
ヒトの脳のマクロな構造と、脳を構成するミクロな構造(神経細胞、神経線維、シナプスなど)と、脳活動(脳の情報処理)の基礎となる活動電位などについて説明します。
4. 脳の構造2
ヒトの脳のMRI画像を見るソフトウェアを各自に操作してもらいながら、ヒトの脳の構造と用語について説明します。
5. 視覚
視覚を司る脳領域と機能について説明します。
6. 聴覚と体性感覚
聴覚、体性感覚(触覚)を司る脳領域と機能について説明します。
7. 脳波
脳波の発生メカニズム、計測方法、分類、誘発電位、事象関連電位などについて説明します。
8. 脳波供覧実験1
実際にヒトの脳波(自発性脳波)を計測します。
9. 脳波供覧実験2
実際にヒトの脳波(誘発脳波、事象関連電位)を計測します。
10. 眼球運動の説明
ヒトの目の動き(眼球運動)について、その特性や役割、視覚的注意との関連について説明します。
11. 眼球運動の供覧実験1
実際に眼球運動を計測して、簡単な実験をします。
12. 眼球運動の供覧実験2
実際に眼球運動を計測して、簡単な実験をします。
13. 皮膚電気反射(GSR)の説明
自律神経と、自律神経の活動を反映する皮膚電気反射、情動との関連などについて説明します。
14. GSR供覧実験1
実際にGSR、心拍、呼吸を計測して簡単な実験をします。
15. GSR供覧実験2
実際にGSR、心拍、呼吸を計測して簡単な実験をします。

特記事項: なし

授業方法: 講義、実習、供覧実験

予習・復習・宿題など(内容・時間):

15～30分でいいので、事前に配布する講義資料に必ず目を通して、授業中に積極的に質問及び発言してください。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 55 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 45 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 【授業への取り組み(55%)】

- ・教員の講義を聴くだけの授業ではありません。
- ・知識も興味もバラバラな多くの学生が受講する授業で、全員が満足する講義を行うことは不可能です。講義中に何度か質問のための時間を設けます。Teamsで配布された資料に予め目を通して、資料や講義でわからないことがあれば、積極的に質問してください。質問や意見はいつでも受け付けます。質問がなければ、こちらから質問します。どれだけ積極的に発言・質問し、質問に対して回答したかを最も重要な評価基準とします。15回の講義で一度も質問しなかった人は、この項目の評価がゼロとなります。この項目のウェイトが55%なので、必然的に単位はとれません。

【課題への回答(レポート)(45%)】

レポートの内容はもちろんですが、レポートの書き方(調べて分かったことや考えたことを、自分の文章で読み手にわかりやすく伝える練習)という観点からも評価します。

課題へのフィードバック:

提出されたレポートに対して、講義の場で適宜コメントを返します。場合によっては、既に提出済みのレポートに対して修正・加筆を依頼することもあります。

教科書: なし。Teamsでの資料公開となりますが、必要に応じて講義中に参考となる本・資料を紹介します。

参考書: ・必要に応じて、講義中に参考となる本・資料を紹介します。
・レポートの書き方に関しては、以下の二つの資料を勧めます。

①「レポートの書き方 ―アカデミック・ライティングのポイント―」京都大学国際高等教育院(2016)
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/250143/1/writing.pdf>
無料でdownloadできて、とてもわかりやすく書かれているので、ぜひ読んでください。

② 大学文章論

授業・準備学習のアドバイス:

- 講義中に、講義に関してわからないことを調べるためにスマホやノートPCでのインターネット使用は認めます。それ以外の用途で一度でも使用した場合は退席を命じて単位も出しません。
- 講義には、事前に配布したPDFを印刷して持参するか、ノートPCでPDFを閲覧できるようにして出席し、必ずノートをとってください。スマホで閲覧するだけでは出席として認めません。
- 以上のルールを守れない人は、履修登録を取り消してください。

科目名: 認知行動療法特論(心理支援に関する理論と実践)

クラス:

授業コード: BJ40400001

担当者: 吉野 俊彦

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 認知行動療法 (CBT) は、様々な精神障害への介入方法として科学的根拠に基づいて有効性が確認されている。本講義は、1) CBTが認知療法と行動療法の2つの異なるルーツを持って現代の臨床心理学において中核的な位置を占めるようになった背景、2) それぞれの哲学的・理論的基盤、3) そうした基盤に基づいた技法とその適用の注意点について理解することを目的とする。

到達目標:

1. CBTを構成する認知療法と行動療法の基本的な背景を理解する
2. それぞれの哲学的・理論的基盤を理解する
3. 実際に用いられている様々な技法とその適用の注意点について理解する

各回の授業計画:

1. 認知行動療法の概観 1
2. 認知行動療法の概観 2
3. 認知療法の背景と基本原理
4. 行動療法の背景と基本原理
5. 認知行動療法、認知療法、行動療法の共通点と相違点
6. 認知行動療法とエビデンスベースト
7. 認知行動療法の適用の実際
8. ケースフォーミュレーションと機能分析
9. 認知行動療法の技法とその適用1
10. 認知行動療法の技法とその適用2
11. 認知行動療法の技法とその適用3
12. 認知行動療法の技法とその適用4
13. 認知行動療法の技法とその適用5
14. 新世代の認知行動療法
15. まとめ

特記事項: 対面での実施が原則であるが、事情によって遠隔で実施することがある。

授業方法:

1. 講義
2. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
3. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
4. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
5. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
6. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
7. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
8. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
9. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
10. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
11. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

講生同士のディスカッション。

12. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

13. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

14. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

15. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
2. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
3. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
4. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
5. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
6. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
7. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
8. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
9. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
10. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
11. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
12. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
13. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
14. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)
15. テキストの予習 (90分)、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察 (90分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
36～41 課題のまとめがなされている。
42～47 過不足のないまとめとなっている。
48～53 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
54～60 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

課題へのフィードバック:

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

教科書: 下山晴彦・熊野宏昭・鈴木伸一 (2017) 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門 (KS専門書) 講談社

参考書: 原田隆之 (2015) 心理職のためのエビデンス・ベースト・プラクティス入門-エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」金剛出版
坂野雄二他 (監) (2012) 60のケースから学ぶ認知行動療法 北大路書房
鈴木伸一・神村栄一 (2013) レベルアップしたい実践家のための事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド 北大路書房

授業・準備学習のアドバイス:

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

科目名: コミュニティ心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

クラス:

授業コード: BJ50050001

担当者: 古川 心

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、病院臨床、指定大学院附属相談室での臨床心理活動)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 家族・集団・地域社会において、どのような心理的支援が必要とされているのか、理論と技法を理解し、習得する。
また、心理臨床的支援を実践するうえでの基本的な考え方や視点、姿勢について学び、身につける。

到達目標: コミュニティ心理学の基礎的概念について理解できる。
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する課題について、分析することができる。
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論を理解し、介入方法について、実践することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 家族とは何か家族の発達
近代における家族の多様化と家族機能の変化
3. 家族のアセスメント①家族関係の問題が個人に与える影響
子ども虐待・マルトリートメント
4. 家族のアセスメント②家族関係の問題が個人に与える影響
Aces (Adverse Childhood Experiences; 逆境的幼児期体験)
5. 家族のアセスメント③家族関係の問題が個人に与える影響
親子関係・きょうだい関係
6. 家族への支援①
さまざまな臨床現場における家族への心理支援の実践事例
育児不安・子ども虐待・マルトリートメントの理解と支援法
7. 家族への支援②
さまざまな臨床現場における家族への心理支援の実践事例
発達障がい・精神障がいの理解と支援法
8. コミュニティとは
コミュニティが担う役割
一次予防・二次予防・三次予防
9. コミュニティへの支援①
学校における心理支援の実践事例
10. コミュニティへの支援②
地域コミュニティにおける心理支援の実践事例
11. 家族関係への心理支援の応用①
親子再統合(親子関係再構築)支援
12. 家族関係への心理支援の応用②
アタッチメント理論に基づいた養育者支援
13. 集団・組織への心理支援の応用
心理教育、ストレスマネジメント
14. 地域社会への心理支援の応用
地域コミュニティにおける子ども虐待・マルトリートメント予防
15. 全体を通しての意見交換
コミュニティ心理学のビジョン、ミッション、バリュー

特記事項: 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学修するので、個人情報取り扱いの倫理的配慮をもって行うようにしてください。

授業方法: 一方的な講義ではなく、常に意見交換の時間をとります。
事例や関連論文についての輪読やプレゼンテーションを通して、主体的な学びを深めます。また、適宜、ロールプレイやワークショップを取り入れた授業を実施します。

1~15. 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業前準備学習: 各回で扱う内容について配布資料や指定論文、専門書等にて予習する。
授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理を行う。自分の臨床や研究と関連付けて理解を深め、質問や感想をまとめる(次の授業でディスカッションを行う)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 55 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 45 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

| | |
|-------|---|
| 評価基準: | レポート: 45点。 各回の授業への質問・コメント: 1回2点。 ディスカッションやロールプレイ、ワークショップへの参加意欲、発言内容、グループ全体の理解への貢献度: 25点 |
|-------|---|

課題へのフィードバック:
授業中にフィードバックします。

教科書: なし

参考書: 適宜、紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

講義を聞いて知識を得るための授業ではありません。質問の準備、授業中での積極的な発言、レポートの作成にしっかり取り組んでください。
なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがあります。

科目名: 社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

クラス:

授業コード: BJ50100001

担当者: 田中 健吾

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有:大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課メンタルヘルス専門相談員

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 職場における心理的問題を理解するために必要な、産業心理臨床領域の法律・制度や人的資源管理に係る様々な理論的背景および職業性ストレス理論について学習することを目的とする。

到達目標: 本授業における学習の到達目標は以下の通りである。

1. 心理学的職場ストレスモデルの考え方に沿って、ストレスの発生から個人が心理状態を損なうまでのプロセスを説明できること。
2. ワークモチベーション理論や人的資源管理の手続きを説明できること。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心理学的ストレスモデル
3. 職業性ストレス理論
4. 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング 1
5. 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング 2
6. 職場のコミュニケーションとワークエンゲージメント
7. ストレスチェック制度
8. 産業心理臨床に関わる制度・法律等
9. 復職支援の実際
10. 職場におけるハラスメントの現状と対策
11. ワークモチベーション理論1
12. ワークモチベーション理論2
13. 健康経営
14. 産業心理臨床事例の検討
15. まとめ

特記事項: 授業は講義形式を基本とするが、毎回授業内で討議の時間を設ける。
※受講人数や進捗等によって変更の可能性がある。
※順序についても変更の可能性がある。

授業方法: すべての授業を対面で行う。
講義と演習・グループワーク、ディスカッション。
ただし、受講者数によって変更する場合がある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 講義とディスカッション
12. 講義とディスカッション
13. 講義とディスカッション
14. 講義とディスカッション
15. 講義とディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- 1. 予習:産業心理臨床とは何か考える(90分)、復習:産業心理臨床の考え方について(90分)
- 2. 予習:心理学的ストレスモデルについて(90分)、復習:医学モデルと心理モデルについて(90分)
- 3. 予習:職場ストレスについて(90分)、復習:医学的モデルについて(90分)
- 4. 予習:職場メンタルヘルス活動について1(90分)、復習:産業カウンセリング事例検討(90分)
- 5. 予習:職場メンタルヘルス活動について2(90分)、復習:産業カウンセリング事例検討(90分)
- 6. 予習:ワークエンゲージメントについて(90分)、復習:職場のコミュニケーションとワークエンゲージメントについて(90分)
- 7. 予習:ストレスチェック制度に関連する法規について(90分)、復習:職業性ストレス簡易調査票についてのレポート(90分)
- 8. 予習:産業心理臨床に関わる制度・法律について(90分)、復習:組織運営に関わる制度・法律について(90分)
- 9. 予習:復職支援について(90分)、復習:復職支援の制度やリワークプログラムについて(90分)
- 10. 予習:ハラスメントが及ぼす影響について(90分)、復習:ハラスメントの心理・社会的影響について(90分)
- 11. 予習:仕事の動機付けについて考える(90分)、復習:内容理論について(90分)
- 12. 予習:仕事の動機付けについて考える(90分)、復習:過程理論について(90分)
- 13. 予習:健全な職場について考える(90分)、復習:健康経営について(90分)
- 14. 予習:これまでの学習内容について確認(90分)、復習:最近のトピックについて(90分)
- 15. 予習:これまでの学習内容について再確認(90分)、復習:全体の総括(90分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: レポート(50%)および講義内の質疑応答(50%)において、以下の基準で評価する。

100～80点 到達目標(心理学的ストレスモデル, ワークモチベーション理論各論等の理解)を十分に達成できている優れた成績

79～70点 到達目標(心理学的ストレスモデル, ワークモチベーション理論各論等の理解)を達成できている成績

69～60点 到達目標(心理学的ストレスモデル, ワークモチベーション理論各論等の理解)を最低限達成できている成績

課題へのフィードバック:

講義内で個別にコメントする。

教科書: 田中健吾・高原龍二(編著)『産業・組織心理学TOMORROW』八千代出版
川上憲人『基礎からはじめる職場のメンタルヘルス:事例で学ぶ考え方と実践ポイント』

参考書: 小杉正太郎(編著)『ストレスと健康の心理学』朝倉書店
田中健吾『ソーシャルスキルと職業性ストレス:企業従業員の臨床社会心理学的研究』晃洋書房

授業・準備学習のアドバイス:

授業は講義形式を基本とするが、議論のための時間を設け全員参加の場とする。

科目名: 対人行動学特論

クラス:

授業コード: BJ50200001

担当者: 金政 祐司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 人は他者との関係性のなかに編み込まれている。私たちは他者の存在なくしては自らの存在を認識することさえも危うくなる。このような観点から、まず、私が他者と関わっていくということはどういうことなのかについて親密な他者との関係性に焦点を当て話を進めていく。次に、私と集団や社会から受けている影響やそのネットワークの重要性について解説し、その後、社会や文化といった普段は気にもとめないような大きなものから影響を受けている私と、それと同時に、社会や文化に積極的に関わっていく存在でもある私について、日常的な出来事と関連させながら説明を行う。本講義では、私と他者との関係性、また、私と社会や文化との関わりについて、実社会においても役立つような知識の育成を目指す。

到達目標:

1. 自己や親密な関係についての諸理論を理解することができる。
2. 自己や他者のとらえ方が他者との関係性や適応性に及ぼす影響について理解することができる。
3. 個人と集団との関わりについて理解することができる。
4. 個人と社会や文化との関わりに理解することができる。
5. 授業内容に対する自分の考えや疑問を言語化することができる。

講義を行うとともに学生に講義内容に関しての発言を求め、討論を行いながら進めていく。講義で得られた知識をいかに実社会に連動させるかについて思索しながら、対人行動

各回の授業計画:

1. イントロダクション・わたしとは何か?(1) 講義の内容、評価方法の説明
心理学での自己の諸理論の説明
2. わたしとは何か?(2) 自己評価過程、自尊心、自己と適応
3. わたしが他者と関わる時(1) 対人認知、印象形成、ステレオタイプについて
4. わたしが他者と関わる時(2) 青年期の愛着スタイル、自己成就予言
5. 親密な関係の光と影(1) 好意と愛情、報酬の返報性、親密な関係の維持
6. 親密な関係の光と影(2) ソーシャルサポート、関係葛藤、DV
7. 他者に見せるわたし(1) 自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング
8. 他者に見せるわたし(2) 自己呈示とは? 親密な他者への自己呈示について
9. 集団に所属すること(1) 他者からの影響、ネットワーク理論
10. 集団に所属すること(2) 小さな世界問題、社会的ジレンマ
11. 社会のなかの落とし穴(1) 悪質商法
12. 社会のなかの落とし穴(2) 説得と承諾のメカニズム
13. 私の文化を越えて(1) 文化的自己観
14. 私の文化を越えて(2) 認知と文化、幸福感や価値と文化の関係
15. 本講義のまとめとして

特記事項: なし

授業方法:

1. 講義 & ディスカッション【対面】
2. 講義 & ディスカッション【対面】
3. 講義 & ディスカッション【対面】
4. 講義 & ディスカッション【対面】
5. 講義 & ディスカッション【対面】
6. 講義 & ディスカッション【対面】
7. 講義 & ディスカッション【対面】
8. 講義 & ディスカッション【対面】
9. 講義 & ディスカッション【対面】
10. 講義 & ディスカッション【対面】
11. 講義 & ディスカッション【対面】
12. 講義 & ディスカッション【対面】

13. 講義 & ディスカッション【対面】
14. 講義 & ディスカッション【対面】
15. ディスカッション【対面】

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 上記の各回の計画で示した第1回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
2. 上記の各回の計画で示した第2回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
3. 上記の各回の計画で示した第3回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
4. 上記の各回の計画で示した第4回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
5. 上記の各回の計画で示した第5回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
6. 上記の各回の計画で示した第6回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
7. 上記の各回の計画で示した第7回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
8. 上記の各回の計画で示した第8回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
9. 上記の各回の計画で示した第9回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
10. 上記の各回の計画で示した第10回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
11. 上記の各回の計画で示した第11回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
12. 上記の各回の計画で示した第12回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
13. 上記の各回の計画で示した第13回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
14. 上記の各回の計画で示した第14回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)
15. これまでの授業内容を総括し、全体的に配付資料や教科書を読んでおくこと(所要時間180分程度)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 55 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 45 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

| | |
|-------|---|
| 評価基準: | (60点～69点) 自己や親密な関係についての諸理論、自己や他者のとらえ方が他者との関係性や適応性に及ぼす影響、また、個人と集団との関わり合いについて理解することができる。 |
| | (70点～79点) 上記のことがらについて自分の意見や疑問を言語化することができる。 |
| | (80点～100点) 意見や疑問の言語化を踏まえ、自分の修士論文での研究テーマとつなげてより深い議論を行うことができる。 |

課題へのフィードバック:

授業内での解説ならびにフィードバックを原則とするが、難易度の高い課題や重要度の高い課題については授業後の質問などにおいて対応する。

教科書: 「わたしから社会へ広がる心理学」金政祐司・石盛真徳(編著) 北樹出版

参考書: 「公認心理師の基礎と実践 第11巻 社会・集団・家族心理学」竹村和久(編) 遠見書房
「史上最強図解よくわかる恋愛心理学」金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一(著) ナツメ社

授業・準備学習のアドバイス:

各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

科目名: 司法・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

クラス:

授業コード: BJ50400001

担当者: 森 丈弓

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 法務省の刑務所, 少年鑑別所にて実務経験あり

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 我が国の刑事司法制度について理解し、科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、実際の支援の展開について理解する。
犯罪、非行行動について、基礎理論、犯罪統計、研究法等について知識を深めることで、社会の中で犯罪がどのように捉えられかを概説する。
犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明する。

到達目標: 我が国の刑事司法制度について説明できるようになる。
科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、支援とはどのようなものであるか、説明できるようになる。
実際の支援に理論を生かすためには、どのような方策が考えられるか説明できるようになる。
犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を理解し、自分の言葉で説明できる。
犯罪とは何か、犯罪の実体的真実とは何かについて、理解し、説明できる。
司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解し、自分の言葉で説明できる。

各回の授業計画:

1. 導入 犯罪心理学とは何か、犯罪を科学的に検討するとはどういうことかを理解する。司法・犯罪心理学の概要と応用の実際について説明する。
2. 犯罪の実数について解説する。犯罪の認知、認知件数、検挙、検挙件数について解説する。犯罪統計が世論及び警察の捜査活動の影響を受けてどのように変化するか解説する。
3. 成人の刑事司法における犯罪者処遇の流れを、法律の条文等を参照しながら解説する。留置所、拘置所、刑務所、検察官、裁判所の役割について解説する。
我が国における刑事司法制度について理解を深める。
4. 少年司法における犯罪者処遇の流れを、法律の条文等を参照しながら解説する。少年鑑別所、少年院の役割について解説する。
少年保護法制について理解を深める。
5. 犯罪理論について概説する。犯罪がなぜ起こるか、どういった視点から捉えて理解するかについて解説する。
6. 犯罪者に対するリスクのアセスメント及び処遇において、現在、標準的な理論とされているRNRモデル(Bonta & Andrews, 2016)について解説する。
犯罪者処遇におけるリスクアセスメントの意義について理解する。再犯という視点から犯罪現象をとらえることの重要性を理解する。
リスクアセスメントにおける重要な原則であるRNR原則を理解する。
7. 犯罪者処遇が、リスクアセスメントにおいてどのように発展してきたのか、その歴史的経緯を知る。
リスクアセスメントツールがどういったものであるかを理解する。
YLS/CMIという具体的なツールについて、それが犯罪・非行臨床場面においてどのように利用することが可能かを理解する。
YLS/CMIの具体的なスコアリングの基準を知り、非行臨床の査定面接において何がポイントとなるかを理解する。
8. リスクアセスメントの下支えとなっている再犯研究について、実際の分析例を例にとりて理解を深める。
再犯研究の結果を元に、どのようにリスクアセスメントツールが構成されていくのか、その手続きを理解する。
再犯を分析した結果が、実際の非行少年処遇にどのように活かすことができるかについて考察し、実証的な根拠に基づいた刑事政策がどういったものであるのか理解を深める。
エビデンスを生み出し、効果的な教育の手段を探る上で、プログラム評価が重要であることを理解する。
9. 効果検証において生じる各種のバイアスについて理解する。これは犯罪分析のみならず、広く臨床研究一般における効果検証において重要であることを知る。
再犯研究の実際の例を概観して、効果検証のやり方、問題点を理解する。
エビデンス(科学的根拠)に基づく介入、あるいは施策が陥りやすい問題について理解を深める。
10. 犯罪・司法に関わる機関・施設における活動について解説する。
家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、保護観察所、地方更生保護委員会、児童相談所について解説する。
11. 児童相談所における非行への対応～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。
家庭裁判所の在宅事件における非行への対応～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。
12. 少年鑑別所・少年院での処遇～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。
13. 刑事施設における成人犯罪者への教育・処遇～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。
14. 犯罪被害についての基本的知識について解説する。家事事件についての基本的知識について解説する。

15. 研究例紹介・まとめ
内容を整理し、理解した点、疑問点についての点検を行う。

特記事項: なし

授業方法: すべて対面で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
2. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
3. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
4. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
5. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
6. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
7. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
8. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
9. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
10. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
11. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
12. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
13. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
14. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
15. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 80 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 20 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。

1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わりにより授業への参加がなされている(60～69点)。
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている(80～100点)。
2. 確認テスト
 - ・ 各トピックスで学んだことに関して、犯罪分野におけるリスクアセスメントについての学習内容をある程度理解している(60～69点)。
 - ・ 各トピックスで学んだことに関して、刑事司法制度への理解を含めて、犯罪分野のリスクアセスメントが我が国の刑事司法制度にどのように位置づけられるかを理解し、説明することができる(80～100点)。

3. 小レポート

- ・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)。
- ・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)。

課題へのフィードバック:

レポートは添削し、コメントをつけて返却する。

教科書: 森 文弓他 司法・犯罪心理学 サイエンス社

授業で使いますので、無いと理解が困難になります。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

レポートは添削し、コメントをつけて返却する。

科目名: 精神医学特論※

クラス:

授業コード: BJ60100001

担当者: 椎野 智子

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニック等にて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: ①将来臨床心理士や公認心理師になる人を対象とし、臨床心理学の理論と実践の習得を深めるため、必要な精神医学の知識と技術を身につける。
②精神科診療の診断と治療について、高度専門職である精神科医、心理士（臨床心理士、公認心理師）、ソーシャルワーカーの三職種からのアプローチと連携を理解する。
③精神疾患と精神医学・医療のあり方について基本から応用までを学ぶ。
④臨床心理士や公認心理師を目指す院生には必須の精神医学関連知識と技術を習得する。

到達目標: ①精神医学に関する基礎的知識を有し、説明できる。
②医療分野での実践について概説できる。
③精神科・心療内科での実践について概説できる。
④保健活動が行われている現場での実践について概説できる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 精神医学とは何か
2. 精神医学の歴史
3. 神経発達症の理解と支援
4. 統合失調症の理解と支援
5. 双極症の理解と支援
6. 抑うつ症の理解と支援
7. 不安症の理解と支援
8. 強迫症の理解と支援
9. 心的外傷及びストレス因関連症の理解と支援
10. 解離症の理解と支援
11. 身体症状症の理解と支援
12. 食行動症及び摂食症の理解と支援
13. 物質関連症及び嗜癖症の理解と支援
14. 神経認知障害の理解と支援
15. パーソナリティ症の理解と支援

特記事項: なし

授業方法: 講義形式を中心に、精神医学についての知識と理論及び支援に関する理解を深める。

1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)

予習・復習・宿題など（内容・時間）:

講義の際に配布するプリントをもとに疑問点を整理し、理解を深める。

- 1.精神医学の概念について整理し、理解を深める(180分)
- 2.精神医学の歴史について整理し、理解を深める(180分)
- 3.神経発達症について整理し、理解を深める(180分)
- 4.統合失調症について整理し、理解を深める(180分)
- 5.双極症について整理し、理解を深める(180分)
- 6.抑うつ症について整理し、理解を深める(180分)
- 7.不安症について整理し、理解を深める(180分)
- 8.強迫症について整理し、理解を深める(180分)
- 9.心的外傷及びストレス因関連症について整理し、理解を深める(180分)
- 10.解離症について整理し、理解を深める(180分)
- 11.身体症状症について整理し、理解を深める(180分)
- 12.食行動症及び摂食症について整理し、理解を深める(180分)
- 13.物質関連症及び嗜癖症について整理し、理解を深める(180分)
- 14.神経認知障害について整理し、理解を深める(180分)
- 15.パーソナリティ症について整理し、理解を深める(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (最低限の到達度) (60～69点)

- ・授業中に指定内容の発表を行うことができる。
- ・授業後に到達課題を提出している。
- ・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
- ・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。

(望ましい到達度) (80～100点)

- ・到達課題の記述が適切である。
- ・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
- ・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

課題へのフィードバック:

授業の最後に復習として到達課題を実施する。課題は次週の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: American Psychiatric Association(原著) 日本精神神経学会(日本語版用語監修) DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2023

その他、講義内容に応じて講義中に紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

具体的な事例を紹介しながら授業を進めていきます。積極的な授業参加を望みます。

科目名: 精神保健学特論(心の健康教育に関する理論と実践)

クラス:

授業コード: BJ60150001

担当者: 田中 健吾

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 総合病院精神神経科心理士

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 多様なストレス問題の増加に伴い、メンタルヘルスリテラシー(心の健康教育)の重要性とそのあり方が問われている。ストレス問題は、ストレス科学、心身医学、健康科学、予防医学、臨床医学だけでなく、倫理問題や法律問題まで幅広く関連している。そこで、本授業の目的は、①こころの健康教育についての理論の理解、②ストレスに関する理論と実践、③具体的な医療・保健活動などにおける心理的支援の最新かつ正確な知識と技術の習得とする。

到達目標: ①心理的支援の実践にあたって、心理学的視点だけでなく、生物学的視点、社会的視点、倫理的視点の習得。②病気になってからどうするという疾病志向に立脚した捉え方に留まらず、よりポジティブに健康生成の観点から健康志向の重要性の習得。③働き方改革にみられるように、個人対応の限界もみられる現在、集団として心の健康評価を進める上で必要な理論と実践についての習得。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 心の健康教育とは
3. 健康行動と健康心理学/ポジティブ心理学
4. 心理学的ストレスモデルの構成要因(ストレッサーとストレス反応)
5. 心理学的ストレスモデルの構成要因(コーピング)
6. 心理学的ストレスモデルの関連要因(ソーシャルサポート)
7. 心理学的ストレスモデルの関連要因(ソーシャルスキル)
8. 心の健康と心理社会的アプローチ(精神疾患とソーシャルスキルトレーニング)
9. 心の健康と心理社会的アプローチ(家族への心理教育の方法と有効性)
10. 心の健康と心理社会的アプローチ(アルコール依存等への対応)
11. トピック(産業心理臨床等の事例検討)
12. 心の健康教育に関する研究動向①
13. 心の健康教育に関する研究動向②
14. 心の健康教育に関する研究動向③
15. まとめ

特記事項: 講義に加え、調べ学習・討論を通じて臨床応用へとつなげる。

授業方法: すべての授業を対面で行う。
講義と演習・グループワーク、ディスカッション。
ただし、受講者数によって変更する場合がある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 講義とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション
14. 発表とディスカッション
15. 講義とディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(心の健康に関する諸問題についてまとめる)・関連文献を読む
2. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(心の健康教育の理論についてまとめる)・関連文献を読む
3. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(健康行動およびポジティブ心理学についてまとめる)・関連文献を読む
4. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(ストレスとストレス反応についてまとめる)・関連文献を読む
5. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(ストレスコーピングについてまとめる)・関連文献を読む
6. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(ソーシャルサポートについてまとめる)・関連文献を読む
7. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(ソーシャルスキルについてまとめる)・関連文献を読む
8. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(精神疾患とソーシャルスキルトレーニングについてまとめる)・関連文献を読む
9. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(家族への心理教育の方法と有効性についてまとめる)・関連文献を読む
10. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(様々なアディクションへの対応についてまとめる)・関連文献を読む
11. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(産業心理臨床等の事例検討の要点についてまとめる)・関連文献を読む
12. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(関連する最新の論文についてまとめる)・関連文献を読む
13. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(関連する最新の論文についてまとめる)・関連文献を読む
14. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(関連する最新の論文についてまとめる)・関連文献を読む
15. 180分の(4時間×45分)の予習・復習(今後の課題についてまとめる)・関連文献を読む

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 基礎的な専門用語を説明することができる。心の健康教育に関する理論と実践について説明できる。心の健康教育に関する理論と実践について現状と支援について心の健康教育的観点でまとめることができる。(60-69)
一般的な専門用語を詳しく説明する事ができる。心の健康教育に関する理論と実践について詳しく説明できる。心の健康教育問題について心の健康教育的観点で詳しくまとめることができる。(80-100)

課題へのフィードバック:

課題のフィードバックは、毎回の授業で行う。

教科書: 『心の健康教育ハンドブックーころもからだも健康な生活を送るために』坂野雄二・百々尚美・本谷亮(編著), 金剛出版.
『ストレスと健康の心理学』小杉正太郎(編著), 朝倉書店.

参考書: 『ストレス学ハンドブック』丸山総一郎(編著), 創元社.
『働く女性のストレスとメンタルヘルスケア』丸山総一郎(編著), 創元社.

授業・準備学習のアドバイス:

授業内容・構成は、公認心理師養成大学教員連絡協議会の策定した標準シラバスを踏まえたものです。エビデンスに基づいた科学者-実践者モデルに基づいた学習姿勢を期待します。

科目名: 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

クラス:

授業コード: BJ60170001

担当者: 大島 剛

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 児童相談所心理判定員

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 福祉現場において生じる問題およびその背景を理解し、そこに存在する心理社会的課題および必要な支援とは何かを考えていく力を身につける。特に虐待に関する事象の知識と理解を深める。
福祉現場の心理職の特性を理解する。

到達目標: 福祉現場で働くことのできる公認心理師、臨床心理士として、福祉と心理の両方の領域をカバーできる素養を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 福祉と心理の関係
3. 福祉実践における心理職の果たす役割
4. 児童相談所の業務について
5. 児童相談所心理専門職について
6. 児童虐待について
7. 児童福祉施設の心理的支援について
8. 障害児・者の福祉について
9. 知的障害・発達障害・強度行動障害への支援について
10. 身体障害児・者への支援高齢者への支援について
11. 高齢者への支援について
12. 高齢者への心理的アプローチについて
13. 福祉分野での特色ある取り組みについて
14. 他職種との連携について
15. まとめ

特記事項: なし

授業方法: 対面 基本的には各自分担して教科書の内容を発表して、それに対して討議を行う。

1. 講義
2. 講義・討論
3. 講義・討論
4. 発表・討論
5. 発表・討論
6. 発表・討論
7. 発表・討論
8. 発表・討論
9. 発表・討論
10. 発表・討論
11. 発表・討論
12. 発表・討論
13. 発表・討論
14. 発表・討論
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習(100分)
教科書の内容に対して、福祉に関する制度や施設、資格など適宜調べておく。

復習(80分)

授業に出てきた内容を整理して、実習とリンクさせて理解を深める。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | 課題発表 | | 10 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 福祉に関する全般的な理解とその中で心理職として活躍できる準備を持つ(80～100点)
福祉と心理に関する最低限の知識を持つ(60～69点)

課題へのフィードバック:
授業内外を問わずに希望者にはフィードバックを行う。

教科書: 川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著 公認心理師の基礎を学ぶテキスト17 福祉心理学 福祉分野での心理職の役割 ミネルヴァ書房 2020

参考書: 授業中に適宜知らせる。

授業・準備学習のアドバイス:
福祉領域の実習とリンクさせるので、福祉領域の理解を進めること。

科目名: 心理療法特論

クラス:

授業コード: BJ70100001

担当者: 内田 利広

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 精神科病院臨床心理士、スクールカウンセラー

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 心理療法の基本的な考え方、その目的、具体的な関りについて、理解を深める。
公認心理師が誕生し、心理専門職の本質が問われている中で、人に関わり支援するとはどういうことであるかを、親子関係特に「母－娘関係」を通して理解を深める。親子関係を理解するには、家族心理学的な視点から、システム論的認識さらに世代間伝達の問題としてとらえ、保護者への支援や子ども(娘)への心理療法(サイコセラピー)の具体的な関わりについて、理解を深めます。
さらに、支援時のクライアント理解を深める手だてとして、フォーカシングの体験を通して自らの身体感覚に注目する技法についても理解を深める。

到達目標:

- ・母－娘関係における心理的な課題(葛藤や心理的距離など)について、家族心理学的な視点から理解し、説明できること
- ・心理療法において、保護者あるいは思春期青年期のクライアントを支援するために、どのような心構えが必要であるかを、説明でき、また実践につなげられること
- ・人と人との出会って、変化するためには、どのような体験が必要であり、そのための関わりに必要な技能を身につけ、実践できるようになること

各回の授業計画:

1. 目標の解説と心理療法の現状について(心理療法の学び方について)
2. 第1章 母と娘の関係性(プレゼン1)
3. 第2章 母娘関係と父親の役割(プレゼン2)
4. 傾聴の技法とクライアントの理解: 体験過程理論とフォーカシング
5. フォーカシングの理論と実際: デモンストレーションと解説
6. 第3章: 母親に取り込まれる娘(プレゼン3)
7. 第4章 期待のあり方から見た母娘(プレゼン4)
8. 傾聴の実習: 身体のメッセージを聞く: クリアリング・ア・スペース
9. 第5章 母娘関係の世代間伝達(プレゼン5)
10. 傾聴の実習: 身体のメッセージを聞く: フェルトセンスを感じる
11. 第6章 母娘関係を上手に生きるために1: 娘・母親・父親の視点から(プレゼン6)
12. 心理療法の実践実習: 体験の流れとフェルトシフト
13. 第6章 母娘関係を上手に生きるために2: 母娘関係の発達論と第三者の存在(プレゼン7)
14. 心理療法の実践実習: ペアでの体験と質疑応答
15. 「心理療法における母娘関係の理解と支援」についてまとめ、到達度の確認テストを行う。

特記事項: なし

授業方法: 講義形式と受講者のプレゼンテーションとディスカッションによる演習、さらに面接法(フォーカシング)の実習等を組み合わせて行う。
第1回～15回 講義・演習・実習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

事前にテキストを購入し、全体に目を通すとともに、自分が担当を希望する章のレジュメを作成し、プレゼンの準備をする。
担当の章は、他の受講生と重ならないように、事前に調整を行うこと。
レジュメは、A4で4枚以内とし、A3版で、表裏に両面コピーで作成し、A3 1枚に収めること。
プレゼンテーションの時間は、一人40分程度とし、その後にディスカッションを行う。

事前にテキストを読み理解する(1章4時間×7章 28時間)
担当する章を読み込み、レジュメ作成(担当章読込 5時間 レジュメ作成 10時間 計15時間)
フォーカシングに関する事前学習(5時間)
事前準備(2時間×3日 6時間)
事後の振り返り(2時間×3日 6時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------------------------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 20 % | レポート: | - % |
| | その他1: | レジュメ作成とプレゼンテーション及びミニレポート | 30 % | | | |
| | その他2: | | % | | | |

| | |
|-------|--|
| 評価基準: | <p>【最低限の到達度(60～69点)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ディスカッションに参加している ・確認テスト 授業の内容の基本的なところは理解している ・レジュメ作成とプレゼンテーション レジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。 <p>【望ましい到達度(80～100点)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 興味、関心により質問や意見を述べることができる 実習等に積極的に参加し、質問や体験の感想を述べるができる ・確認テスト 授業の内容を十分に理解し、さらに自分なりの意見も言える ・レジュメ作成とプレゼンテーション 担当章を的確にまとめられており、分からないことは自分で調べて追加されている。 プレゼンテーションにおいて、周りにわかりやすく説明ができ、質問にも答えることができる。 |
|-------|--|

| | |
|--------------|--------------------------|
| 課題へのフィードバック: | ・授業の中でその都度フィードバックを行っていく。 |
|--------------|--------------------------|

教科書: 母と娘の心理臨床一家族の世代間伝達を超えてー(内田利広 著) 金子書房

参考書: フォーカシング指向心理療法の基礎(内田利広著) 創元社

授業・準備学習のアドバイス:

今回は、夏季集中講義(3日間)という形で実施しますので、集中講義までの事前の準備をお願いいたします。

まずはテキストを購入し、ざっと全体を読んで、自分の希望の担当章を決めてください。一人1章ずつ(プレゼン1～7)担当していただきます。

その際に、できるだけ他の受講生と重ならないように、受講予定者間で調整を行い、早めに担当章を決めてください。

担当者の決定については、6月ごろに、Teamsを使って連絡いたします。

レジュメは、1章をA4 4枚以内で、まとめてください(一人のプレゼンが40分程度です)

特に、初日の章(1章～2章)を担当する方は、初日までにレジュメの準備をお願いいたします。

また、フォーカシングについて、その概要が理解できていると、より授業の理解がスムーズになります。

科目名: 発達臨床心理学特論

クラス:

授業コード: BJ70200001

担当者: 伊東 真里

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 病院の臨床心理士

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床ということばは医学領域でよく用いられているが、ここでは病理の治療を目的とするだけでなく、障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの心理的支援の方法を学習する。そして、障害や問題の範囲を心身障害から心身症状まで含め、人間を心身相関の立場から捉え、医学的・心理的・教育的な視点から総合的に眺め、障害や問題をもつ子どもに関する心理臨床の理論的理解と実践的技術の理解を深める。

到達目標: 臨床心理学の深い知識と実証的態度を身につけるとともに、障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解し、臨床場面で応用できるレベルを到達目標とする。

各回の授業計画:

1. 発達臨床心理学の目的と対象
2. 発達臨床心理学的理解の視点
3. 発達障害の概念についてのレポート発表
4. 事例研究(発達障害)の心理臨床過程についての検討
5. 緘黙症の概念についてのレポート発表
6. 事例研究(緘黙症)の心理臨床過程についての検討
7. 抜毛症の概念についてのレポート発表
8. 事例研究(抜毛症)の心理臨床過程についての検討
9. 心身症の概念についてのレポート発表
10. 事例研究(心身症)の心理臨床過程についての検討
11. 不安障害の概念についてのレポート発表
12. 事例研究(不安障害)の心理臨床過程についての検討
13. いじめの概念についてのレポート発表
14. 事例研究(いじめ)の心理臨床過程についての検討
15. まとめとレポート(ケースについて)

特記事項: なし

授業方法:

1. 講義
2. 講義
3. レポート発表
4. 事例研究
5. レポート発表
6. 事例研究
7. レポート発表
8. 事例研究
9. レポート発表
10. 事例研究
11. レポート発表
12. 事例研究
13. レポート発表
14. 事例研究
15. レポート作成

(すべての授業を対面授業で行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予習(80分)復習(100分)(発達臨床心理学の目的について)
2. 予習(80分)復習(100分)(発達臨床心理学の対象について)
3. レポート作成(180分)(発達障害について)

4. 事例研究(180分)(発達障害について)
5. レポート作成(180分)(緘黙症について)
6. 事例研究(180分)(緘黙症について)
7. レポート作成(180分)(抜毛症について)
8. 事例研究(180分)(抜毛症について)
9. レポート作成(180分)(心身症について)
10. 事例研究(180分)(心身症について)
11. レポート作成(180分)(不安障害について)
12. 事例研究(180分)(不安障害について)
13. レポート作成(180分)(いじめについて)
14. 事例研究(180分)(いじめについて)
15. ノート整理(180分)(全体的なまとめ)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解できている。(60~69点)
 障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解し、臨床場面で応用できる。(80~100点)

課題へのフィードバック:
 課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: なし

参考書: 随時、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:
 障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの支援を「臨床」という視点から捉える姿勢をもつ必要があります。
 15回目に課題レポートを実施(時間:30分 配点:50点)

科目名: 投映法特論

クラス:

授業コード: BJ70300001

担当者: 伊東 真里

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 病院の臨床心理士

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床心理査定技法としての心理検査の意味についての理解を深め、臨床現場で適用される心理検査(投映法)について、実践を通して習熟し、臨床場面で応用できる能力を身につける。また、臨床場面で注意すべき、倫理的問題についても考察を深める。

到達目標: 臨床心理学の深い知識と実証的態度を身につけるとともに、心理臨床場面でクライアントの不応症症状に応じた心理アセスメントの方法について、医学的・心理的・教育的な視点から総合的に捉え、治療に結びつけるケース理解のプロセスを学習する。そして、ケース理解を促進する上で有用な心理検査(投映法)について、個々の症例を通してその解釈と評価に習熟するとともに、症例に応じた治療方法について考察できることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 投映法による臨床心理査定1(ロールシャッハテスト)
2. 投映法による臨床心理査定2(ロールシャッハテスト)
3. 投映法による臨床心理査定3(ロールシャッハテスト)
4. 投映法による臨床心理査定4(SCT)
5. 投映法による臨床心理査定5(SCT)
6. 投映法による臨床心理査定6(SCT)
7. 投映法による臨床心理査定7(バウムテスト)
8. 投映法による臨床心理査定8(バウムテスト)
9. 事例研究(不登校)の総合アセスメント1
10. 事例研究(不登校)の総合アセスメント2
11. 事例研究(発達障害)の総合アセスメント1
12. 事例研究(発達障害)の総合アセスメント2
13. 事例研究(心身症)の総合アセスメント1
14. 事例研究(心身症)の総合アセスメント2
15. まとめとレポート(アセスメントについて)

特記事項: なし

授業方法:

1. 事例のアセスメント
2. 事例のアセスメント
3. 事例のアセスメント
4. 事例のアセスメント
5. 事例のアセスメント
6. 事例のアセスメント
7. 事例のアセスメント
8. 事例のアセスメント
9. 事例のアセスメント
10. 事例のアセスメント
11. 事例のアセスメント
12. 事例のアセスメント
13. 事例のアセスメント
14. 事例のアセスメント
15. レポート作成

(すべての授業を対面授業で行う)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 心理検査の解釈(180分)(ロールシャッハテストについて)
2. 心理検査の解釈(180分)(ロールシャッハテストについて)

3. 心理検査の解釈(180分)(ロールシャッハテストについて)
4. 心理検査の解釈(180分)(SCTについて)
5. 心理検査の解釈(180分)(SCTについて)
6. 心理検査の解釈(180分)(SCTについて)
7. 心理検査の解釈(180分)(バムテストについて)
8. 心理検査の解釈(180分)(バムテストについて)
9. 総合評価(180分)(不登校について)
10. 総合評価(180分)(不登校について)
11. 総合評価(180分)(発達障害について)
12. 総合評価(180分)(発達障害について)
13. 総合評価(180分)(心身症について)
14. 総合評価(180分)(心身症について)
15. 臨床心理査定のまとめ(180分)(アセスメントについて)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 治療に結びつけるケース理解のプロセスを理解できている。(60~69点)
 ケースを通して、その解釈と評価に習熟するとともに、ケースに応じた治療方法について考察できている。(80~100点)

課題へのフィードバック:
 課題へのフィードバックは、課題を発表させるなどして、全体的な評価をおこなう。

教科書: 適宜授業中に指示する。

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:
 心理検査に関する基本的な知識を身につけておくことが望ましいでしょう。
 15回目に課題レポートを実施(時間:30分 配点:50点)

科目名: 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)

クラス:

授業コード: BJ70400001

担当者: 松本 剛

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 学校臨床心理学の理論・方法と学校臨床が対象とする教育課題への対応について、理解を深める。

到達目標: 学校臨床心理学の理論や方法が理解できるとともに、学校臨床と関連する生徒指導上の教育課題に対応するための基礎的な実践力を身につけることができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 学校臨床と関連する生徒指導・教科指導上の教育課題について概観します。
2. 学校と学校臨床 生徒指導・教科指導をはじめとする学校における諸課題とスクールカウンセラーの役割について考えます。
3. スクールカウンセリング チーム学校の考え方を紹介し、その中でスクールカウンセラーが果たす役割について考え、話し合います。
4. 学校危機 学校危機について概観し、その具体と対応について紹介します。特にスクールカウンセラーの役割について考えます。
5. 不登校 不登校の定義、現状を知り、どのような支援が必要かについて紹介し、話し合います。
6. いじめ いじめとは何かについて知り、その傾向や重大事態について紹介し、話し合います。
7. 暴力行為・少年非行 児童虐待・ヤングケアラー 暴力・非行への対応、家庭におけるさまざまな課題への学校のかかわりとスクールカウンセラーの役割について考えます。
8. 自殺未然防止、発達障がいのある子どもの教育臨床的検討 命の教育に関するスクールカウンセラーの役割について考えます。
9. さまざまな背景をもつ児童生徒、発達障がいのある子どもの教育臨床的検討 学校における発達障がいのある児童生徒へのかかわり、外国にルーツのある子どもや性に関する課題、性的マイノリティなどさまざまな教育臨床的課題について考えます。
10. インターネット・スマートホンへの対応 インターネットをめぐる諸問題とそれらへの対応について考えます。
11. 学校教師との関係性の構築 さまざまな課題についての学びを経て、チーム学校の一員としてのスクールカウンセラーのありようについて考えます。
12. 学校教育臨床にかかわる臨床心理学的理論と実際 学校臨床に活かすことができる臨床心理学の諸理論とその実際を学びます。
13. 学校における事例研究への関わり1 学校における事例研究でのファシリテーターとしての役割を学びます。具体的方法としてPCAGIP法の理論を学びます。
14. 学校における事例研究への関わり PCAGIP法を体験し、学校での事例研究におけるファシリテーターの役割を体験的に学びます。
15. まとめ(学校臨床の総合的討議)

特記事項: なし

授業方法: 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 講義・討議・発表・レポート
3. 講義・討議・発表・レポート
4. 講義・討議・発表・レポート
5. 講義・討議・発表・レポート
6. 講義・討議・発表・レポート
7. 講義・討議・発表・レポート
8. 講義・討議・発表・レポート
9. 講義・討議・発表・レポート
10. 講義・討議・発表・レポート
11. 講義・討議・発表・レポート
12. 講義・討議・発表・レポート
13. 講義・討議・発表・レポート
14. 演習・討議・発表・レポート
15. 討議・全体レポート

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. これまでの学習の振り返り(180分)
2. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
3. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
4. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
5. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
6. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
7. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
8. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
9. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
10. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
11. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
12. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
13. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
14. 講義の事前視聴 (on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
15. 課題の整理(総合レポート)(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 学校臨床心理学の基盤となる考え方を理解できる。(60～69点)
 学校臨床が関連する教育課題への実践力の基礎を身につけることができる。(80～100点)

課題へのフィードバック:
 必要に応じて、適宜、個別または全体にフィードバックする。

教科書: 特になし。

参考書: 授業の中で、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

将来、スクールカウンセラーなどで教育分野での活動を考えている人は少なくないと思います。臨床心理学の視点をどのように学校教育に活かしていくかを考えながら、授業に参加してほしいと思います。

科目名: 教育学演習 I

クラス:

授業コード: BK00100001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代の教育問題について考察し、教育学の基本文献を通して教育についての理解を深める。文献解読と相互の対話を通して、各自の問題・課題を見出し、深く思索して問題解決の手掛かりを探る。

到達目標: 1. 教育および教育学に関する専門教養を身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を培う。
2. 修士論文のテーマについて考察し、計画を立てる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、研究倫理指導
2. 古代ギリシャの教育学(1)その特徴と時代背景
3. 古代ギリシャの教育学(2)その課題と展開
4. 古代ギリシャの教育学(3)その現代的意義
5. 近代の教育学(1)その特徴と時代背景
6. 近代の教育学(2)その課題と展開
7. 近代の教育学(3)その現代的意義
8. 現代の教育学(1)現代の特徴とその教育学的課題
9. 現代の教育学(2)その展開と展望
10. 教育学の根源を考える(1)問題意識
11. 教育学の根源を考える(2)問題の本質
12. 教育学の根源を考える(3)問題解決方法の研究
13. 教育学の根源を考える(4)問題解決への提言
14. 教育学の根源を考える(5)提言の検証
15. まとめ

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。各回の授業計画と並行して修士論文草稿作成のための指導を行う。

授業方法: 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。

すなわち：

1. 教育および教育学に関する専門教養を基本的なレベルにおいて身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる基礎力を培う。

2. 修士論文のテーマについて基本的な水準において考察し、概略的に計画を立てる。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。

1. 教育および教育学に関する専門教養を高い水準において身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を高次のレベルにおいて培う。

2. 修士論文のテーマについて深く考察し、綿密に計画を立てる。

課題へのフィードバック：

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書： 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

参考書： 授業中に適宜配布又は指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

問題意識を深め、研ぎ澄ますという点に注力すること。

(わからない、知りたいという思いを何よりも大切にすること。)

科目名: 教育学演習 I

クラス:

授業コード: BK00100002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育学に関する基本文献や資料を理解し、研究のための基盤を養うとともに、教育及び幼児教育についての見方、考え方を深める。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行する。

到達目標: 1. 教育及び幼児教育に関する専門的な知識を身に付ける。
2. 教育学的に思考する能力を身に付ける。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション、研究倫理について
2. 近代の教育学と教育思想について I
3. 近代の教育学と教育思想について II
4. 現代の教育学と教育思想について III
5. 近代の幼児教育思想について I
6. 現代の幼児教育思想について II
7. 教育学の文献・資料を読む I
8. 教育学の文献・資料を読む II
9. 教育学の文献・資料を読む III
10. 教育学の文献・資料を読む IV
11. 幼児教育(思想)に関する文献・資料を読む I
12. 幼児教育(思想)に関する文献・資料を読む II
13. 幼児教育(思想)に関する文献・資料を読む III
14. 幼児教育(思想)に関する文献・資料を読む IV
15. まとめ(教育思想家・幼児教育思想家について、研究倫理について)

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: ・近代・現代の教育学、幼児教育思想に関する文献や資料を読み考えるとともに、教育学的なものの見方、考え方についてディスカッション等を行う。講義とともに意見交換を行う。
・対面授業とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習した内容の復習(90分)
2. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(120分)
3. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(120分)
4. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(120分)
5. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(120分)
6. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(120分)
7. 資料の購読及び整理(240分)
8. 資料の購読及び整理(240分)
9. 資料の購読及び整理(240分)
10. 資料の購読及び整理(240分)
11. 資料の購読及び整理(240分)
12. 資料の購読及び整理(240分)
13. 資料の購読及び整理(240分)
14. 資料の購読及び整理(240分)
15. 学習した内容の復習(90分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

| | |
|-------|--|
| 評価基準: | 可 (60～69) |
| | ○学修: 基本的な学びができている。 |
| | ○レポート: 学修のまとめが反映されている。 |
| | ○研究的姿勢: 教育及び幼児教育について問題意識を持って取り組んでいる。 |
| | 優 (80～100) |
| | ○学修: 包括的な学びと固有の学びができている。 |
| | ○レポート: 学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。 |
| | ○研究的姿勢: 教育及び幼児教育について深い問題意識を持ちながら取り組んでいる。 |

課題へのフィードバック:

○レポートについては、学びの確認を行う。

教科書: なし。

参考書: 授業中に適宜配布又は指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

- 近代から現代にかけての基本的な教育及び幼児教育の理論や思想を幅広く学びましょう。
- 思想家そのものを深く知りましょう。
- 論文執筆に向けて、研究倫理等を知りましょう。

科目名: 教育学演習 I

クラス:

授業コード: BK00100003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育の本質について考察し、自己の在り方、教師の本質について、各自の問題・課題を見出し、問題解決の端緒を探る。 そのためにボルノー教育学を深く精読していく。

到達目標:

1. 教育および教育学の本質を探り、課題を自ら発見し、思考し、判断し、表現できる力を培う。
2. 修士論文のテーマについて考察し、計画を立てる。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. ガイダンス、研究倫理指導
2. ボルノーの教育学(1)その特徴と今日的課題を探る
3. ボルノーの教育学(2)その特徴と今日的課題を探る
4. ボルノーの教育学(3)その特徴と今日的課題を探る
5. ボルノーの教育学(4)その特徴と今日的課題を探る
6. ボルノーの教育学(5)その特徴と今日的課題を探る
7. フランクルの教育学(1)その特徴と今日的課題を探る
8. フランクルの教育学(2)その特徴と今日的課題を探る
9. フランクルの教育学(3)その特徴と今日的課題を探る
10. フランクルの教育学(4)その特徴と今日的課題を探る
11. フランクルの教育学(5)その特徴と今日的課題を探る
12. フランクルの教育学(6)その特徴と今日的課題を探る
13. フランクルの教育学(7)その特徴と今日的課題を探る
14. フランクルの教育学(8)その特徴と今日的課題を探る
15. まとめ

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。

すなわち：

1. 教育および教育学に関する専門教養を基本的なレベルにおいて身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる基礎力を培う。

2. 修士論文のテーマについて基本的な水準において考察し、概略的に計画を立てる。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。

1. 教育および教育学に関する専門教養を高い水準において身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を高次のレベルにおいて培う。

2. 修士論文のテーマについて深く考察し、綿密に計画を立てる。

課題へのフィードバック：

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点について具体的に講評する。

教科書： 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

参考書： 授業中に指示する

授業・準備学習のアドバイス：

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

科目名: 教育学演習 I

クラス:

授業コード: BK00100004

担当者: 森 真理

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 「教育とは何か?」の問いを携えて、教育と教育学の根本を考察する。乳幼児期からの教育に関する文献を精読することから、自らの問題・課題を見出し、修士論文作成の基盤を育み、方向性を明確化する。

到達目標:

1. 教育・教育学の根本を考察し、理解を深める。
2. 乳幼児期からの教育についてクリティカル(批判的)な視点を育み、問題提起する心構えを身につける。
3. 子どもを取り巻く教育をめぐる世界の動き・課題について理解し、問題意識を向上する。
4. 修士論文について考察し、テーマを絞り込めるようにする。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 本学の研究倫理基準について学ぶ
2. 乳幼児教育の現状と課題: ① 世界の動きから
3. 乳幼児教育の現状と課題: ② 日本の動きから
4. 乳幼児教育への誘い: ① 子どもを見るということ
5. 乳幼児教育への誘い: ② 子どもを見るということ
6. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ①
7. 乳幼児教育への誘い: ③ 子どもが「発達する」ということ
8. 乳幼児教育への誘い: ④ 子どもが「発達する」ということ
9. 乳幼児教育への誘い: ⑤ 保育思想の源泉をさぐる
10. 乳幼児教育への誘い: ⑥ 保育思想の源泉をさぐる
11. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ②
12. 乳幼児教育への誘い: ⑥ 「ともに生きる」保育
13. 乳幼児教育への誘い: ⑥ 「アートの思考」の教育
14. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ③
15. まとめ: 振り返りと今後の展望

特記事項: なし

授業方法:

1. 演習(対面)
2. 講義・ディスカッション(対面)
3. 講義・ディスカッション(対面)
4. 講義・発表・ディスカッション(対面)
5. 講義・発表・ディスカッション(対面)
6. 発表・ディスカッション(対面)
7. 講義・発表・ディスカッション(対面)
8. 講義・発表・ディスカッション(対面)
9. 講義・発表・ディスカッション(対面)
10. 講義・発表・ディスカッション(対面)
11. 発表・ディスカッション(対面)
12. 講義・発表・ディスカッション(対面)
13. 講義・発表・ディスカッション(対面)
14. 発表・ディスカッション(対面)
15. 演習(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予: 演習への意気込み・心構え(60分)、復: 演習内容の省察(90分)

2. 予: 文献精読(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
3. 予: 文献精読(180分)、復: 内容の省察(120分)
4. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
5. 予: 資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
6. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
7. 予: 資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
8. 予: 資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
9. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
10. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
11. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
12. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
13. 予: 発表に向けた準備を行う(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
14. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
15. 予: レポート作成(180分)、復: 今後の課題と展望を考察する(120分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 評価基準: | 60-69) |
| | ・当事者意識を持って演習に出席・参加する。 |
| | ・学びへの構えを意識し、学びを自分の言葉で表現する。 |
| | ・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、概略を述べる。 |
| | (70-79) |
| | ・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。 |
| | ・学びへの構えが整い、学びを自分の言葉で表現する。 |
| | ・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、具体的に概略を述べる。 |
| | (80-100) |
| | ・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。 |
| | ・問題意識を持ち、多角的に課題について考察する。 |
| | ・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、関連文献を探究する。 |

課題へのフィードバック:

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う

教科書: 佐伯 胖『幼児教育へのいざない 増補改訂版 円熟した保育者になるために』東京大学出版会 ISBN:978-4-13-053086-6, 2,420円(本体2,200円+税) 2014年

参考書: 適宜、授業にて紹介する

授業・準備学習のアドバイス:

- ・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
- ・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
- ・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目名: 教育学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK00200001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代の教育及び教育学に関する文献や資料を理解し、研究のための基盤を強固なものにするともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標:

1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を身に付ける。
2. 教育的に思考する力を身に付ける。
3. 修士論文の作成の仕方について学ぶ。
4. 修士論文に必要な文献・データを収集し、その読解・分析を進める。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 教育学の研究手法(1)問題の立て方
3. 教育学の研究手法(2)研究史の研究
4. 教育学の研究手法(3)思索・研究の展開
5. 教育学の研究手法(4)オリジナリティの探求
6. 教育哲学の古典を読む(1)ペスタロッチ:問題提起
7. 教育哲学の古典を読む(2)ペスタロッチ:思索の展開
8. 教育哲学の古典を読む(3)ペスタロッチ:思索の深化
9. 教育哲学の古典を読む(4)ペスタロッチ:新たな解答
10. 道徳教育の古典を読む(1)カント:問題提起
11. 道徳教育の古典を読む(2)カント:思索の展開
12. 道徳教育の古典を読む(3)カント:思索の深化
13. 道徳教育の古典を読む(4)カント:新たな解答
14. 修士論文の作成指導(1)序論の書き方
15. 修士論文の作成指導(2)本論展開の構想

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。各回の授業計画と並行して修士論文草稿作成のための指導を行う。

授業方法: 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。

- ・教員との意見交換
- ・受講生相互の意見交換・討議
- ・グループワーク
- ・プレゼンテーション
- ・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
- ・最低限の到達度(60～69点)
- 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識をその概要において身に付ける。
 2. 教育学的に思考する基本的な力を身に付ける。
 3. 修士論文の作成の仕方について基本的な水準で学ぶ。
 4. 修士論文に必要な基本文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
- ・望ましい到達度(80～100点)
- 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を高次の水準において身に付ける。
 2. 教育学的に思考する高次の力を身に付ける。
 3. 修士論文の作成の仕方について高次のレベルで学ぶ。
 4. 修士論文に必要な文献・データを詳細に収集し、その綿密な読解・分析を進める。
-

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: 授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

科目名: 教育学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK00200002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代の教育学や幼児教育思想に関する文献や資料を理解し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標:

1. 現代の教育及び幼児教育に関する専門的な知識、とくに理論や思想内容のキーワードを理解する。
2. 教育的に思考する力を身に付ける。
3. 修士論文の作成の仕方について学ぶ。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 近代の教育学及び幼児教育思想のキーワード(学生の研究の視点)Ⅰ
3. 近代の教育学及び幼児教育思想のキーワード(学生の研究の視点)Ⅱ
4. 現代の教育学及び幼児教育思想のキーワード(学生の研究の視点)Ⅰ
5. 現代の教育学及び幼児教育思想のキーワード(学生の研究の視点)Ⅱ
6. 教育学の文献・資料をキーワード(学生研究の視点)で読むⅠ
7. 教育学の文献・資料をキーワード(学生の研究の視点)で読むⅡ
8. 幼児教育思想に関する文献・資料をキーワード(学生の研究の視点)で読むⅠ
9. 幼児教育思想に関する文献・資料をキーワード(学生の研究の視点)で読むⅡ
10. 教育学の研究の仕方Ⅰ
11. 幼児教育思想の研究の仕方Ⅱ
12. レポート発表(プレゼンテーション)Ⅰ
13. レポート発表(プレゼンテーション)Ⅱ
14. 修士論文の具体的な作成指導Ⅰ
15. 修士論文の具体的な作成指導Ⅱ

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法:

- ・現代の教育学、幼児教育思想に関する文献や資料を読み考えるとともに、自らのテーマや課題を見つけ研究的に進めるための方法を探る。講義及びプレゼンテーションを行う。
- ・対面授業とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習した内容の復習(60分)
2. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
3. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
4. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
5. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
6. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
7. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
8. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
9. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
10. 課題(120分)
11. 課題(120分)
12. プレゼン案検討・作成(240分)
13. プレゼン案検討・作成(240分)
14. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(240分)
15. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(240分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準:

可 (60～69)

- 学修: 基本的な学びができている。
- レポート: 学修のまとめが反映されている。
- 研究的姿勢: 教育及び幼児教育について問題意識を持って取り組んでいる。

優 (80～100)

- 学修: 包括的な学びと固有の学びができている。
- レポート: 学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。
- 研究的姿勢: 教育及び幼児教育について深い問題意識を持ちながら取り組んでいる。

課題へのフィードバック:

- レポートとプレゼンテーションについては、学びの確認を行う。

教科書: なし。

参考書: 授業中に適宜配布及び指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

- キーワードによって教育学や幼児教育思想の理論の理解を行い、テーマの探究と発見に役立てましょう。
- レポート作成とプレゼンテーションを行います、しっかりと自分の問題意識や発表の仕方を身に付けましょう。

科目名: 教育学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK00200003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代の教育及び教育学に関する文献や資料を理解(主としてボルノーとフランクフルを熟読)し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標:

1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を身に付ける。
2. 教育学的に思考する力を身に付ける。
3. 修士論文の作成の仕方について学ぶ。
4. 修士論文に必要な文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. ボルノーの教育学と教育思想について(1)
3. ボルノーの教育学と教育思想について(2)
4. ボルノーの教育学と教育思想について(3)
5. ボルノーの教育学と教育思想について(4)
6. ボルノー教育学の文献・資料を読む(1)
7. ボルノー教育学の文献・資料を読む(2)
8. ボルノー教育思想に関する文献・資料を読む(3)
9. フランクフル教育思想に関する文献・資料を読む(1)
10. フランクフル教育思想に関する文献・資料を読む(2)
11. フランクフル教育思想に関する文献・資料を読む(3)
12. フランクフル教育思想に関する文献・資料を読む(4)
13. レポート発表(1)
14. 修士論文の作成指導(1)
15. 修士論文の作成指導(2)

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。

- ・教員との意見交換
- ・受講生相互の意見交換・討議
- ・グループワーク
- ・プレゼンテーション
- ・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

評価方法:

| | | | | | |
|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| その他1: | | | % | | |

評価基準:

- ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
- 1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識をその概要において身に付ける。
- 2. 教育学的に思考する基本的な力を身に付ける。
- 3. 修士論文の作成の仕方について基本的な水準で学ぶ。
- 4. 修士論文に必要な基本文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
- ・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
- 1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を高次の水準において身に付ける。
- 2. 教育学的に思考する高次の力を身に付ける。
- 3. 修士論文の作成の仕方について高次のレベルで学ぶ。
- 4. 修士論文に必要な文献・データを詳細に収集し、その綿密な読解・分析を進める。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: 授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

科目名: 教育学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK00200004

担当者: 森 真理

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 乳幼児期からの教育のあり方について、文献等の精読から理解を深め、考察する。自らの研究課題の基盤を明確化し、修士論文作成へとその構成・研究方法について修得する。

到達目標: 1. 教育・教育学の理解を深め、クリティカル(批判的)な視点から捉え、問題提起する心構えを身につける。
2. 修士論文に必要な文献(先行研究)の精読を通して、新たな問題を見出す。
3. 修士論文作成に向けた研究方法について理解し、修得する。
4. 修士論文について学び、調査を進める。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 演習授業について把握する。
2. 研究倫理: 本学の研究倫理基準から学ぶ。
3. 研究のメソドロジー: ① 量的研究
4. 研究のメソドロジー: ② 質的研究
5. 各自の論文に向けた発表とディスカッション ①
6. 各自の論文に向けた発表とディスカッション ②
7. 研究のメソドロジー: ③ アクションリサーチ
8. 研究のメソドロジー: ④ エスノグラフィー
9. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ③
10. 研究のメソドロジー: ⑤ ケーススタディ
11. 研究のメソドロジー: ⑥ ナラティブリサーチ
12. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ④
13. 研究のメソドロジー: ⑥ 歴史的研究
14. 修士論文作成指導①
15. 修士論文作成指導②: 振り返りと今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 演習・講義(対面)

1. 演習
2. 講義・ディスカッション
3. 講義・発表・ディスカッション
4. 講義・発表・ディスカッション
5. 発表・ディスカッション
6. 発表・ディスカッション
7. 講義・発表・ディスカッション
8. 講義・発表・ディスカッション
9. 発表・ディスカッション
10. 講義・発表・ディスカッション
11. 講義・発表・ディスカッション
12. 発表・ディスカッション
13. 講義・発表・ディスカッション
14. 講義・ディスカッション
15. 講義・ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 予: 演習への意気込み心構え(60分)、復: 演習内容の省察(90分)
2. 予: 文献精読(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
3. 予: 文献精読(180分)、復: 内容の省察(120分)
4. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
5. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
6. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
7. 予: 資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
8. 予: 資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
9. 予: 発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
10. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
11. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
12. 予: 発表に向けた準備を行う(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
13. 予: 文献精読(120分)、復: 演習内容の省察(120分)
14. 予: レポート作成(180分)、復: 演習内容の省察(120分)
15. 予: レポート作成(180分)、復: 今後の課題と展望を考察する(120分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
- (60－69)
- ・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
 - ・学びへの構えを意識し、学びを自分の言葉で表現する。
 - ・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、概略を述べる。
- (70－79)
- ・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
 - ・学びへの構えが整い、学びを自分の言葉で表現する。
 - ・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、具体的に概略を述べる。
- (80－100)
- ・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
 - ・問題意識を持ち、多角的に課題について考察する。
 - ・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、関連文献を探究する。

課題へのフィードバック:

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書: 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

参考書: 適宜、授業にて紹介する。

- 授業・準備学習のアドバイス:**
- ・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
 - ・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
 - ・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目名: 教育学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK00300001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。
具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

到達目標:

1. テーマについての理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について再検討する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 修士論文執筆指導(1)序論の構成
3. 修士論文執筆指導(2)本論の展開
4. 修士論文執筆指導(3)結論のまとめ方
5. 教育哲学の古典を読む(1)デューイ:問題提起
6. 教育哲学の古典を読む(2)デューイ:思索の展開
7. 教育哲学の古典を読む(3)デューイ:思索の深化
8. 教育哲学の古典を読む(4)デューイ:新たな解答
9. 修士論文執筆指導(4)オリジナリティの追及
10. 道德教育の現代思想を読む(1)コールバーグ:問題提起
11. 道德教育の現代思想を読む(2)コールバーグ:思索の展開
12. 道德教育の現代思想を読む(3)コールバーグ:思索の深化
13. 道德教育の現代思想を読む(4)コールバーグ:新たな解答
14. 修士論文執筆指導(5)文献の活用
15. 修士論文執筆指導(6)データの収集と活用

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。
各回の授業計画と並行して修士論文草稿作成のための指導を行う。

授業方法: 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|----|----------|---------------|---|----------|--------------|----|----------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 | % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

- 評価基準:**
- ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち:
 1. テーマについての基礎的理解を深める。
 2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について概略においてまとめる。
 3. 修士論文の執筆を進めるとともに基本的な思索の深化をはかる。
 4. 修士論文の全体構成について概略的に再検討する。
 - ・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち:
 1. テーマについての理解を専門的な水準にまで深める。
 2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について専門的な水準においてまとめる。
 3. 修士論文の執筆を進めるとともに専門的な思索の深化をはかる。
 4. 修士論文の全体構成について緻密に再検討する。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

参考書: 授業中に指示する

授業・準備学習のアドバイス:

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

科目名: 教育学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK00300002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深め、修士論文作成のための基盤を構築する。

到達目標:

1. 先行研究をまとめる。
2. 必要な参考文献を収集し、理解を深める。
3. 修士論文の計画を作成する。
4. 修士論文の内容構成について検討する。

各回の授業計画:

1. 修士論文の執筆計画の作成Ⅰ
2. 修士論文の具体的な執筆計画の作成Ⅱ
3. 先行研究の読解Ⅰ
4. 先行研究の読解Ⅱ
5. 修士論文のテーマを確定し、問題意識・執筆目的・執筆内容の概要を発表
6. 関連文献の読解Ⅰ
7. 関連文献の読解Ⅱ
8. 関連文献の読解Ⅲ
9. 修士論文の内容についての吟味・検討Ⅰ
10. 修士論文の内容についての吟味・検討Ⅱ
11. 修士論文の内容についての吟味・検討Ⅲ
12. 修士論文案の発表Ⅰ
13. 修士論文の内容についての吟味・検討Ⅳ
14. 修士論文の内容についての吟味・検討Ⅴ
15. 修士論文案の発表Ⅱ

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法:

- ・修士論文の執筆に入ることになるが、自らの問題意識を深め、修士論文の作成に必要な文献等を読解しまとめていく。また、修士論文の作成方法、修士論文の内容等について議論を行い、具体案を構築できるようにしていく。読み合わせ、議論を十分にを行い、発表を行う。講義、意見交換、プレゼンテーションを行う。
- ・対面授業とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
2. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
3. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
4. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
5. 発表240分
6. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
7. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
8. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
9. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
10. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
11. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
12. 発表240分
13. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
14. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 可(60～69)
 ○学修:基本的な学びができている。
 ○レポート及びプレゼンテーション:基本的な学修のまとめが反映されている。
 優(80～100)
 ○学修:包括的な学びと固有の学びができている。
 ○レポート及びプレゼンテーション:学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。

課題へのフィードバック:
 ○レポート及びプレゼンテーションについては、学びの確認を行う。

教科書: なし。

参考書: 授業中に適宜配布及び指示する。

授業・準備学習のアドバイス:
 ○修士論文執筆の作業に入りましょう。
 ○問題意識を深めるために、これまでの文献や資料をもう一度読んで確認しましょう。
 ○レポート及びプレゼンテーションについては、学びの確認をしましょう。

科目名: 教育学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK00300003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。
具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

到達目標:

1. テーマについての理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について再検討する。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
6. 明晰な文章の作成

各回の授業計画:

1. オリエンテーション 明晰な文章の作成指導
2. 修士論文執筆指導(1) 明晰な文章の作成指導 序論の構成
3. 修士論文執筆指導(2) 明晰な文章の作成指導 本論の展開
4. 修士論文執筆指導(3) 明晰な文章の作成指導 結論のまとめ方
5. 教育哲学を読む(1) ボルノー: 問題提起 明晰な文章作成の指導
6. 教育哲学を読む(2) ボルノー: 思索の展開
7. 教育哲学を読む(3) ボルノー: 思索の深化
8. 教育哲学を読む(4) ボルノー: 明晰な文章作成の指導
9. 修士論文執筆指導(4) オリジナリティの追及 明晰な文章作成の指導
10. 臨床育の現代思想を読む(1) フランクフル: 問題提起
11. 臨床教育の現代思想を読む(2) フランクフル: 思索の展開
12. 臨床教育の現代思想を読む(3) フランクフル: 思索の深化
13. 臨床教育の現代思想を読む(4) フランクフル: 明晰な文章作成の指導
14. 修士論文執筆指導(5) 文献の活用 明晰な文章作成の指導
15. 修士論文執筆指導(6) 明晰な文章作成の指導

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

評価方法: 授業へのとりくみ: 40 % 確認テスト: - % レポート: 60 %

| | |
|-------|---|
| その他1: | % |
| その他2: | % |

| | |
|--------------|---|
| 評価基準: | <p>・最低限の到達度(60～69点)</p> <p>上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。</p> <p>すなわち:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマについての基礎的理解を深める。 2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について概略においてまとめる。 3. 修士論文の執筆を進めるとともに基本的な思索の深化をはかる。 4. 修士論文の全体構成について概略的に再検討する。 <p>・望ましい到達度(80～100点)</p> <p>上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。</p> <p>すなわち:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマについての理解を専門的な水準にまで深める。 2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について専門的な水準においてまとめる。 3. 修士論文の執筆を進めるとともに専門的な思索の深化をはかる。 4. 修士論文の全体構成について緻密に再検討する。 |
|--------------|---|

| | |
|---------------------|---|
| 課題へのフィードバック: | 課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点について具体的に講評する。 |
|---------------------|---|

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 教科書: | 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。 |
|-------------|--------------------------------|

| | |
|-------------|----------|
| 参考書: | 授業中に指示する |
|-------------|----------|

| | |
|-----------------------|---|
| 授業・準備学習のアドバイス: | ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育について自分事として実存的に関わってほしい。 |
|-----------------------|---|

科目名: 教育学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK00300004

担当者: 森 真理

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文の調査研究方法について理解を深め、データ収集について考察する。討議を重ね、執筆に専念する。先行研究や文献により、さらに自らの研究と問題意識を明確化する。

到達目標:

1. 修士論文に必要な文献(先行研究を含む)の精読を通して、クリティカルに考察する。
2. 修士論文に必要な文献(先行研究を含む)の精読を通して、自らの修士論文の独自性を認識する。
3. 修士論文作成に向けたデータ収集とその分析を行いつつ執筆、構成する。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 演習授業の理解・把握。
2. 研究倫理: 本学の研究倫理基準と自らの研究倫理についての考察。
3. 修士論文の構成と考察: ①構造
4. 修士論文の構成と考察: ②先行研究・文献分析と表記
5. 修士論文経過発表と討議: ①
6. 修士論文内容の討議・検討: ①
7. 修士論文内容の討議・検討: ②
8. 修士論文内容の討議・検討: ③
9. 修士論文内容の討議・検討: ④
10. 修士論文の構成と考察: ③データ収集・整理
11. 修士論文の構成と考察: ④データ収集・考察・表記
12. 修士論文経過発表と討議: ②
13. 修士論文内容の討議・検討: ⑤
14. 修士論文内容の討議・検討: ⑥
15. まとめ: 振り返りと今後の展望

特記事項: なし

授業方法:

1. ディスカッション(対面)
2. 講義・ディスカッション(対面)
3. 講義・ディスカッション(対面)
4. 講義・ディスカッション(対面)
5. 発表・ディスカッション(対面)
6. 発表・ディスカッション(対面)
7. 講義・発表・ディスカッション(対面)
8. 講義・発表・ディスカッション(対面)
9. 発表・ディスカッション(対面)
10. 講義・発表・ディスカッション(対面)
11. 講義・ディスカッション(対面)
12. 発表・ディスカッション(対面)
13. 講義・発表・ディスカッション(対面)
14. 講義・ディスカッション(対面)
15. ディスカッション(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習の内容: 次回の授業内容に応じて、文献を読み、ディスカッションの話題提供、及び問題提起を準備する。
- ・復習の内容: その日の授業内容を省察することに加えて、文献の探索や更なる問いを立てる等、持続的・発展的な振り返りを行う。

・予習・復習の時間: 各回の授業につき、それぞれ最低2時間を要する。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (60－69)
・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
・修士論文執筆において、当事者意識を持ち、従事している。
(70－79)
・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
・修士論文作成において、全体構成を鑑みつつ、計画性を持って従事している。
(80－100)
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
・問題意識を持ち、多角的に捉えつつ、論文作成に従事している。
・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、積極的に関連文献を探究し執筆する。

課題へのフィードバック:
演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

教科書: 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

参考書: 適宜、授業にて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目名： 教育学演習Ⅳ

クラス：

授業コード： BK00400001

担当者： 隈元 泰弘

単位数： 2

科目に関連した実務経験： -

教職課程における位置づけ： -

含めることが必要な事項： -

教科に関する専門的事項： -

一般的包括的科目： -

授業の目的： 教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。
修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

到達目標：

1. 修士論文を完成させる。
2. 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。

各回の授業計画：

1. 修士論文作成計画の再検討
2. 修士論文執筆箇所の発表と指導(1)序論における問題提起
3. 修士論文執筆箇所の発表と指導(2)序論における研究史への論究
4. 修士論文執筆箇所の発表と指導(3)序論における当該研究の位置づけ
5. 修士論文執筆箇所の発表と指導(4)本論の全体構成
6. 修士論文執筆箇所の発表と指導(5)本論各章の構成
7. 修士論文執筆箇所の発表と指導(6)本論各章の展開
8. 修士論文執筆箇所の発表と指導(7)本論各章の詳細
9. 修士論文執筆箇所の発表と指導(8)本論各章において残された課題
10. 修士論文執筆箇所の発表と指導(9)本論各章における当該課題の将来的展望
11. 修士論文執筆箇所の発表と指導(10)結論における全体の再考察
12. 修士論文執筆箇所の発表と指導(11)結論における当該研究の研究史上の意義づけ
13. 修士論文執筆箇所の発表と指導(12)結論における当該研究の独自性の明示と確認
14. 修士論文執筆箇所の発表と指導(13)結論において指摘すべき残された課題
15. 修士論文の完成稿の見直し

特記事項： 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法： 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間)：

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 50 % | 確認テスト： | - % | レポート： | 50 % |
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

評価基準： ・最低限の到達度(60～69点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。

すなわち：

1. 修士論文を必要不可欠な学術的レベルで完成させる。
2. 教育に関する基本的な観察力・思考力を養い、基礎的な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得るための基盤としての資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を必要不可欠な水準において培い、学校教育の発展に貢献できる基本的な力を養う。
・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。

すなわち：

1. 修士論文を高い学術的レベルにおいて完成させる。
2. 教育に関する批判的観察力・思考力を高い水準において養い、深く先鋭な教育学的思索力を高度に培って、教育界の担い手たり得る高い資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する高い専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に高度なレベルで貢献できる力を養う。

課題へのフィードバック：

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書： なし

参考書： 授業中に適宜指示する。

授業・準備学習のアドバイス：

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

科目名: 教育学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK00400002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育学演習の総まとめとして、修士論文を完成し、完成度を高めるために、推敲を重ねる。

到達目標: 1. 修士論文を完成させる。
2. 内容構成について再考する。
3. 推敲を重ねる。

各回の授業計画:

1. 修士論文作成に向けての留意点
2. 修士論文の内容についての再検討Ⅰ
3. 修士論文の内容についての再検討Ⅱ
4. 修士論文の内容についての再検討Ⅲ
5. 修士論文の内容についての再検討Ⅳ
6. 発表
7. 修士論文の執筆Ⅰ
8. 修士論文の執筆Ⅱ
9. 修士論文の執筆Ⅲ
10. 修士論文の執筆Ⅳ
11. 修士論文の執筆Ⅴ
12. 発表
13. 修士論文内容の推敲Ⅰ
14. 修士論文内容の推敲Ⅱ
15. 修士論文の完成

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: 修士論文を完成するために、修士論文の作成方法、修士論文の内容構成等を確かなものにし、具体的な執筆作業に入る。修士論文の内容について、繰り返し吟味検討を行い、完成度の高いものに仕上げていくようにする。修士論文の内容に関する吟味・検討や議論を進め、発表を通して修士論文の完成度を高めていくようにする。講義、意見交換、プレゼンテーションを行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 学習した内容の復習120分
2. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
3. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
4. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
5. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習150分
6. 発表240分
7. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
8. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
9. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
10. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
11. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
12. 発表240分
13. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
14. 学習すべき内容の予習・学習した内容の復習180分
15. 学習すべき内容の予習240分

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 可(60～69)
○学修:基本的な学びができている。
○レポート及びプレゼンテーション:基本的な学習のまとめが反映されている。
優(80～100)
○学修:包括的な学びと固有の学びができている。
○レポート及びプレゼンテーション:学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。

課題へのフィードバック:
○レポート及びプレゼンテーションについては、学びの確認を行う。

教科書: なし。

参考書: 授業中に適宜配布及び指示する。

授業・準備学習のアドバイス:
○修士論文執筆を着実に進めて行きましょう。
○そのために、教育学や幼児教育思想の基本文献の学びを確かなものにしてください。
○2回以上発表のチャンスがあります。発表の仕方を身に付けましょう。
○レポート及びプレゼンテーションについては、学びの確認を行います。

科目名: 教育学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK00400003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。
修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

到達目標:

1. 修士論文を完成させる。
2. 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
5. 明晰な文章の作成指導

各回の授業計画:

1. 修士論文作成計画の再検討 誤字脱字のチェック
2. 修士論文執筆箇所の発表と指導(1)序論における問題提起 誤字脱字のチェック
3. 修士論文執筆箇所の発表と指導(2)先行研究への論究 誤字脱字のチェック
4. 修士論文執筆箇所の発表と指導(3)先行研究への論究 当該研究の位置づけ 誤字脱字のチェック
5. 修士論文執筆箇所の発表と指導(4)先行研究と本論の相違点への論究 本論の全体構成 誤字脱字のチェック
6. 修士論文執筆箇所の発表と指導(5)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
7. 修士論文執筆箇所の発表と指導(6)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
8. 修士論文執筆箇所の発表と指導(7)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
9. 修士論文執筆箇所の発表と指導(8)先行研究と本論の相違点への論究 残された課題 誤字脱字のチェック
10. 修士論文執筆箇所の発表と指導(9)本論各章における当該課題の将来的展望 誤字脱字のチェック
11. 修士論文執筆箇所の発表と指導(10)結論における独自性の考察 誤字脱字のチェック
12. 修士論文執筆箇所の発表と指導(11)結論における独自性の考察 誤字脱字のチェック
13. 修士論文執筆箇所の発表と指導(12)結論における独自性の明示と確認 誤字脱字のチェック
14. 修士論文執筆箇所の発表と指導(13)結論において残された今後の課題 誤字脱字のチェック
15. 修士論文の完成稿の見直し 誤字脱字のチェック

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: すべての授業を対面授業で行う
授業方法
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

評価方法: 授業へのとりくみ: 50 % 確認テスト: - % レポート: 50 %

| | |
|-------|---|
| その他1: | % |
| その他2: | % |

| | |
|--------------|--|
| 評価基準: | <p>・最低限の到達度(60～69点)</p> <p>上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。</p> <p>すなわち:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文を必要不可欠な学術的レベルで完成させる。 2. 教育に関する基本的な観察力・思考力を養い、基礎的な教育学の思索力を培って、教育界の担い手たり得るための基盤としての資質能力を身に着ける。 3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を必要不可欠な水準において培い、学校教育の発展に貢献できる基本的な力を養う。 <p>・望ましい到達度(80～100点)</p> <p>上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。</p> <p>すなわち:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文を高い学術的レベルにおいて完成させる。 2. 教育に関する批判的観察力・思考力を高い水準において養い、深く先鋭な教育学の思索力を高度に培って、教育界の担い手たり得る高い資質能力を身に着ける。 3. 教育及び教育学に関する高い専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に高度なレベルで貢献できる力を養う。 |
|--------------|--|

| | |
|---------------------|--|
| 課題へのフィードバック: | <p>課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点について具体的に講評する。</p> |
|---------------------|--|

| | |
|-------------|-------------|
| 教科書: | なし |
| 参考書: | 授業中に適宜指示する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 授業・準備学習のアドバイス: | <p>教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育について自分事として実存的に関わってほしい。</p> |
|-----------------------|---|

科目名: 教育学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK00400004

担当者: 森 真理

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育学専攻における学修の総まとめとして修士論文を完成する。新たな学び・研究へと展望する。

到達目標:

1. 修士論文を完成する。
2. 推敲を重ね、クリティカル(批判的)に自己の修士論文を捉えられる。
3. 修士論文の意味・意義について再考察する。。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策を全うして、修士論文を完成する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション:演習授業の理解・把握。
2. 演習Ⅲにおける中間発表の省察と問題提起・展望
3. 修士論文作成・提出における心構え・留意点の確認
4. 修士論文経過発表と討議:① 序論
5. 修士論文経過発表と討議:② 序論
6. 修士論文経過発表と討議:③ 本論:文献・先行研究
7. 修士論文経過発表と討議:④ 本論:文献・先行研究
8. 修士論文経過発表と討議:⑤ 本論:調査・研究方法の考察
9. 修士論文経過発表と討議:⑥ 本論:調査・研究方法の考察
10. 修士論文経過発表と討議:⑦本論:調査・研究方法の考察
11. 修士論文経過発表と討議:⑧本論:調査・研究方法の考察
12. 修士論文経過発表と討議:⑨結論:総合考察・課題・展望
13. 修士論文経過発表と討議:⑩結論:総合考察・課題・展望
14. 修士論文完成稿の精査:①
15. まとめ:修士論文完成稿の精査②・振り返りと今後の展望

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮回の授業は、(対面)で行う。

なお、以下を総合的に取り入れて行う。

- ・教員からの講義
- ・教員と履修生とのディスカッション
- ・グループワーク
- ・視聴覚教材からの学び
- ・プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習の内容: 次回の授業内容に応じて、文献を読み、ディスカッションの話題提供、及び問題提起を準備する。
- ・復習の内容: その日の授業内容を省察することに加えて、文献の探索や更なる問いを立てる等、持続的・発展的な振り返りを行う。
- ・予習・復習の時間: 各回の授業につき、それぞれ最低2時間を要する。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (60－69)

- ・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
- ・修士号取得の要件を満たす論文の内容である。
(70－79)
- ・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
- ・修士号取得の要件を満たす論文の内容であり、独自性がある。
(80－100)
- ・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
- ・修士号取得の要件を満たす論文の内容であり、批判的(クリティカル)な思考が見出され、新たな知見を豊富に取り入れた論文である。
- ・教育学のこれからへと貢献度が高く、期待される。

課題へのフィードバック:

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。適宜、授業にて紹介する。

教科書: 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

参考書: 適宜、授業にて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

- ・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
- ・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
- ・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

科目名: 教育心理学演習 I

クラス:

授業コード: BK01100001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の習得である。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を迫る。

到達目標: 到達目標は以下の2点である

1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
2. 教育心理学・学校心理学の研究の方法、資料の分析の方法、及びまとめ方等、論文作成の基本技術を修得する。

各回の授業計画:

1. Introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2. 教育心理学・学校心理学と学校教育
3. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の現状
4. 教育心理学・学校心理学における教育臨床のスキル
5. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の測定
6. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の課題
7. 教育心理学・学校心理学の研究倫理基準・規定
8. 各自の論文発表・解説・討論(1)
9. 各自の論文発表・解説・討論(2)
10. 各自の論文発表・解説・討論(3)
11. 各自の論文発表・解説・討論(4)
12. 各自の論文発表・解説・討論(5)
13. 各自の論文発表・解説・討論(6)
14. 各自の論文発表・解説・討論(7)
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教員による講義と学生による発表。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

修士論文作成のために、各自の発表がある。そのために、次回の発表のための予習が 30 時間であり、発表後の関連文献の確認の復習が 30 時間である。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)関連文献等を批判的に読みこなしている。
(79～70点)関連文献等の理解ができている。
(69～60点)関連文献等の理解に偏りがある。

課題へのフィードバック:

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

教科書: 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

参考書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深める必要がある。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

科目名: 教育心理学演習 I

クラス:

授業コード: BK01100002

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文作成のために必要な教育心理学の研究内容と研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得することを目的とする。

到達目標: 到達目標は以下の2点である。

1. 修士論文作成に関連する学術論文の内容を理解する。
2. 教育心理学の研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションならびに本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育の講義
2. 教育心理学の研究内容(1)
3. 教育心理学の研究内容(2)
4. 教育心理学の研究法
5. 教育心理学の分析法
6. 教育心理学の学術論文を読む(1)
7. 教育心理学の学術論文を読む(2)
8. 教育心理学の研究倫理基準・規定
9. 教育心理学の研究論文の発表・討論(1)
10. 教育心理学の研究論文の発表・討論(2)
11. 教育心理学の研究論文の発表・討論(3)
12. 教育心理学の研究論文の発表・討論(4)
13. 教育心理学の研究論文の発表・討論(5)
14. 教育心理学の研究論文の発表・討論(6)
15. まとめ・講評

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: 講義、グループワーク、ディスカッション
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の予習・復習(180分)
2. 授業内容の予習・復習(180分)
3. 授業内容の予習・復習(180分)
4. 授業内容の予習・復習(180分)
5. 授業内容の予習・復習(180分)
6. 授業内容の予習・復習(180分)
7. 授業内容の予習・復習(180分)
8. 授業内容の予習・復習(180分)
9. 授業内容の予習・復習(180分)
10. 授業内容の予習・復習(180分)
11. 授業内容の予習・復習(180分)
12. 授業内容の予習・復習(180分)
13. 授業内容の予習・復習(180分)
14. 授業内容の予習・復習(180分)
15. 授業内容の予習・復習(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 20 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 80 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: (100点～80点)レポート課題に適切に対処できている。
(79～70点)レポート課題に対応できている。
(69～60点)参考文献等の読み込みが不十分なレポート課題への対処である。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

レポートの内容は、タイトルを明記し、テーマに沿って具体例を挿入すること。
日頃から教育心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

科目名: 教育心理学演習 I

クラス:

授業コード: BK01100003

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、修士論文作成のための教育心理学・学校心理学等の研究内容の理解と研究法の修得である。
 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行する。

到達目標: 到達目標は以下の2点である
 1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
 2. 教育心理学・学校心理学等の研究法、分析法、結果記述、考察及び課題整理等、論文作成の基本技術を修得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション、本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育の講義
2. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(1)
3. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(2)
4. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(3)
5. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(4)
6. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(5)
7. 教育心理学・学校心理学等の研究倫理基準・規定
8. 修士論文に係る研究の発表・討論(1)
9. 修士論文に係る研究の発表・討論(2)
10. 修士論文に係る研究の発表・討論(3)
11. 修士論文に係る研究の発表・討論(4)
12. 修士論文に係る研究の発表・討論(5)
13. 修士論文に係る研究の発表・討論(6)
14. 修士論文に係る研究の発表・討論(7)
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
 講義、発表及び協議。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

先行研究の発表及び資料作成、修士論文に係る研究の発表及び資料作成を行う予習に毎回平均して180分(合計2700分)、授業における協議内容の整理・総括を踏まえた文献収集・検討を行う復習に毎回平均して180分(合計2700分)が必要である。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)関連文献等の理解が批判的検討を加えてできている。
 (79～70点)関連文献等の理解が全般的にできている。
 (69～60点)関連文献等の理解が部分的にできている。

課題へのフィードバック:

先行研究に関する情報の提供、文献収集の偏り等に対する指摘、理解不足への助言・指導を行う。
 課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックする。

教科書: 教科書は指定しないが、必要に応じて資料を配布する。

参考書: 日本学会協議会協力学術研究団体(<https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)が発行している雑誌に掲載された学術論文。

授業・準備学習のアドバイス:

先行研究をどれだけ吟味したかが、修士論文の質に大きく影響する。なるべく多くの文献に当たるように努めてもらいたい。

科目名: 教育心理学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK01200001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の訓練、並びに修士論文に関連するデータの収集である。

到達目標: 到達目標は以下の2点である

1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

各回の授業計画:

1. introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとり研究倫理教育の講義
2. 学校心理学の研究論文の発表・討論(1)
3. 学校心理学の研究論文の発表・討論(2)
4. 教育臨床の研究論文の発表・討論(1)
5. 教育臨床の研究論文の発表・討論(2)
6. 統計を用いた研究論文の発表・討論(1)
7. 統計を用いた研究論文の発表・討論(2)
8. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
9. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
10. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(5)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(6)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(7)
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教員による講義と学生による発表。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

学術論文の紹介、ならびに各自の研究テーマに関する実証的資料の収集の準備・分析のために、予習と復習に各週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)関連文献等を批判的に読みこなしている。
(79～70点)関連文献等の理解ができている。
(69～60点)関連文献等の理解に偏りがある。

課題へのフィードバック:

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

教科書: 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

参考書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深める必要がある。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK01200002

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文作成のために必要な教育心理学の研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得するとともに、修士論文に関連するデータを収集することを目的とする。

到達目標: 到達目標は以下の2点である。
1. 修士論文作成に関連する教育心理学の学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 教育心理学の学術論文の発表・討議(1)
3. 教育心理学の学術論文の発表・討議(2)
4. 教育心理学の学術論文の発表・討議(3)
5. 教育心理学の学術論文の発表・討議(4)
6. 教育心理学の学術論文の発表・討議(5)
7. 教育心理学の学術論文の発表・討議(6)
8. 各自の修士論文についての発表・討議(1)
9. 各自の修士論文についての発表・討議(2)
10. 各自の修士論文についての発表・討議(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
15. まとめ・講評

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: 講義、大学院生による発表・討論
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

教育心理学の学術論文の紹介、ならびに各自の修士論文のテーマに関する参考文献やデータの収集・分析のために、予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点) 修士論文の関連文献等を自分の視点から十分に読みこなしている。
(79～70点) 修士論文の関連文献等の理解ができている。
(69～60点) 修士論文の関連文献等の理解が不十分である。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しないが、教育心理学の学術論文を参考にする。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

日頃から教育心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK01200003

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学等の研究内容の理解と研究法の修得である。
修士論文に関連するデータの収集と分析である。

到達目標: 到達目標は以下の2点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析を行う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(6)
3. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(7)
4. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(8)
5. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(9)
6. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(10)
7. 統計法の活用及び結果記述のモデル論文の検討
8. 修士論文に係るデータ分析の検討(1)
9. 修士論文に係るデータ分析の検討(2)
10. 修士論文に係るデータ分析の検討(3)
11. 修士論文に係るデータ分析の検討(4)
12. 修士論文に係るデータ分析の検討(5)
13. 修士論文に係るデータ分析の検討(6)
14. 修士論文に係るデータ分析の検討(7)
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
講義、発表及び協議。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

先行研究の発表及び資料作成、修士論文に係るデータの分析及び結果整理を行う予習に毎回平均して180分(合計2700分)、授業における検討内容の整理・総括を踏まえた文献検討・データ再分析を行う復習に毎回平均して180分(合計2700分)が必要である。

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|----|----------|---------------|---|----------|--------------|----|----------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 | % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 50 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: (100～80点)関連文献の批判的検討、データ分析とその結果の理解と解釈ができている。
(79～70点)関連文献、データ分析とその結果の理解が全般的にできている。
(69～60点)関連文献、データ分析とその結果の理解が部分的にできている。

課題へのフィードバック:

先行研究に関する情報の提供、適切な分析法の使用及び結果の理解・解釈への助言・指導を行う。
課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックする

教科書: 教科書は指定しないが、必要に応じて資料を配布する。

参考書: 日本学会協議会協力学術研究団体(<https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)が発行している雑誌に掲載された学術論文。

授業・準備学習のアドバイス:

適切な分析法の使用と結果の解釈は、考察の深さとともに発信する知見の評価に大きく影響する。研究デザインの検討の際に、使用統計法の検討が含まれていることが重要である。

科目名: 教育心理学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK01300001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 学校教育の現代的課題について、分析・検討・発表・討論等を積極的に行うことを通して、教職に必要な資質とスキルを形成する。さらに研究方法を習得し、自らテーマを設定し論文を作成する。

到達目標:

1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成する。
2. 研究に関する情報の収集と、統計分析を取得する。
3. 論文作成に関する基本的技能の獲得し、論文を完成させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究倫理
2. 研究とは何か
3. テーマ探求(1)
4. テーマ探求(2)
5. 研究目的
6. 研究方法(1)
7. 研究方法(2)
8. 研究結果のまとめ方(1)
9. 研究結果のまとめ方(2)
10. 考察方法(1)
11. 考察方法(2)
12. プレゼン方法
13. ゼミ内研究発表会(1)
14. ゼミ内研究発表会(2)
15. 評価とまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、論文作成をするためにSPSSを用いた統計分析を学ぶ。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 論文テーマ作成(180分)
4. 論文テーマ作成(180分)
5. 統計復習(180分)
6. 統計復習(180分)
7. 統計復習(180分)
8. 統計復習(180分)
9. 統計復習(180分)
10. 統計復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. 論文まとめ(180分)
13. 論文まとめ(180分)
14. 論文まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準:

「最低限の到達」(60～69点)

- ・授業への取り組み:学校教育の現代的課題について、知識を習得することができる。
- ・レポート:学校教育の現代的課題について、まとめることができる。

「望ましい到達度」(80～100点)

- ・授業への取り組み:学校教育の現代的課題について、分析・討論することができる。
- ・レポート:学校教育の現代的課題について、研究することができる。

課題へのフィードバック:

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

参考書: 菱田 準子(著)、森川 澄男(監修)『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』ほんの森出版

授業・準備学習のアドバイス:

理論ばかりでなく、実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK01300002

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、修士論文を作成するために必要な関連文献の理解と修士論文に関連するデータの収集である。

到達目標: 到達目標は以下の2点である

1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

各回の授業計画:

1. introductionと本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育
2. 学校心理学に関する関連文献の発表・討論(1)
3. 学校心理学に関する関連文献の発表・討論(2)
4. 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論(1)
5. 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論(2)
6. 量的研究に関する関連文献の発表・討論(1)
7. 量的研究に関する関連文献の発表・討論(2)
8. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
9. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
10. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(5)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(6)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(7)
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 教員による講義と学生による発表。
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

修士論文作成のために、自分のテーマに関係する論文と研究計画を発表する。その準備のために、修士論文作成のために、発表論文の予習が 30 時間であり、発表後の関連文献の確認の復習が 30 時間である。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点) 関連文献等を批判的に読み、自分の修論テーマに適切に組み込むことができる。
(79～70点) 関連文献等を理解し、自分の修論テーマに組み込むことができる。
(69～60点) 自分の修論テーマに関連文献等を引用できる。

課題へのフィードバック:

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

教科書: 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

参考書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK01300003

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文作成のために必要な教育心理学・学校心理学の関連文献の理解と修士論文に関連するデータを収集し分析することを目的とする。

到達目標: 到達目標は以下の2点である。

1. 修士論文作成に関連する教育心理学・学校心理学の学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育
2. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(11)
3. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(12)
4. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(13)
5. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(14)
6. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(15)
7. 各自の収集データの分析・討論(1)
8. 各自の収集データの分析・討論(2)
9. 各自の収集データの分析・討論(3)
10. 各自の収集データの分析・討論(4)
11. 各自の収集データの分析・討論(5)
12. 各自の収集データの分析・討論(6)
13. 各自の収集データの分析・討論(7)
14. 各自の収集データの分析・討論(8)
15. まとめ・講評

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: 【対面】
講義、大学院生による発表・討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

教育心理学・学校心理学の学術論文や各自の修士論文のテーマに関連する参考文献の紹介、ならびに各自の修士論文のデータ収集や分析のために、予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点) 修士論文の関連文献等を自分の視点から読みこなし、データの収集や分析を行うことが十分にできている。
(79～70点) 修士論文の関連文献等を理解したり、データの収集や分析を行うことができています。
(69～60点) 修士論文の関連文献等を理解したり、データの収集や分析を行うことがやや不十分である。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

教科書: 日本学術会議協力学術研究団体(<https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)が発行している雑誌に掲載された学術論文。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

日頃から教育心理学・学校心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したりデータ分析を行う等してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK01400001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 学校教育の現代的課題について、分析・検討・発表・討論等を積極的に行うことを通して、教職に必要な資質とスキルを形成する。さらに研究方法を習得し、自らテーマを設定し論文を作成する。

到達目標:

1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成する。
2. 研究に関する情報の収集と、統計分析を取得する。
3. 論文作成に関する基本的技能の獲得し、論文を完成させる。

各回の授業計画:

1. オリエンテーションと研究倫理
2. 先行研究の調べ方
3. テーマ探求
4. テーマ探求
5. 研究とは何か
6. 研究目的
7. 研究方法
8. 研究方法
9. 研究結果分析
10. 研究結果分析
11. 研究考察
12. 研究考察
13. ゼミ内研究発表会
14. ゼミ内研究発表会
15. 評価とまとめ

特記事項: なし

授業方法: 授業はすべて対面で実施する。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、論文作成をするためにSPSSを用いた統計分析を学ぶ。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 論文テーマ作成(180分)
4. 論文テーマ作成(180分)
5. 統計復習(180分)
6. 統計復習(180分)
7. 統計復習(180分)
8. 統計復習(180分)
9. 統計復習(180分)
10. 統計復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. 論文まとめ(180分)
13. 論文まとめ(180分)
14. 論文まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準:

「最低限の到達」(60～69点)

- ・授業への取り組み:学校教育の現代的課題について、知識を習得することができる。
- ・レポート:学校教育の現代的課題について、まとめることができる。

「望ましい到達度」(80～100点)

- ・授業への取り組み:学校教育の現代的課題について、分析・討論することができる。
- ・レポート:学校教育の現代的課題について、研究することができる。

課題へのフィードバック:

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

参考書: 菱田 準子(著)、森川 澄男(監修)『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』ほんの森出版

授業・準備学習のアドバイス:

理論ばかりでなく、実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

科目名: 教育心理学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK01400002

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 授業の目的は、教育心理学演習の仕上げで、教育心理学の修士論文を完成させることである。

到達目標: 到達目標は以下の2点である

1. 修士論文を完成させること
2. 教育心理学研究の本質を理解し、critical thinking の力をつけること

各回の授業計画:

1. Introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2. 各自の収集したデータの分析と討論(1)
3. 各自の収集したデータの分析と討論(2)
4. 各自の収集したデータの分析と討論(3)
5. 各自の収集したデータの分析と討論(4)
6. 各自の収集したデータの分析と討論(5)
7. 各自の収集したデータの分析と討論(6)
8. 各自の収集したデータの分析と討論(7)
9. 各自の収集したデータの分析と討論(8)
10. 各自の収集したデータの分析と討論(9)
11. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(1)
12. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(2)
13. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(3)
14. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(4)
15. まとめと講評

特記事項: なし

授業方法: 教員による講義と学生による発表。
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

修士論文作成のために、予習と復習を含めた学習時間に、毎週4時間の学習時間を確保する。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点) 関連文献等を批判的に読み、自分の修論テーマに適切に組み込むことができる。
(79～70点) 関連文献等を理解し、自分の修論テーマに組み込むことができる。
(69～60点) 自分の修論テーマに関連文献等を引用できる。

課題へのフィードバック:

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

教科書: 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

参考書: 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するが、調査対象学校には研究結果をフィードバックすることが肝要である。

科目名: 教育心理学演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK01400003

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文に関連するデータを収集や分析を行い修士論文を完成させることを目的とする。

到達目標: 到達目標は以下の2点である。

1. 修士論文を完成させる。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析を行う。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 各自の収集データの分析・討論(9)
8. 各自の収集データの分析・討論(10)
4. 各自の収集データの分析・討論(11)
5. 各自の収集データの分析・討論(12)
6. 各自の収集データの分析・討論(13)
7. 各自の収集データの分析・討論(14)
8. 各自の収集データの分析・討論(15)
9. 各自の収集データの分析・討論(16)
10. 各自の収集データの分析・討論(17)
11. 作成した修士論文の発表と討論(1)
12. 作成した修士論文の発表と討論(2)
13. 作成した修士論文の発表と討論(3)
14. 作成した修士論文の発表と討論(4)
15. まとめ・講評

特記事項: 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

授業方法: 【対面】
講義、大学院生による発表・討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各自の修士論文のデータ収集や分析、論文作成のために予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成が十分にできている。
(79～70点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成ができている。
(69～60点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成がやや不十分である。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

教科書: 日本学術会議協力学術研究団体(<https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)が発行している雑誌に掲載された学術論文。

(BK01400003 教育心理学演習Ⅳ)

参考書： 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス：

日頃から教育心理学・学校心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したりデータ分析を行う等してほしい。

科目名: 教育実践学・国際教育演習 I

クラス:

授業コード: BK06100001

担当者: 近藤 要司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 国際教育に役立つ日本語についての深い課題探求・課題解決能力を育成する。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を行う。

到達目標: 修士課程での研究活動を効率よく深化させるための方法を理解し、実践できる。
日本語に関する先行研究を幅広く読み、日本語に関するさまざまな課題とその位置関係を理解している。
日本語に関するさまざまなデータの扱い方を理解し活用できる。
研究倫理について理解し、これにそって研究をすすめることができる。

各回の授業計画:

1. 研究計画を考える 研究計画書とは何かを理解する(大学院で学ぶ目的を明確にする) 研究倫理について
2. 研究課題を決める1 大きな方向性を決める 日本語について、どのようなことを探求したいのか、互いにテーマを出し合い討論する。
3. 研究目的・研究動機・研究の意義を文章化する
4. 先行研究の情報を集める 文献リストを作成し、必読文献を見つける
5. 日本語論文での引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ
6. 必読文献を読んで報告する1
7. 必読文献を読んで報告する2
8. 必読文献を読んで報告する3
9. 必読文献を読んで報告する2
10. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(1)
11. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(2)
12. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(3)
13. 研究計画案を発表する1
14. 研究計画案を発表する2
15. 研究計画案を発表する3

特記事項: なし

授業方法: 対面授業。
演習方式で、毎回履修者に発表させる

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- 日本語能力N1レベル以上の力が要求されるので、日本語に関する訓練を積み重ねること
- 1回目: 大学院で学ぶ目的を明確にし、他人に分るように説明する準備をする(180分)
 - 2回目: 日本語の何を探求したいのか、発表できるように準備する(180分)
 - 3回目: 研究目的・研究動機・研究の意義を文章化する(180分)
 - 4回目: 先行研究の情報を集める 文献リストを作成し、必読文献を見つける(180分)
 - 5回目: 日本語論文での引用の仕方・参考文献の挙げ方を自分で調べる(180分)
 - 6回目: 必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
 - 7回目: 必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
 - 8回目: 必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
 - 9回目: 必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
 - 10回目: 必読文献について2編について報告を作成する(180分)
 - 11回目: 必読文献について2編について報告を作成する(180分)
 - 12回目: 必読文献について2編について報告を作成する(180分)
 - 13回目: 研究計画書原案を書き上げる(180分)
 - 14回目: 授業での質疑応答を踏まえて、研究計画書原案を書き直す(180分)
 - 15回目: 研究計画書原案を書き上げる(180分)

| | | | | | | |
|--------------|--|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 0 % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |
| 評価基準: | 秀(100～90):研究課題が明確で、先行研究の分析が的確であり、自身の研究の進め方について、精密な文章で表現している。 優(89～80):研究課題が明確で、先行研究を複数紹介できている。自分の研究の方向性を理解し、それを文章化できる。 良(79～70):研究課題の方向性が定まっていて、その分野の先行研究を読んでいる。自分の研究の達成点未達成な点を十分理解している。 可(69～60):研究課題の方向が定まっているが、先行研究を十分に理解できていない。 | | | | | |
| 課題へのフィードバック: | 個人指導の形で行う | | | | | |
| 教科書: | なし | | | | | |
| 参考書: | 北原保雄監修『実践 研究計画作成法』凡人社 沖森卓也編著『日本語学説』朝倉書店 中俣尚巳『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房 | | | | | |

授業・準備学習のアドバイス:

修士課程では、先行研究をよく読み理解することが必須です。ネットで公開されている論文のみを読むのではなく、必読文献については図書館の文献複写サービスなど活用して、かならず入手してください。高価な書籍については、図書館に購入をお願いしましょう。

科目名: 教育実践学・国際教育演習Ⅱ

クラス:

授業コード: BK06200001

担当者: 近藤 要司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 国際教育に役立つ日本語についての深い課題探求・課題解決能力を育成する。

到達目標: 日本語に関する先行研究を幅広く読み、日本語に関するさまざまな課題とその位置関係を理解している
日本語に関するさまざまなデータの扱い方を理解し活用できる
自分自身の研究課題を設定し、その課題に答えるための方策について構想できる。

各回の授業計画:

1. 春学期に発表した研究計画案について、細部を精密化する。
2. 研究計画発表の予行演習を行い、相互に質疑応答を行う。
3. 研究計画発表の反省・質問とそれへの対応など足りなかった部分を反省する。
4. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-1
5. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-2
6. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-3
7. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-4
8. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-5
9. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-6
10. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-7
11. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-8
12. 文献を分析した結果を生かして、先行研究の整理を行う
13. 先行研究の整理を行う 先行研究の研究史的位置づけ、方法論の位置関係などを整理する。
14. 自分の課題のための調査の計画策定 先行研究をもとに自分の課題を整理し、その課題への解答を得るためにはどのような独自調査が必要かを構想する
15. 中間発表の予行演習

特記事項: なし

授業方法: 対面授業。
演習形式 出席者同士の質疑応答を重視する

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 春学期のレポートについての教員のコメントをもとに研究計画書を改良する(180分)
2. 発表用スライドと発表原稿を作成する(180分)
3. 研究計画発表での質疑を踏まえ、新たな課題を確認する(180分)
4. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
5. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
6. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
7. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
8. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
9. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
10. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
11. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
12. 研究計画書の課題をさらに深化させる(180分)
13. 先行研究を分類し、まとめる(180分)
14. 自分のデータをどのように集めるのか計画する(180分)
15. 発表用のスライドと発表原稿を用意する(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 秀(100～90):研究課題が明確で、先行研究の分析が的確であり、自身の研究の進め方について、精密な文章で表現している。
 優(89～80):研究課題が明確で、先行研究を複数紹介できている。自分の研究の方向性を理解し、それを文章化できる。
 良(79～70):研究課題の方向性が定まっていて、その分野の先行研究を読んでいる。自分の研究の達成点未達成な点を十分理解している。
 可(69～60):研究課題の方向が定まっているが、先行研究を十分に理解できていない。

課題へのフィードバック:
 論文講読、論文計画については、随時フィードバックを行う。

教科書: 使用しない

参考書: 沖森卓也編著『日本語学説』朝倉書店
 中俣尚巳『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房

授業・準備学習のアドバイス:
 修士課程では、先行研究をよく読み理解することが必須です。ネットで公開されている論文のみを読むのではなく、必読文献については図書館の文献複写サービスなど活用して、かならず入手してください。高価な書籍については、図書館に購入をお願いします。

科目名: 教育実践学・国際教育演習Ⅲ

クラス:

授業コード: BK06300001

担当者: 近藤 要司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 今学期は修士論文に関係する先行研究をまとめ、理論的に構成し、論文執筆にとりかかる。併せて、効果的な調査を行うために、予備調査を行い、調査内容を検討した上で、本調査を行い。調査結果をまとめていく。

到達目標: これまでに分析した先行研究のまとめを作成する。
先行研究のまとめから見えて来た課題をまとめる
その課題を解明するための調査方法を考える

各回の授業計画:

1. 面接 修士論文の目的・方法論の確認。先行研究の分析の進捗状況確認
2. 発表と指導 先行研究の分析発表1
3. 発表と指導 先行研究の分析発表2
4. 発表と指導 先行研究の分析発表3
5. 発表と指導 先行研究の分析の整理
6. 発表と指導 先行研究の分析発表4
7. 発表と指導 先行研究の分析発表5
8. 発表と指導 先行研究の分析発表6
9. 発表と指導 先行研究を概観し、自身の課題を整理する1
10. 発表と指導 先行研究を概観し、自身の課題を整理する2
11. 発表と指導 先行研究を概観し、自身の課題を整理する3
12. 調査計画の発表と指導1
13. 調査計画の発表と指導2
14. 予備調査の報告 調査計画の修正1
15. 予備調査の報告 調査計画の修正2

特記事項: 今学期は、具体的に修士論文執筆に入り、その原稿における理論的構成などを討議していきたい。なお、修士論文作成のための調査を実施するが、予備調査を行い、改善点を本調査にいかすという手順を踏まえて調査を進めたい。

授業方法: 対面授業。内容は先行研究の分析、発表と討論、調査方法の検討。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業で扱う論文の講読、発表準備、修士論文執筆などで計2700分以上の予習が必要である。

1. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
2. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
3. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
4. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
5. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
6. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
7. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
8. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
9. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
10. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
11. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
12. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
13. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
14. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
15. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組み、課題や資料調査への取り組み、論文への評価などについて、統合的に評価を行う。
 (80-100)積極的に討議に参加し、協働学習を進めることができる。優れた視点から研究テーマを設定し、丁寧に文献調査を進め、先行研究を適格に論理的にまとめ、効果的に研究を進めることができる。
 (70-79)討議に参加し、協働学習を進めることができる。適格な視点から研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめる姿勢に努力がうかがえる。研究を進めることができる。
 (60-69)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、なんとか研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめられる。助言を受けながら、研究を進める方向を探ることができる。

課題へのフィードバック:
 論文講読、論文計画については、随時フィードバックを行う。

教科書: 随時必要な参考文献を紹介する。

参考書: 随時紹介する

授業・準備学習のアドバイス:
 修士論文を実際に執筆し、また調査を行うという、実務的な作業が中心になります。論文執筆のいちばん重要な時期です。

科目名: 教育実践学・国際教育演習Ⅳ

クラス:

授業コード: BK06400001

担当者: 近藤 要司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 修士論文執筆の最終段階である。論文執筆と併せ、調査データをまとめ、分析し、考察を進める。論文の完成段階では、論文全体の理論的構成などを再考し、推敲を加える作業が中心となる。

到達目標: 調査データを整理し、考察に組み込む。論文の独自性、論理的構成などを視野に入れ、推敲を加えて、完成度の高い論文をしあげる。

各回の授業計画:

1. 調査データのまとめ。討議。第一回目。
2. 調査データのまとめ。討議。第二回目。
3. 調査データのまとめ。討議。第三回目。
4. 調査データを分析する。討議。第四回目。
5. 調査データを分析する。討議。第五回目。
6. 調査データを分析する。討議。第六回目。
7. 調査データの考察。討議。第七回目。
8. 調査データの考察。討議。第八回目。
9. 調査データの考察。討議。第九回目。
10. 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。第一回目
11. 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。第二回目
12. 修士論文執筆を進める。図表や注や参考文献について確認
13. 修士論文執筆を進める。各節の内容を確認1
14. 修士論文執筆を進める。各節の内容を確認2
15. 修士論文の最終チェックを行う。

特記事項: 今学期は、修士論文を完成する最終段階に入る。調査データを分析し、考察を深め、論文全体に推敲を加え、完成度の高い修士論文を作成する。

授業方法: 対面授業
受講者の研究発表と質疑・議論を中心に行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業で扱う論文の講読、発表準備、修士論文執筆などで計2700分以上の予習が必要である。

1. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
2. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
3. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
4. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
5. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
6. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
7. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
8. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
9. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
10. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
11. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
12. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
13. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
14. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)
15. 授業で紹介した論文のまとめ。発表準備。修士論文執筆。(180分)

| | | | | | | |
|----------------|--|------|--------|-----|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | － % | レポート: | － % |
| | その他1: | | 50 % | | | |
| | その他2: | | % | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準: | 授業、課題への取り組み、課題、発表、論文への評価を統合的に評価する。 (80-100)積極的に討議に参加し、協働学習を進めることができる。優れた視点から研究テーマを設定し、丁寧に文献調査を進め、先行研究を適格に論理的にまとめ、効果的に研究を進めることができる。 (70-79)討議に参加し、協働学習を進めることができる。適格な視点から研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめる姿勢に努力がうかがえる。研究を進めることができる。 (60-69)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、なんとか研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめられる。助言を受けながら、研究を進める方向を探ることができる。 | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題へのフィードバック: | 論文講読、論文計画については、随時フィードバックを行う。 | | | | | |
| | | | | | | |
| 教科書: | なし | | | | | |
| 参考書: | 随時紹介する | | | | | |
| | | | | | | |
| 授業・準備学習のアドバイス: | 調査データをまとめ、分析し、考察を加えていきます。修士論文の完成をめざし執筆を続けますが、理論的構成など、何回も推敲を加えていくことで、より完成度の高い修士論文を書き上げることができます。 | | | | | |

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100004

担当者: 森 真理

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100005

担当者: 小川内 哲生

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な必要十分なレベルにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100006

担当者: 近藤 要司

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100007

担当者: 金山 健一

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
 ・上記研究会での個別発表を行う。
 ・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究 I

クラス:

授業コード: BK10100008

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想 I
4. 研究の構想 II
5. 「研究計画発表会」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
6. 「研究計画発表会」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
7. 「研究計画発表会」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
8. 「研究計画発表会」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
9. 研究計画の構築 I
10. 研究計画の構築 II
11. 「中間発表会 I」の実施と参加 I (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
12. 「中間発表会 I」の実施と参加 II (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
13. 「中間発表会 I」の実施と参加 III (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
14. 「中間発表会 I」の実施と参加 IV (修士論文の研究課題と研究方法を議論する。)
15. 授業のまとめ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会として、「研究計画発表会」、「中間発表会 I」を行う。
・上記研究会での個別発表を行う。
・上記発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度をその基本的な在り方において身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な必要十分なレベルにおいて収集する。ま

た、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮する。

教科書: なし

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得よう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200002

担当者: 戸江 茂博

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ(修士論文の研究内容を議論する。)
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ(修士論文の研究内容を議論する。)
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ(修士論文の研究内容を議論する。)
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ(修士論文の研究内容を議論する。)
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
 ・上記研究会では個別発表を行う。
 ・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
 ・望ましい到達度(80~100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200003

担当者: 廣岡 義之

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200004

担当者: 森 真理

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200005

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
 2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
 ・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
 ・上記研究会では個別発表を行う。
 ・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
 ・望ましい到達度(80～100点)
 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
 すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200006

担当者: 近藤 要司

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ(修士論文の研究内容を議論する。)
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ(修士論文の研究内容を議論する。)
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ(修士論文の研究内容を議論する。)
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ(修士論文の研究内容を議論する。)
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200007

担当者: 金山 健一

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ(修士論文の研究内容を議論する。)
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ(修士論文の研究内容を議論する。)
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ(修士論文の研究内容を議論する。)
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ(修士論文の研究内容を議論する。)
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80~100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 特別研究Ⅱ

クラス:

授業コード: BK10200008

担当者: 小川内 哲生

単位数: 1

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標: 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9. 「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15. 「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

特記事項: なし

授業方法: ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会を実施し、学び合いをする。
・上記研究会では個別発表を行う。
・上記研究発表の準備とそのための個別指導を行う。(研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導として)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・研究発表の準備: 思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
- ・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を高いレベルで身につける。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: なし**参考書:** なし

授業・準備学習のアドバイス:

- 研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
- 課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

科目名: 教育哲学特論

クラス:

授業コード: BK20100001

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育の本質的な見方、考え方についての専門的な理解を深める。

到達目標: 教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育的課題について論理的に思考し、判断し、それを主体的に解決し、表現する能力を身につけることをねらいとする。

各回の授業計画:

1. ボルノーの生涯と思想① 退官前まで
2. ボルノーの生涯と思想② 退官後
3. 哲学的人間学の根本問題
4. 時間論の教育哲学的意義
5. 空間論の教育哲学的意義
6. 言語教育論
7. 真理論の教育哲学的意義
8. 危機の教育学的意義
9. 教育学的解釈学
10. 経験の教育哲学
11. 教師と生徒の信頼関係
12. 自立への教育
13. 練習の精神の教育的意義
14. モンテッソーリにおける練習の意義
15. ボルノーの徳論

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- 1.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 2.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 3.(予習)当該テキストを通読する。(180分)

- 4.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 5.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 6.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 7.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 8.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 9.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 10.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 11.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 12.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 13.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 14.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
- 15.(予習)当該テキストを通読する。(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 50 % | レポート: | - % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
1. 授業参加態度
 - ①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
 2. 試験
 - ①教育哲学の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて教育哲学の専門的な概念を説明できる。(90-100)
- ・上記項目を総合的に評価する。
-

課題へのフィードバック:

試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

教科書: 講義の際に提示する

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

予習復習を習慣づけましょう。

科目名: 道德教育特論

クラス:

授業コード: BK20200001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 1. 人間の「善さ」とは何か、学校教育において「善さ」の発達を促すということとはどのようにして可能となるのか。この問題について様々な道德教育論を考察する。
2. 様々な道德教育の思想を歴史的、世界的視野から検討する。
3. 日本における道德教育を、その歴史、現在のあり方と問題点、世界との比較という観点から論じる。
4. 道德の授業の様々な方法論を、善さとその発達に関する基礎理論との一体的視点から解説し、学校における人間教育の新たな可能性について提案する。

到達目標: 1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難について理解する。
2. 道德教育の本質並びに現代日本における道德教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から理解し、道德教育の意義を説明できるようになる。
3. 道德の授業に関してその様々な方法論を習得する。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力を身につける。

各回の授業計画:

1. 道德教育の課題
2. 世界における道德教育・人間教育の現状
3. 日本における道德教育の歴史
4. 現代日本の道德教育(学校教育全般における道德教育)
5. 現代日本の道德教育(道德の時間における道德教育)
6. 道德教育思想史(1)古代ギリシャ
7. 道德教育思想史(2)近世ヨーロッパ
8. 道德教育思想史(3)現代アメリカ
9. 道德性の発達に関する諸理論とその類型
10. 「道德の授業」の方法論(1)「品性教育」
11. 「道德の授業」の方法論(2)「価値明確化の教育」
12. 「道德の授業」の方法論(3)「コールバーグ理論」
13. 「道德の授業」の方法論(4)「構成的グループエンカウンター」
14. 「道德の授業」の15. 道德教育論の新たな展開方法論(5)「モラルスキルトレーニング」
15. 道德教育論の新たな展開

特記事項: 授業は、対面の講義形式で行う。

授業方法: 授業は、対面で行う。
講義形式を基本としつつ演習形式の長所も取り入れて以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)

復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課せられている場合はそれを完成すること。(2時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

| | |
|-------|--|
| 評価基準: | ・最低限の到達度(60～69点) 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち: 1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難についてその概要を理解すること。 2. 道德教育の本質並びに現代日本における道德教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から概括的に理解し、道德教育の意義をその概要において説明できるようになること。 3. 道德の授業に関してその様々な方法論の基本を習得すること。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力をその基本的なレベルにおいて身につけること。 ・望ましい到達度(80～100点) 上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち: 1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難について明確に理解すること。 2. 道德教育の本質並びに現代日本における道德教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から十全に理解し、道德教育の意義を明瞭に説明できるようになること。 3. 道德の授業に関してその様々な方法論を確実に習得すること。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力をその確実なレベルにおいて身につけること。 |
|-------|--|

| | |
|--------------|--|
| 課題へのフィードバック: | 課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。 |
|--------------|--|

教科書: 土戸敏彦編集『＜道德＞は教えられるのか?』教育開発研究 2003年

参考書: 佐野安仁、吉田謙二編『コールバーグ理論の基底』第2版 世界思想社 1996年
佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年

| | |
|----------------|---|
| 授業・準備学習のアドバイス: | 「善さ」と「善さの発達」という根本問題について歴史的・世界的視野から理解するという姿勢をもって講義にのぞんでほしい。さらに、「善さの発達を実現する教育」の具体的な方法に関して理論と実践との両面から総合的に学んでほしい。(尚、レポートの代わりに確認テストを行う可能性もある。) |
|----------------|---|

科目名: カリキュラム特論

クラス: ☆集中

授業コード: BK20300001

担当者: 石井 英真

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 資質・能力を重視する新学習指導要領、個別最適な学びの実現に向けたGIGAスクール構想など、変化する社会の中で、各学校において創意工夫を活かしてカリキュラムを構想する力量が求められている。本講義では、特徴的な実践事例も取り上げながら、教育課程に関する基礎的な概念を深め、将来の実践づくりに向けた展望を示したい。

到達目標: カリキュラム開発に関する基礎的な概念の習得にあたっては、それらをめぐる争点や論点を様々な資料によって共有し、さらには課題解決の過程を通じて、より深い理解への到達をめざしたい。また、このようなカリキュラム開発への深い理解を通じて、教育現場に活きる実践的な力量形成をはかりたい。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション(教育課程・カリキュラム研究の意義)
2. カリキュラムと授業
3. 教科書とカリキュラム(教材と教科内容の区別)
4. 教科書とカリキュラム(教科書比較)
5. 子どもの学びとカリキュラム
6. 総合学習のカリキュラム
7. 教科指導と教科外活動
8. カリキュラムと評価(評価の目的と機能)
9. カリキュラムと評価(評価の方法)
10. カリキュラム開発とカリキュラム経営
11. カリキュラムの接続と入試
12. カリキュラム改革の歴史(制度史の観点から)
13. カリキュラム改革の歴史(実践史の観点から)
14. 諸外国のカリキュラム
15. カリキュラム開発の現代的課題

特記事項: なし

- 授業方法:**
1. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 2. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 3. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 4. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 5. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 6. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 7. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 8. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 9. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 10. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 11. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 12. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 13. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 14. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
 15. 発表とディスカッション(オンライン(同時配信))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
2. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)

3. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
4. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
5. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
6. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
7. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
8. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
9. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
10. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
11. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
12. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
13. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
14. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
15. 発表の振り返り(4時間)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 70 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わり(教育学的な視点をふまえた態度および学ぶ関心・意欲など)により授業への参加がなされている(60～69点)。
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わり(教育学的な視点をふまえた態度および学ぶ関心・意欲など)を持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている(80～100点)。
 2. レポート
 - ・ 各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)。
 - ・ 各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)。

課題へのフィードバック:

授業中にレポートを作成し、その場でフィードバックを行う。

教科書: 石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房 2020年

参考書: 石井英真『教育「変革」の時代の羅針盤』教育出版 2024年

授業・準備学習のアドバイス:

自分たちの学校経験、これまで学んできた教育に関する知識、各自の問題意識を踏まえて、大いに議論に参加してほしい。

科目名: 教育方法学特論

クラス:

授業コード: BK20400001

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本講義では、まず、西洋の教育方法の変遷を全体的に把握する。その後、具体的な教育者の教育方法について詳細に考察していく。日本の教育者についても論ずる。最後に、最新の学習指導要領の教育方法、評価の仕方についても考察を深めつつ、今後の課題を展望してみたい。

到達目標: 西洋や日本の教育方法を概観することを通じて、現代学校で採用されている教育方法を批判的に考察する視点を獲得する。そのうえで、ひとりひとりが創造的な授業を構想し、創造する力量を身に付けることを目標とする。

各回の授業計画:

1. 教育方法の歴史的展開
2. 教育方法の理論的背景
3. 学習指導の方法原理
4. 学習指導の方法
5. 新学習指導要領における教育方法
6. 西洋の教育方法の歴史的変遷①
7. 西洋の教育方法の歴史的変遷②
8. フレーベルの教育方法①
9. フレーベルの教育方法②
10. シュタイナーの教育方法①
11. シュタイナーの教育方法②
12. 林竹二の教育方法①
13. 林竹二の教育方法②
14. 東井義雄の教育方法①
15. 東井義雄の教育方法②

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う

- 1.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 2.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 3.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 4.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 5.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 6.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 7.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 8.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 9.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 10.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 11.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 12.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 13.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 14.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
- 15.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- 第1回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
第2回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)

第3回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第4回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第5回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第6回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第7回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第8回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第9回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第10回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第11回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第12回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第13回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第14回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
 第15回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 50 % | レポート: | - % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (60～69)最低限の到達度
 ・教育方法の概念を全体的に理解している。
 ・教育者の具体的な教育方法の内容を理解していること。

(80～100)
 ・教育方法の概念について、具体的に説明ができ、その長所と問題点を指摘できること
 ・現代の学校教育で採用されている教育方法の問題点を認識していること
 ・現代における授業を改善するための方途を構想できること

課題へのフィードバック:
 授業内の討議については、授業中に解説をする。

教科書: 適宜、指示をする。

参考書: 適宜、資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

1. しばしば資料を配布するので、なくさないように綴じておいて、授業時には持参してください。
2. 授業中に、発表したり、主体的に参加することを求めます。
3. 楽しく議論して自分の意見を深めましょう。

科目名: 教育社会学特論

クラス: ☆集中

授業コード: BK20500001

担当者: 稲垣 恭子

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代社会では、多様な価値や生きかたが併存しており、既存のライフコースにとらわれず、自らのヴィジョンや生きかたを探究することが求められるようになっていきます。新しい価値創造社会を実現していく上で、既成の価値や成功感にとらわれずそれぞれが幸福感を感じられる文化の存在が重要な意味をもっています。こうした視点から本授業では、人間の一生を支える教育文化について、教育社会学、歴史社会学の視点から探究していきます。子どもの成長の過程は、家族や友人、教師、メディアなどさまざまな出会い、そうした関係の中で時には失敗や挫折を経験しながらそれらを乗り越えていく過程でもあります。授業では、「教育文化」を柱として、子どもの成長を支える空間・身体・物語などを取り上げ、その意味を検討します。ジェンダーや階層などの視点も取り入れながら、多様でインクルーシブなこれからの教育について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。具体的には以下のようなテーマを取り上げる予定です。

1. 価値創造社会に向けて: 現代における教育文化の意味と可能性を考えます。
2. 大人と子どもの関係の変化: 子ども文化の特徴と変容、現在の子どもの大人との関係等について考えます。
3. 家庭文化と子ども文化: 「教育する家族」の登場と変容をたどり、現代の家庭文化、子ども文化について考えます。
4. 教育空間と教育文化: 家庭、学校、教育文化施設の空間の変容とこれからについて考えます。
5. 自己形成の物語とジェンダー: ビルドウングスロマンという視点から、ドラマや小説等の中で子どもから大人への成長過程がどのように描かれてきたのかについて考えます。
6. 文化としての「師」: 生きかたのモデルとしての「師」の存在の意味について考えます。
7. 現代の自己形成と教育文化: 現代社会における教育文化の可能性とこれからについて議論します。

到達目標: 人間の成長を支えるさまざまな教育文化について、具体的なテーマにそって教育社会学の観点から考えていながら、現代の教育の課題とこれからの教育を展望することが目標です。これらを通して、教育文化の重要性を理解するとともに、文化社会学、歴史社会学の視点と方法を身につけることも目指しています。

各回の授業計画:

1. イントロダクション

授業の初回にあたって、以下のことを行います。

- * 各自の研究や関心等についての自己紹介
- * 現代社会の教育文化について社会学的視点からとらえる視点と面白さについて
- * 授業の概略と進めかたについて
- * 評価やレポートについて

2. 教育文化とは

第2回においては、本授業全体のテーマである「教育文化」とは何か、について概説します。

- * 価値創造社会と教育文化
- * 子どもの成長を支えるもの: 身体・空間・物語
- * 家庭・学校・メディア
- * 階層とジェンダー
- * 文化の多様性と包摂性(インクルージョン)

3. 子どもから大人への移行をどうとらえるか

第3回においては、子どもへのまなざしの変化と現代における子どもと大人の関係について、社会学的な視点から考えます。

- * 子どもは変わったか
- * 教育的まなざしの誕生と変容
- * 変容する社会と子ども

4. 家庭文化と子ども

第4回においては、家族と家庭の教育文化について考えます。

- * 子育ての習俗と教育
- * 新中間層と「教育する家族」
- * ディズニーランドと子ども文化
- * マナーの変容と現代社会

- * 多様化する家族関係

5. 教育空間と教育文化

第5回では、教育空間としての学校建築と学校文化について考えます。

- * 学校の思い出と学校空間
- * 近代学校の成立
- * 学校建築の特徴と変容
- * 教室という空間
- * 学校空間の変容

6. 新しい教育空間

第6回では、学校外のさまざまな教育空間を取り上げ、これからの教育空間と教育文化について考えます。

- * 子どもをとりまく教育空間：保育所、子供部屋、教室、図書館etc
- * ひとりで/みんなで、遊ぶ/まなぶ 空間づくり
- * ストーリーとストリート

7. 子どもをとりまく教育文化

第7回では、第1回～第6回の講義とディスカッションをふまえて、現代の家庭・学校と子どもをとりまく教育文化について考えます。

8. 現代の通過儀礼と成長物語

第8回においては、成長物語(ビルドゥングスロマン)を取り上げながら、現代における成長の意味を考えます。

- * ビルドゥングスロマンとは
- * ビルドゥングスロマンのストーリー
- * 旅立ち・挫折と乗り越え・現実との和解・成長
- * ビルドゥングスロマンの終焉？
- * 成長の意味を考え直す

9. 新しい時代の成長物語

第9回においては、朝ドラやアニメなどの作品を用いて、特に現代における女子の成長の意味を考えます。

- * 朝ドラにおける成長物語の変容
- * アニメにみる成長物語
- * 男子の成長物語・女子の成長物語

10. 女性の生きかたとウェルビーイング

第10回では、第8回～第9回の講義とディスカッションをふまえて、現代の女性のライフコースやキャリアを含めた生きかたについて議論します。

- * 戦前の女学生と現代の女子学生
- * キャリアやライフイベントの変化
- * 成長からウェルビーイングへ

11. 文化としての「師」

第11回では、伝統文化、学校、メディアなどを具体的に取り上げながら、生きかたのモデルとしての「師」の意味について考えます。

- * 伝統芸能・芸術における「師匠」
- * 学校の「先生」
- * 「師事」と「私淑」
- * メディアと「師」

12. 現代の教育課題

第12回においては、家庭文化、学校空間、成長物語、ジェンダーなど、これまでの議論をふまえて、現代における教育の課題について考えます。

- * 伝統文化とモダン文化
- * できることとできないこと：「失敗」の意味について
- * 自立しないといけない？：自立と依存のジレンマ
- * 教育のみかたを変える

13. 多様な生きかたを支えるもの

第13回においては、より広い視点から、多様な生きかたを支える教育文化と価値創造社会について考えます。

- * 多様性と包摂性
- * DEIBとは
- * 多様な文化と多様な生きかた
- * 教育文化と価値創造社会

14. 総合討議

第14回においては、これまでの内容を振り返っていくつかのトピックを繋ぎ直しながら、これからの教育と文化の課題について総合的にディスカッションする。

その中で、受講者各自の関心と論点を明確化する。

15. まとめと課題

最終回になる第15回においては、各回のまとめと受講者同士のディスカッションを取りまとめ、各自の関心や課題と照らし合わせてレポートを作成し提出する。

特記事項: なし

授業方法: 基本的には講義形式で行うが、各授業ではできるだけ講義内容について相互にディスカッションしながら進める。講義は、すべてオンライン(同時配信)で行う。

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業時に指示する。
合計で2700分の予習・復習が必要である。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|------|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 30 % | 確認テスト: | 30 % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準:

1. 授業へのとりくみ(出席、授業態度、関心・意欲、発表など)
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、基本的な態度・関心(教育文化論・教育社会学に求められる視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など)をもって授業への参加がなされている(60～69点)。
 - ・ 授業内容の各トピックスに対して、基本的な知識を習得すると同時に、内容へのコメントや質問をするなど、積極的な取り組みが行われている(80～100点)。
2. 確認テスト
 - ・ 各トピックスで学んだことに関して、学習内容をある程度理解している(60～69点)。
 - ・ 各トピックスで学んだことに関して、学習内容を理解すると同時に、社会学的な視点をもって説明することができる(80～100点)。
3. レポート
 - ・ 授業で学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)。
 - ・ 授業で学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、社会学的な視点から読み手に伝わるように作成されている(80～100点)。

課題へのフィードバック:

確認テストについては授業中にコメントを行う。
レポートについては、希望者に対して個別のコメントによるフィードバックを行う。

教科書: 稲垣恭子『女学校と女学生』中公新書 2007年
稲垣恭子編『教育文化の社会学』放送大学教育振興会 2017年

参考書: 授業中に紹介します。

授業・準備学習のアドバイス:

特に事前の準備は必要ありませんが、テキストや関連文献を読んでおくことが望ましいです。

科目名: 臨床教育学特論

クラス:

授業コード: BK20600001

担当者: 廣岡 義之

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 臨床教育学とは何かを理解し、具体的な教育実践での支援の在り方を探求する。

到達目標: 1. 臨床教育学とは何か、その理論を理解する。
2. 教育問題や課題を的確に把握してその解決策の端緒を探る。

各回の授業計画:

1. 臨床教育学的徳論
2. 臨床教育学の生の哲学論
3. 臨床教育学的庇護性の問題
4. 臨床教育学的宗教性のアプローチ
5. 臨床教育学的「信頼」の問題
6. ポルノーの庇護性と安全な居場所を紐解き討論する(1)ある不登校児の事例を中心に
7. 臨床教育学的な「希望」研究
8. 臨床教育学が考える「死」の問題
9. 臨床教育学的家庭教育論
10. 臨床教育学的平和教育論
11. 臨床教育学の高齢者教育論
12. 臨床教育学的環境教育論
13. フレーベルの臨床教育学的遊戯論 理論編
14. フレーベルの臨床教育学的遊戯論 実践編
15. これまでの振り返り

特記事項: なし

授業方法: すべての授業を対面授業で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習 15回 90分
復習 15回 90分
合計2700分

- 1.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 2.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 3.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 4.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 5.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 6.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 7.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 8.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 9.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 10.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 11.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 12.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 13.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 14.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
- 15.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
1. 授業参加態度
 - ①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
 2. レポート
 - ①臨床教育学の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて臨床教育学の専門的な概念を説明できる。(90-100)
 - ・上記項目を総合的に評価する。
-

課題へのフィードバック:

毎回予習復習を習慣化しましょう。

教科書: 適宜、指示をする

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

毎回予習復習を習慣化しましょう。

科目名: 幼児教育学特論

クラス:

授業コード: BK20700001

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 子供とは何かについて徹底的に探究していきたい。生命として子供はどのような存在なのか、歴史の中で子供はどのように誕生してきたのか、大人との関係において子供はどのような存在なのか、社会や家族の中ではどのような存在なのか、さらに文学の中では子供はどのように描かれてきたのか等について思いを巡らしながら、子供について総合的に考えていきたい。

到達目標:

1. 子供の人間学という視座について理解する。
2. 子供という存在について、様々な視点から学ぶ。
3. 子供観や教育観について理論的に知る。
4. 社会の中の子供の姿、あり方について学ぶ。
5. 文学や児童文学における子どもの姿、あり方について学ぶ。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 「子供とは何か」とは何か(子供を問う意味について)
3. 子供とは何かⅠ(生物学の視点から)
4. 子供とは何かⅡ(現象学の視点から)
5. 子供とは何かⅢ(象徴的存在としての子供)
6. 子供とは何かⅣ(子供と大人、こどもとおとな、小人と大人等。プレゼンテーション1)
7. 歴史の中の子供Ⅰ(近代における子供の誕生、ルソーにおける子どもの発見)
8. 歴史の中の子供Ⅱ(子供観の変遷①)
9. 歴史の中の子供Ⅲ(子供観の変遷②)
10. 社会の中の子供Ⅰ(情報化社会の中の子供)
11. 社会の中の子供Ⅱ(消費社会の中の子供)
12. 社会の中の子供Ⅲ(家族の中の子供、少子社会の中の子供当。プレゼンテーション2)
13. 文学の中の子供Ⅰ(日本の小説や児童文学から①)
14. 文学の中の子供Ⅱ(日本の小説や児童文学から②)
15. 文学の中の子供Ⅲ(海外の小説や児童文学から)

特記事項: なし

授業方法:

- ・講義を中心とするが、授業展開の状況に応じて、学びを深めるためにプレゼンテーションの機会も設ける。
- ・対面授業とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ①～⑤、⑦～⑪、⑬～⑮に関して、学習した内容の復習及び学習すべき内容の予習(各回、160分)
⑥と⑫に関しては、プレゼンテーションを含む。(各回、310分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準:

可(60～69)
 ○学修: 基本的な学びができている。
 ○レポート: 学修のまとめが反映されている。
 ○プレゼンテーション: 整理された発表内容である。
 ○研究的姿勢: 教育及び幼児教育について問題意識がある。
 優(80～100)

- 学修: 包括的な学びと固有の学びができている。
- レポート: 学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。
- プレゼンテーション: 発表内容が優れている。
- 研究的姿勢: 教育及び幼児教育について深い問題意識を持ちながら取り組めている。

課題へのフィードバック:

- 試験50%、レポート50%で評価を行う。
- レポート作成等については、学びの確認を行う。

教科書: なし

参考書: 授業中に適宜配布又は指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

- 子供について、様々な視点から考えましょう。
- 子供の面白さ、素晴らしさ、ユニークな点等、子供を見る視点を深めてください。
- 教育と関連する「子供像」や「子供観」などについても考えましょう。
- 歴史の中の子供の姿(古代の子供は、江戸時代の子供は、清の時代の子供は)に思いをはせましょう。また、社会の中で、家族の中で子供はどのように生きているでしょうか。

科目名: 幼児教育方法学特論A(基礎)

クラス:

授業コード: BK20800001

担当者: 戸江 茂博

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育方法学は、教育方法の理論的探究である。したがって、幼児教育方法学は、幼児教育(保育)の方法についての理論的な探究といえる。方法はたんにメソッドの意味にとどまらず、実践論の意味合いをもつ。本講義では、子供の生活をより豊かにする教育、子供の遊びをより充実させる教育、子供が環境とどうかかわるか等について、教育方法の視座から追究していきたい。

到達目標: 1. 方法論や方法学の視点から幼児教育を理解する。
2. 幼児教育の様々な方法論(生活の教育、遊びの教育、環境の教育)について知る。
3. 幼児教育の方法上、実践上の問題や課題について理解を深める。

各回の授業計画:

1. 授業オリエンテーション
2. 生活の教育Ⅰ(生きることと教育)
3. 生活の教育Ⅱ(子どもの生)
4. 生活の教育Ⅲ(生活保育の視座)
5. 遊びの教育Ⅰ(子供の遊び)
6. 遊びの教育Ⅱ(遊びとは)
7. 遊びの教育Ⅲ(遊びと人間)
8. 遊びの教育Ⅳ(遊びと教育)
9. 遊びの教育Ⅴ(遊びの教育の方法論①:遊びを通しての教育)
10. 遊びの教育Ⅵ(遊びの教育の方法論②:遊戯的人間の育成)
11. 環境の教育Ⅰ(環境とは)
12. 環境の教育Ⅱ(環境と教育)
13. 環境の教育Ⅲ(環境を通しての教育、保育環境のあり方)
14. ディスカッション(子供の生活、子供の遊び、生活環境をめぐって)
15. プレゼンテーション(子供の生活、遊び、生活環境をめぐって)

特記事項: なし

授業方法: ・講義を中心とするが、意見交換、プレゼンテーションの機会も設けて行う。
・対面授業とする。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ①については、学習した内容の復習(120分)
- ②～③については、学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(180分)
- ④については、ディスカッションした内容の復習(120分)
- ⑤については、プレゼンテーション案の検討および作成(300分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 可(60～69)
○学修:基本的な学びができている。
○レポート及びプレゼンテーション:学修のまとめが記述されている。
優(80～100)
○学修:包括的な学びと固有の学びができている。

○レポート及びプレゼンテーション:学修のまとめが丁寧に記述されている。自分の意見と考察が述べられている。

課題へのフィードバック:

- レポートについては、50%の評価とする。
 - レポート作成等については、学びの確認を行う。
-

教科書: なし

参考書: 授業中に適宜配布又は指示する。

授業・準備学習のアドバイス:

- 幼年期の教育の仕方はどのように行われるのだろうか、小学校などの教育の仕方とどのようなところが異なるのだろうか、という問題意識をもって臨んでください。
- 子供のいのちや生活の姿、生活環境に思いをはせよう。
- 子供はどんな遊びをしているときが一番輝いているでしょうか、自分の幼児期や小学生時代の遊びを思い出そう。

科目名: 幼児教育方法学特論B(レッジョ・エミリア教育)

クラス:

授業コード: BK20850001

担当者: 森 真理

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 幼稚園教諭(日米)、幼稚園園長(日)補習校教諭(米)

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 「教育はすべての人、すべての子どもの権利であり、同様にコミュニティの責任である」を教育の理念として位置づけ、「子どもは100の言葉を持っている」子ども観により、教育実践を展開するイタリアのレッジョ・エミリア市。同市の乳幼児教育について、その歴史・思想・文化・教育実践について理解を深めると同時に、受講生が社会・世界に貢献する一員として、子どもの権利を保障する教育・生活のあり方について発信する力を育む。

到達目標:

- ・レッジョ・エミリアの教育思想哲学・実践の理解を深めることのみならず、受講生の子ども観、乳幼児教育保育観、世界観の再考と展望に繋げる。
- ・子どもが市民として、社会の真ん中にある生活のあり方について、考え発信できる力を身につける。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. レッジョ・エミリア 市の概要
3. 子ども観:子どもたちの100の言葉
4. ローリス・マラグッツィの生涯と思想・実践
5. 乳児保育所
6. 幼児学校
7. アトリエとアトリエリスタ
8. REMIDA(レミダ)の働き
9. 受講生の個人プロジェクトについて
10. プロジェクト・アプローチ ① 理念
11. プロジェクト・アプローチ ② 実践
12. ドキュメンテーション
13. 諸外国におけるレッジョ・アプローチの取り組み
14. 受講生個人プロジェクトのプレゼンテーション
15. 振り返りと今後の展望

特記事項: なし

授業方法: 毎回の授業は、以下を総合的に展開する。
①～⑮ 講義(対面)
・文献輪読とグループディスカッション
・個人プレゼンテーション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

* 時間
予習:2時間
復習:2時間
を課して、自己研鑽に励むことが求められる。

* 内容
予習:
・指定の文献について読み、まとめる。
・次回の授業で話し合いたいこと・取り上げたい問いや仮説を立てて、授業に参加する。

復習
・授業の内容をまとめる
・疑問を抱いたことや、授業からさらなる発展を探究して、文献等にあたる。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | － % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

- 評価基準:**
- * 最低限の到達度(60－69点)
 - ・授業を理解し、課題に取り組み提出する。
 - ・当事者意識を持って、授業に参加する。
 - * 望ましい到達度(80－100点)
 - ・問題意識をもち、問いを立てる
 - ・授業内容から発展的に探究し、受講生に還元する。
 - ・授業内のみならず、理解したことや問題意識を地域・社会・世界へ発信する実践力を携える。

- 課題へのフィードバック:**
- ・毎回の授業、並びに個別に時間を設定してフィードバックを行う。

- 教科書:**
- ・「発達 156号：特集 なぜ、いま レッジョ・エミリア なのか」(ミネルヴァ書房)2018年、ISBN 978-4-623-08458-6 (1,500円＋税)
 - ・「レッジョ・エミリア市自治体立乳児保育所と幼児学校の事業憲章～大切にしていること～」Reggio Children, JIREA (1,600円税込)

- 参考書:**
- ・「レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針」Reggio Children, JIREA (1,000円＋税)
 - ・その他、授業にて説明、紹介する。

- 授業・準備学習のアドバイス:**
- ・知りたい、深めたいとの心持ちで授業に参加していただきたい。
 - ・幼児教育保育をよりよくする当事者意識を持って、授業に参加されたい。

科目名: 幼児教育マネジメント特論

クラス:

授業コード: BK20880001

担当者: 山根 耕平

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 親和保育園・親和幼稚園の設置及び経営

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 1. AI(人工知能)などの進化や超少子化・高齢社会の到来により、社会が急速に変化し、幼児教育(その目標・内容・経営面等)は厳しい状況に直面している。とくにスマホに象徴されるように、幼児期からスマホ(他のデジタル機器を含めて)に多くの時間を費やし、単に健康面だけではなく、脳の成長への悪影響も指摘されている。現代社会に相応しい幼児教育目標・内容等の再構築が求められている。一方において、加速度的に進行する少子化により、園児募集のむずかしさと人手(保育者)不足も深刻になりつつある。経営上、適正な園児数を確保できないことと、必要な保育者を確保できないこと、この2つの問題は、まさに今後、その解決のためにも保育園・幼稚園・認定子ども園等の適切なマネジメント(教育面・経営面等)を必要としている。こういう問題意識の射程においてマネジメントに関する世界の先見的な知見を学ぶこと。

2. マネジメント論の知見に基づき、日本の幼児教育が直面している多くの課題についてその課題解決の方策を探ること。

到達目標: 1. 幼児教育(カリキュラム・組織・運営等)のマネジメントに関する先端研究の知見を理解すること。修得した知見を発表やレポートで表現できること。
2. 少子化・保育者不足等、多くの課題を抱える日本の幼児教育界の現状を理解した上で、その課題解決のために修得したマネジメントに關する知見を活用できること。
3. マネジメント・リーダーシップを身に付けること。

各回の授業計画:

1. 授業の主旨説明及びマネジメントの意義
子どもをめぐる環境(1) スマホと成長
2. 子どもをめぐる環境(2)「デジタルの本と紙の本」(メアリアン・ウルフ)
3. 保育施設の状況: 保育者不足(佐久間亜紀)
4. P・ドラッカーのマネジメント論(1): 組織におけるマネジメントの必要性和役割
5. P・ドラッカーのマネジメント論(2): リーダーシップ論
6. P・コトラーのマネジメント論: 人間中心のマネジメント
7. 幼児教育のカリキュラム・マネジメントの現状と課題
8. 幼児教育のカリキュラム・マネジメントの理論
9. リーダーシップ論(1) J・コリンズのリーダーシップ論
10. リーダーシップ論(2) E・エドモンドソンのリーダーシップ論とチームング
11. 幼児教育の未来(1): アレックス・ブダクの成長論
12. まとめ(1) 発表と討論: 保育園・幼稚園・こども園の課題
13. まとめ(2) 発表と討論: 同上
14. まとめ(3) 発表と討論: これからの幼児教育のマネジメント
15. まとめ(4) 発表と討論: 同上

特記事項: なし

授業方法: 1. 90分授業の内、30分～40分程度は、先端研究の文献の説明及び理解に使い、その後その文献に関しての意見交換を行う。
2. 毎回、その文献との関連で幼児教育現場の課題について質疑応答行う。
3. 対面授業を基本とする。
4. 文献及び資料については、担当者が配布する。
5. テーマが極めて実践的な性格のものであるために、随時、幼児教育研究の専門家及び幼児教育施設の理事長・園長を講師として招く。
6. 単に知識修得の授業ではなく、全員がコミットメントする参加型の授業を目指すので、受講者の主体的な深い学びを期待する

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習については前もって配布された資料を一読し理解をしておく。発表・質疑応答の際に自分の意見を述べるができるようにしておくこと。

復習については、授業で得た知見を自分なりにノートにまとめ、さらに理解を深めておくこと。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 必要な到達度の水準A(60～69点)

1. マネジメント論について概略を理解し、発表・レポートで概ね表現できること。
2. マネジメントに関する知見に基づき、現在の幼児教育の課題解決へのアプローチについておおまかに説明できる。
3. リーダーシップについておおまかに説明できる。

望ましい到達度の水準B(80～100点)

1. マネジメントに関する知見を理解し、自分なりのマネジメント論を表現できること。
2. マネジメントに関する知見を現在の幼児教育の課題解決に資することができること。
3. 自分なりのリーダーシップを身に付けること。

課題へのフィードバック:
課題に対しては、その論点、まとめ、簡潔性、独自性等についてコメントして返却する。

教科書: なし

参考書: 適宜、提示する。

授業・準備学習のアドバイス:

- ① マネジメントに関する先端の知見を紹介するので、関心のある研究書や推薦図書については、積極的に読破してほしい。読書・研究が楽しくなることを体感してほしい。
- ② 院生には、幼稚園・保育園・子ども園を紹介するので、そこでの研修も推奨する。
- ③ 院生、現場の先生(理事長・園長先生を含む)の参加を期待している。

科目名: 英書講読(教育学)

クラス:

授業コード: BK20900001

担当者: 隈元 泰弘

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教育学に関する原書(英文テキスト)の講読を通して、英文の内容を正確に読み取り理解するとともに、教育学の専門的な知識と教養および論文作成のための基礎を身につけることを課題とする。

到達目標: 英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解説を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を身につけることができるようにする。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. テキストの執筆者の教育学ならびにテキストの内容の紹介
3. テキスト講読の方法の指導
4. テキストの講読1
5. テキストの講読2
6. テキストの講読3
7. テキストの講読4
8. テキストの講読5
9. テキストの講読6
10. テキストの講読7
11. テキストに関する研究動向と文献の紹介
12. テキストに関する研究文献の講読1
13. テキストに関する研究文献の講読2
14. テキストに関する研究文献の講読3
15. まとめと評価

特記事項: なし

授業方法: 授業は、対面で行う。
講読形式を基本とし、演習形式の長所を取り入れつつ以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

- ・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
- ・予習・復習の内容
予習においては、テキストを精読し、その内容を理解すること。(2時間)
復習においては、授業内容を綿密に見直し、参考資料・参考文献を熟読して授業内容の理解を深化させる。質問がないかどうか検討し、理解を確認する。テキストを真に理解するとは、その内容を第3者にわかるように説明できるようになることであるということを念頭に置き、自分の読みと理解をこのような水準にまで高めるよう努めること。(2時間)

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: ・最低限の到達度(60~69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。

すなわち:

英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解読を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を必用不可欠な水準において身につけることができている。

・望ましい到達度(80~100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。

すなわち:

英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解読を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を、研究における英文文献の活用を広く可能とする水準において身につけることができている。

課題へのフィードバック:

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

教科書: Lawrence Kohlberg, Justice as Reversibility
テキストはコピーして配布する。

参考書: 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス:

文章の意味を考えながら、一文一文丁寧に読むことが重要である。

部分的にはわからなくても、段落全体、当該章節の全体を読むとわかってくることもある。難しいと感じたら、もう少し先まで読んでみる、もう一度前の部分を読み直してみる等、とにかく、根気よく取り組むことが何よりも大切である。

辞書は中辞典以上のものが望ましい。当該の単語が原文ではどのような意味で使われているのかを、例文を参考にしつつじっくりと考えて「辞書を読む」という勉強ができるようになることよ。

科目名: スポーツ教育学特論A

クラス:

授業コード: BK21050001

担当者: 三木 四郎

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: スポーツは人間の文化の一つであり、人間の「身体」に依拠した「文化」と捉えることができる。スポーツの概念を「遊びの要素をもつ身体活動」と定義することでスポーツの本質的価値とその身体活動の意義について考える。本講義では生涯にわたってスポーツの楽しさや喜びを味わうために求められる身体活動(スポーツ運動)に求められる運動感覚発生について焦点を当て、発生運動学の運動理論による人間の運動を理解する。また、スポーツの技能習得やルールに関する諸問題を明らかにする。

到達目標:

1. 学校体育におけるスポーツ教育の考え方を理解できる。
2. 遊びとスポーツの関係を理解する。
3. 人間の運動について理解する。
4. スポーツでの動きかたを身に付けるこの問題を理解する。
5. 発生論的運動学の運動指導の理論が理解できる。
6. 幼児、児童の運動習得の様相を理解できる。
7. スポーツの楽しみ方を理解できる。

各回の授業計画:

1. 学校体育におけるスポーツ教育の考え方。
 - ・戦前の心身二元論的な身体活動の考え方
 - ・スポーツによる教育
 - ・スポーツの楽しさを味わうことを目標とする体育学習
2. 遊びとスポーツ
 - ・スポーツの語源
 - ・遊びの定義
 - ・ホイジンガーの遊びの定義
 - ・カイヨワの遊びの定義
 - ・スポーツの定義
3. 人間の運動
 - ・日常的運動
 - ・表現運動
 - ・労働運動
 - ・スポーツ運動
 - ・楽しみスポーツ
 - ・健康と体力のスポーツ
 - ・競技運動のスポーツ
 - ・身体教育のスポーツ
4. スポーツに求められる新しい運動理論
 - ・幼児期における運動遊びの必要性(受動志向性)
 - ・スポーツにおける身体性の学習
 - ・「身体である」と「身体をもつこと」の関係
 - ・スポーツに求められる動きかたを身に付ける意味
5. スポーツ指導について考える
 - ・スポーツの楽しさと「できる」ことの関係
 - ・「できる」ということをどのように考えるか
 - ・人間が「動きかた」を覚える意味
 - ・科学的理論に基づくスポーツ指導
 - ・新しい発生運動学の運動理論による指導
6. 発生運動学に基づく動感指導とスポーツの楽しさ
 - ・動きの構造(動きのかたち)について考える
 - ・動きの局面構造を理解する
 - ・動きのリズムを理解する
 - ・コツ・カンについて考える
 - ・コツと動きのアンログン
7. 幼児と児童の運動発達とスポーツについて考える

- 人間の赤ちゃんの運動
- 幼児期に形成される運動感覚
- ・運動習得の意欲とスポーツについて考える
- 8. スポーツでの動きかたを習得する形成位相について
 - ・原志向位相
 - ・探索位相
 - ・偶発位相
 - ・形態化位相
 - ・自在位相
- 9. スポーツの動きかたを覚えるための動感能力について(1)
 - ・始原(今ここを感じる)身体知
 - ・体感(今ここを感じる)身体知
 - ・時間化(今を感じる)身体知
- 10. スポーツの動きかたを覚えるための動感能力について(2)
 - ・形態化(形づくり)の身体知
 - コツの身体知
 - カンの身体知
 - ・洗練化の身体知
- 11. スポーツの動きかたを教えるための動感指導能力について(1)
 - ・素材づくりの身体知
 - 観察身体知
 - 交信身体知
 - 代行身体知
- 12. スポーツの動きかたを教えるための動感指導能力について(2)
 - ・処方できる身体知
 - 道しるべを立てる
 - 動く感じを示せる
- 13. スポーツの技能指導の実践的事例の検証
- 14. テーマ発表とまとめ
- 15. テーマ発表とまとめ

特記事項: なし

授業方法: 全ての授業を対面で行う。講義と課題に対する発表とディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 事前に提示する資料および参考書を予習する(毎回45分)
2. 提示された課題を講義内容に基づいて具体的例示を挙げながらレポートにまとめて復讐する(毎回45分)
3. 次時の発表原稿を書く(毎回90分)

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|----|----------|---------------|----|----------|--------------|----|----------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 | % | 確認テスト: | 20 | % | レポート: | 30 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: (60～69点)講義に問題意識をもって理解できる。
 (70～79点)講義内容を理解して具体的な例によって説明することができる。
 (80～100点)復習によって講義内容をまとめ、関連文献を調べてレポートを提出する。

課題へのフィードバック:

発表するレポートをもとに討議を行う。討議を基に修正したレポートを提出。
 添削して返却する。

教科書: 三木四郎 新しい体育授業の運動学(明和出版)
 三木四郎 器械運動の動感指導と運動学(明和出版)
 三木四郎、灘 英世編著 ボール運動の運動感覚指導(明和出版)

参考書: 金子明友 スポーツ運動学(明和出版)
 金子明友 わざの伝承の道しるべ(明和出版)

授業・準備学習のアドバイス:

事前に提示された資料および課題に対して参考書、ネット等で下調べ、理解できないことを質問できるようにしておく。また、発表するレポートをもとに課題を提案できるようにする。

科目名: 総合学習特論

クラス:

授業コード: BK21100001

担当者: 酒井 達哉

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 公立小学校教諭の経験に基づき、実践的な研究の指導を行う。

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 「総合的な学習の時間」の教育的意義や現状と課題をとらえとともに、「総合的な学習の時間」における地域教材を生かした年間指導計画の作成について理解を深め、それらに関する研究についても探求する。

到達目標: 学習指導要領において「探究な学習」の充実として位置づけられた「総合的な学習の時間」の学習理論と具体的な授業実践について理解を深める。総合的な学習の時間について目標、内容、指導計画、評価、学習指導、組織体制等の理論と実際の方法が具体的に実践できる指導能力の獲得を目標とする。

各回の授業計画:

1. ガイダンス・総合的な学習の時間の現状と課題について
2. 総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯
3. 総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨
4. 指導計画の作成にあたっての配慮事項と指導計画の要素
5. 内容と内容の取り扱いについての配慮事項
6. 学校における実践事例の検討①(小学校中学年)
7. 学校における実践事例の検討②(小学校高学年)
8. 評価の基本的な考え方と評価方法
9. 学習指導の基本的な考え方と学習指導のポイント
10. PBLの進め方と主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の進め方
11. 総合的な学習の時間における探究的な学びの過程①(課題設定、情報の収集)
12. 総合的な学習の時間における探究的な学びの過程②(整理・分析、まとめ・表現)
13. 単元指導計画の作成
14. 作成した 単元指導計画の発表・協議
15. 総括

特記事項: なし

- 授業方法:
1. 講義、グループワーク
 2. 講義、パソコンを使用した授業
 3. 講義、パソコンを使用した授業
 4. 講義、グループワーク
 5. 講義、パソコンを使用した授業
 6. 講義、DVD視聴
 7. 講義、DVD視聴
 8. 講義、パソコンを使用した授業
 9. 講義、パソコンを使用した授業
 10. 講義、グループワーク
 11. 講義、DVD視聴
 12. 講義、DVD視聴
 13. 講義、パソコンを使用した授業
 14. 講義、グループワーク
 15. 講義、グループワーク

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習: 講義内容を復習し、総合的な学習の時間の現状と課題についてまとめる。(180分)
2. 復習: 講義内容を復習し、総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯についてまとめる。(180分)
3. 復習: 総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨について調べ、まとめる。(180分)

4. 復習:指導計画の作成にあたっての配慮事項と指導計画の要素について調べ、まとめる。(180分)
5. 復習:内容と内容の取り扱いについての配慮事項について調べ、まとめる。(180分)
6. 予習:学校における実践事例の検討①(小学校中学年)について調べ、まとめる。(180分)
7. 予習:学校における実践事例の検討②(小学校高学年)について調べ、まとめる。(180分)
8. 復習:評価の基本的な考え方と評価方法について調べ、まとめる。(180分)
9. 復習:学習指導の基本的な考え方と学習指導のポイントについて調べ、まとめる。(180分)
10. 復習:PBLの進め方と主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の進め方について調べ、まとめる。(180分)
11. 復習:総合的な学習の時間における探究的な学びの過程①(課題設定、情報の収集)について調べ、まとめる。(180分)
12. 復習:総合的な学習の時間における探究的な学びの過程②(整理・分析、まとめ・表現)について調べ、まとめる。(180分)
13. 予習:単元指導計画について調べ、まとめる。(180分)
14. 予習:単元指導計画について調べ、まとめる。(180分)
15. 復習:講義内容を復習し、総合的な学習の時間についてまとめる。(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 20 % | 確認テスト: | 10 % | レポート: | 50 % |
| | その他1: 発表 | | | 20 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

| | |
|-------|---|
| 評価基準: | 60～69点:学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を理解できている。 |
| | 70～79点:学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を理解し、効果的な指導を行えるように論ずることができる。 |
| | 80～100点:学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を深く理解し、効果的な指導を行えるように論じ、効果的な実践・研究の方法が理解できている。 |

課題へのフィードバック:
 ・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて、個別に説明する。

教科書: 村川雅弘・酒井達哉 他4名『総合的な学習の時間の指導法』日本文教出版、2018年

参考書: 随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:
 提示された課題に関して、予習・復習を行う。

科目名: ホリスティック教育特論

クラス: ☆

授業コード: BK21200001

担当者: 中川 吉晴

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本講義では、ホリスティック教育の発展、理論、方法、実践例をとりあげ、ホリスティック教育の全体像を理解できるようにする。

到達目標: 1. ホリスティック教育に関する基礎的な知識を得ることができる。
2. ホリスティックな思考様式を習得することができる。
3. ホリスティック教育の基礎的な方法を習得することができる。

各回の授業計画:

- ホリスティック教育の成立と発展、隣接分野との関係
『ホリスティック臨床教育学』1章、『ホリスティック教育講義』1章
- ホリスティック教育の考え方 ジョン・ミラーの理論
『ホリスティック教育講義』第2章
- 教育におけるスピリチュアリティ
『ホリスティック臨床教育学』第2章
- 魂のケア、ケアリング教育
『ホリスティック臨床教育学』第3章、第4章
- ホリスティック教育の方法、観想教育、マインドフルネス
『ホリスティック臨床教育学』第7章、『ホリスティック教育講義』第5章
- 教師教育
『ホリスティック臨床教育学』第9章
- ホリスティック教育の実例 1 シュタイナー教育
『ホリスティック教育講義』第5章
- ホリスティック教育の実例 2 オーロピンド、クリシュナムルティの学校
『ホリスティック臨床教育学』第2章、『ホリスティック教育講義』第1章、第5章
- ホリスティック教育の実例 3 タイ、ルンアルン校
『ホリスティック教育講義』第3章
- ホリスティック教育の方法、身体技法、ソマティック教育
『ホリスティック臨床教育学』第6章、『ホリスティック教育講義』第4章、第6章
- ホリスティック教育の方法、感情教育、SEL、ハート知性
『ホリスティック臨床教育学』第8章
- 東洋思想とホリスティック教育
『ホリスティック臨床教育学』第5章
- ホリスティック教育の方法 サイコシンセシス 1 実習 サブパーソナリティ
『ホリスティック教育講義』第6章
- ホリスティック教育の方法 サイコシンセシス 2 実習 セルフ
『ホリスティック教育講義』第6章
- 生きる意味の教育
『ホリスティック教育講義』第7章

特記事項: テキストをふまえて質疑の時間をとる。内容について講義をおこなう。実習の時間をとる。可能な範囲で映像資料も使用する。

授業方法: 1～15 オンライン(同時配信) 講義、ディスカッション、アクティビティ

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習 テキストを事前に読んで質問を考えておくこと(120分×15=1800)
復習と課題 授業内容を復習しコメントを残すこと(60分×15=900)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 80 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 20 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 最低限の到達度(60～69点)
 授業へのとりくみ テキストを読んできているが、質問や議論があいまい。
 レポート テキストと授業で学んだことの概要を理解している。

標準的な到達度(70～79点)
 授業へのとりくみ テキストを読んで、しっかり質問を準備し、議論に参加する。
 レポート テキストと授業で学んだことを整理して理解している。

望ましい到達度(80～100点)
 授業へのとりくみ テキストを詳しく読んで、的確な質問を準備し、積極的に議論に参加する。
 レポート テキストと授業で学んだことに関心をもち、自分でも調べて十分に理解している。

課題へのフィードバック:
 レポートに対して簡潔なコメントをフィードバックする。

教科書: 中川吉晴『ホリスティック臨床教育学』せせらぎ出版
 中川吉晴『ホリスティック教育講義』出版館ブッククラブ
 各自で事前に用意しておくこと

参考書: 授業時に随時指示する。

授業・準備学習のアドバイス:
 テキストを使用するので、事前に読んで質問を考えてくること。授業内では簡単な実習も取り入れるので積極的に参加すること。授業への出席と参加度を評価において重視する。テキストや授業で学んだことを最後にレポートにまとめること。レポートは最終回のあとに提出すること。なお受講者の関心に応じて授業内容を変更することがある。

科目名: 日本語学特論

クラス:

授業コード: BK21250001

担当者: 近藤 要司

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 「とりたて助詞」を解説する。「とりたて助詞」という名称は「文のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加える」働きをする助詞である。しかし、その文法的な特徴は助詞ごとにまちまちで、相互関係がつかみにくい。本講義では、「ダケ、シカ、バカリ、コソ、モ、デモ、サエ、マデ、ナンカ、ハ」について、その「とりたて助詞」としての働きをわかりやすく説明する一方で、各助詞の相互関係についても考察する。

到達目標:

1. 日本語の文法の全体像を理解すること。
2. 日本語の助詞のさまざまな特質について理解すること。
3. とりたて助詞それぞれの意味用法の特徴とともにその相互関係についても理解する。

各回の授業計画:

1. 日本語文法の基本1 文法の特徴
2. 日本語文法の基本2 品詞の概観 体言と用言
3. 日本語文法の基本3 品詞の概観 副用語
4. 日本語文法の基本4 助動詞(ヴォイス・アスペクト・テンス・モダリティ)・助詞
5. とりたて助詞概観1
6. 限定のとりたて助詞1 ダケ
7. 限定のとりたて助詞2 シカ・バカリ
8. 限定のとりたて助詞3 コソ
9. 累加のとりたて助詞 モ1(累加)
10. 累加のとりたて助詞 モ2(極限・ほかし)
11. 極限のとりたて助詞 サエ・デモ
12. 極端のとりたて助詞 デモ(ほかしの用法など)
13. 対比のとりたて助詞 ハ・ナラ
14. 他言語のとりたて表現
15. とりたて助詞相互の関係

特記事項: なし

授業方法: 対面授業。
スライドと事前配付資料を中心に授業をすすめる。スライド・配付資料には授業前に目をとっておくこと。
授業ごとにまとめの小課題を出題するので、かならず解答を提出すること。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

この講義については、2700分の予習復習が必要です。
文法の授業は用語などが難しいので、かならず復習すること。
とくにあげられた用例について、自分で別の用例を考えたり、作ったりしてみること。
必要に応じ、文献を指示するので指示された文献については読んでおくこと。

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------|---|----------|---------------|----|----------|--------------|----|----------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | - | % | 確認テスト: | 42 | % | レポート: | 58 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: 授業への取り組み: 中に行う用例の採集と分類の小レポートを含む。
レポート: 最終回に課題を提示し、それについてレポートを提出する。

課題へのフィードバック:

レポートにはコメントをつけて返却します。

教科書: 使用しない。毎回、資料を配付する。

参考書: 現代日本語記述文法研究会編『現代日本語文法 5 』くろしお出版 2009年6月
小柳智一「〈シンポジウム特集 とりたて研究の可能性〉副助詞研究の可能性」日本語文法学会編『日本語文法』8巻2号 2008年9月
坂梨隆三「助詞の分類」「膠着語とは何か」鈴木一彦・林巨樹『研究資料日本文法 第5巻 助辞編(一) 助詞』明治書院 1984年3月25日
澤田美恵子(2007)『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』くろしお出版 2007年12月3日
沼田善子「とりたて」新田義雄・益岡隆史

授業・準備学習のアドバイス:

『日本語文法大辞典』(明治書院)、『日本語文型辞典』(くろしお出版)などを調べて、授業で扱う助詞の意味用法について、予習しておいてください。特に留学生は十分に予習をしておいてください。
授業中には、文芸文あるいは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』などのコーパスを配布して、副助詞の実例の用例を採集調査しますが、授業時間中に調査しきれなかった分については、次週までに調べてレポートするようにしてください。
総合文化学科の春学期開講科目「日本語文法(現代)」を受講しておくことをすすめます。

科目名: 日本語教育特論

クラス:

授業コード: BK21300001

担当者: 玉地 瑞穂

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 日本語教育を中心に外国語教育研究の分野の主要な研究、研究手法を紹介し、大まかな研究動向、研究の課題を考える。次に、外国語教授法研究、応用言語学分野の研究に関わる論文を紹介する。また、日本語能力評価法、教授法、教材について分析し、日本事情紹介を取り入れた日本語教育の可能性を探る。最後に、日本語教育をテーマとした研究方法についても触れる。

到達目標: 学問研究としての日本語教育研究の可能性を知り、理論的な視点から、外国語教育を分析する視点、研究方法を身につける。また、日本語教育では何を目標にし、それがどのように実践されるか、どのような事項が日本語教育の分野の問題となっているか、できるだけ具体的なレベルで考えたい。特に、近年注目されている学習ストラテジー研究とあわせ、日本語教育研究の新しい動向に対応する力をつけたい。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション: 講義の内容を確認し、学問研究としての日本語教育研究の可能性とその概要を紹介する。外国語教授法理論の変遷(1): Richards, Jack C. & Theodore S. Rogers (1986) "Approaches and methods in language teaching: a description and analysis" の概要を紹介する。
2. コミュニカティブ・アプローチの変遷と動向
3. 言語教育の歴史、アプローチとメソッド
4. オーディオリンガル・メソッド
5. サジェストペディア・TPR、サイレントウェイ、CLLなど
6. 多重知能、レクシカル・アプローチ、NLP、ナチュラル・アプローチなど
7. 協同言語教授法、内容重視の教授法、タスク重視の教授法、ポスト教授法時代
8. 第二言語習得研究の動向
9. 学習者ストラテジーとオートノミー
10. 日本語能力の評価(日本語スタンダード)
11. 初級日本語教授法と教材分析
12. 中上級日本語教育と教材分析
13. 日本事情教育とプロジェクトワーク
14. カリキュラム作成とコースデザイン
15. 日本語教育分野の教授法－質的研究法(参与観察、アクション・リサーチ、会話分析、ナラティブ分析など)

特記事項: なし

授業方法: ①～⑮ 講義(対面)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

論文講読などで、計2700分の予習が必要である。

1. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
2. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
3. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
4. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
5. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
6. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
7. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
8. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
9. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
10. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
11. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
12. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)
13. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)

14. 授業で紹介した論文のまとめ。次回の授業内容の予習。発表準備。(180分)

15. 授業で紹介した論文のまとめ。レポート執筆。(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 40 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業への取り組み、課題、発表や模擬授業への評価などを、統合的に評価する。
(80-100)積極的に討議に参加し、協働学習を進めることができる。優れた視点から研究テーマを設定し、丁寧に文献調査を進め、先行研究を適格に論理的にまとめ、発表することができる。
(70-79)討議に参加し、協働学習を進めることができる。適格な視点から研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめる姿勢に努力がうかがえる。課題を発表することができる。
(60-69)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、なんとか研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめられる。助言を受けながら、課題を発表することができる。

課題へのフィードバック:

論文講読についてフィードバックを授業内で行う。

教科書: Richards, Jack C.&Theodore S.Rogers(1986) "Approaches and methods in language teaching: a description and analysis"

参考書: 『日本語教育事典』。参考文献を随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

日本語教育と、日本語教育に影響を与える隣接分野の研究について考え、また日本語教育における日本事情教育の可能性を探りたいと思います。まず、日本語教育の基本的な概念を学び、日本語教育の背景にある第二言語習得研究を学びます。教材分析や研究方法を紹介することで、日本語教育分野に理論的にアプローチできる能力を身につけたいと思います。そして、活発に討議を行える授業、日本語教育の新しい動向を視野においた授業をめざします。

科目名: 国際教育特論

クラス:

授業コード: BK21350001

担当者: 奥野 アオイ

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: "真なる教育"として国際的に発展を遂げ、日本においても期待されているオルタナティブな教育について理解を深める。

到達目標: ①なぜ国内外でオルタナティブ教育が広まったのか、その歴史を振り返る。
 ②多様化する社会において、オルタナティブな教育の必要性を明確にする。
 ③それぞれの教育現場で、オルタナティブな教育をどのように実践可能にするかについて計画・提案する。

各回の授業計画:

1. 授業に関するオリエンテーション
私たちの社会と教育現場を可視化してみよう！
国際的にオルタナティブな教育が求められてきた変遷について考える。
2. 第一章「オルタナティブ」の三つの意味合いー日本のオルタナティブ教育の動向
3. 第二章 オルタナティブ教育の法制化をめぐるー教育機会を確保するもう一つの法制度
4. 第三章 シュタイナーのホリスティックな人間観と教育観ー独自理念型オルタナティブ学校の範例
5. 第四章 シュタイナー学校の教育現実からーブーバーの対話哲学で読み解く
6. 第五章 教育のパラドクスから「もうひとつの世界」へー村井実の「〈善さ〉の教育学」より
7. 第六章 教育的日常のなかに働くスピリチュアリティーブーバーの「対話の生涯」に学ぶー
8. 第七章 別様の他者との「対話」の(不)可能性ー井筒俊彦を補助線としたブーバー
9. 第八章 人類史的な問いとしての「ケア」ー「教育」概念を外側へ開く新たな地平
10. 結章〈ホリスティック教育/ケア〉研究のために
プレゼンテーションについての説明
11. 世界のオルタナティブな学校I
12. 世界のオルタナティブな学校II
13. プレゼンテーションI&ディスカッション
14. プレゼンテーションII&ディスカッション
15. まとめ:授業の振り返り&ディスカッション

特記事項: なし

授業方法: 全て対面授業で実施する。
 (前回の授業のフィードバック、全体の予習のコメント、講義、ディスカッション、復習)

予習・復習・宿題など(内容・時間):

2回目の授業以降、前回授業の復習から関連させて、次回授業範囲を熟読して感想をのまとめておくこと(800~1000字)。
 予習15回×120分+復習15回×60分=2700分

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 75 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 25 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 1. 毎授業を次回の授業に関連させて思考し、文章に表現化
 2. ディスカッションでの参加態度・意欲・協働
 3. プレゼンテーションと最終レポートで授業の学びを活用できているか

課題へのフィードバック:

教科書: 吉田敦彦(2022)『教育のオルタナティブー〈ホリスティック教育/ケア〉研究のためにー』せせらぎ出版

参考書: 毎日、新聞を読んで教育に関連する社会の事象を知ること(それらについてメモを残しておくで最終レポートの作成の参考になるため)

授業・準備学習のアドバイス:

各自が毎回、授業の予習と復習をファイルにし、学びを深めるオリジナル資料を作成しましょう。

本授業は履修生数によって授業の進行や課題方法が変更することがあります。第一回のオリエンテーションに必ず出席してから履修を決めましょう。

科目名: 生涯福祉特論

クラス:

授業コード: BK21400001

担当者: 鶴 宏史

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 児童発達支援センターで児童指導員として勤務

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: この授業では、社会福祉の基礎概念・理念および子ども家庭福祉の視点、制度、援助方法を学ぶことにより、人々の生涯の中でも児童期において社会福祉の果たす役割について理解することを目的とする。

到達目標:

- (1) 社会福祉の基礎概念を理解する。
- (2) 子ども家庭福祉の視点、政策・制度・法律、援助方法・技能を理解する。
- (3) 子ども家庭福祉の今後の課題を理解する。

各回の授業計画:

1. 社会福祉の基礎(1)社会福祉の概念
2. 社会福祉の基礎(2)社会福祉の理念
3. 子ども家庭福祉の体系
4. 子ども家庭福祉の歴史(1)明治期～現代【非同期型のオンライン授業】
5. 子ども家庭福祉の歴史(2)人物を中心に【非同期型のオンライン授業】
6. 子ども家庭福祉の分野(1)保育①保育の概念、保育にかかわる制度
7. 子ども家庭福祉の分野(2)保育②非認知的能力と保育
8. 子ども家庭福祉の分野(3)障害児福祉①障害児福祉に関わる制度
9. 子ども家庭福祉の分野(4)障害児福祉②障害児の療育
10. 子ども家庭福祉の分野(5)社会的養護①社会的養護に関わる制度
11. 子ども家庭福祉の分野(6)社会的養護②児童虐待と社会的養護
12. 子ども家庭福祉の分野(7)社会的養護③少年非行と社会的養護
13. 子ども家庭福祉の分野(8)地域子育て支援①子育て家庭のニーズ
14. 子ども家庭福祉の分野(9)地域子育て支援②子育て支援の方法
15. 子ども家庭福祉の動向と課題

特記事項: なし

授業方法: 第1回～第3回、第6回～第15回:講義(対面)、DVD視聴及びディスカッション含む
第4回～第5回:Teamsによる講義(オンライン(オンデマンド))

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回につき予習75分、復習75分の学修を行うことが望ましい。予習は、参考書や事前に配布した資料等を参照してキーワードを調べる。復習は講義で学んだことをまとめたり自分の考えをまとめたりする。レポート作成(3回)には計450分程度の学修時間を想定している。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|------|---------------|-----|--------------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 55 % | 確認テスト: | 0 % | レポート: | 45 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 到達目標について、ほぼ理解できている、良くできている 80～100点
到達目標について、大きな間違いがなく理解できている 70～79点
到達目標について、最低限の理解はできている 60～69点

課題へのフィードバック:

毎回、時間内にふりかえりシート(小課題)を提出してもらいが、確認して返却するとともに次の回に解説する。
レポート課題については確認後、コメントをつけて返却する。

教科書: なし(毎回資料を配布する)

参考書: 倉石哲也・小崎恭弘編著(2017)『社会福祉』ミネルヴァ書房

授業・準備学習のアドバイス:

授業は基本的に講義が中心であるが、グループワークやディスカッションも行うので学生の授業への積極的な参加を期待しています。

科目名: 教育行政学特論

クラス: 集中

授業コード: BK21500001

担当者: 三羽 光彦

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 現代公教育における教育行政の意義と役割について考察し、教育行政の基本的事項を理解するとともに、現代日本の教育と教育行政の諸現象を教育学的に分析し、現在課題となっている教育改革についても考察を深める。

到達目標: 学校教育を中心とする教育行政学の基本知識を修得するとともに、近年の教育行政学の研究成果や論争点を理解し、今日の日本の教育と教育行政の諸課題を教育学的に整理・検討することができることを到達目標とする。

各回の授業計画:

1. 教育行政の意義とその機能
2. 日本国憲法と教育を受ける権利
3. 教育の機会均等
4. 社会経済的格差と教育行政の課題
5. 教育基本法の意義と論点
6. 教育行政の原理と教育委員会制度
7. 教育課程行政の在り方と学習指導要領(カリキュラムマネジメント)
8. 教科書と教科書行政
9. 教員法制と教員の服務
10. 教員組織と学校経営(学校の危機管理とチーム学校の在り方)
11. 学校制度の原理と課題
12. 幼保一元化と幼児教育の課題
13. 学校・家庭・地域の連携
14. これからの教育改革の課題
15. 本講義のまとめ

特記事項: なし

授業方法: すべて対面授業。講義半分、討論形式半分で授業を進める。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習については、教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それにともなう諸資料を図書館、インターネット、新聞・雑誌などで調べて、そのノート・ファイルを持って出席してください。毎回全員ノート・ファイル等を見せていただきます。その上でその日の報告者をお願いいたします。報告者については加点致します。復習として前回のまとめの小試験をします。なお、最終的に各自講義に関連して自由題で最終レポートを作成していただきます。合計で2700分の授業外学習が必要です。

| | | | | | | |
|--------------|------------------|----------|---------------|------|--------------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 20 % | 確認テスト: | 50 % | レポート: | - % |
| | その他1: | 授業中のレポート | | 30 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: レポート(100点)によって評価する。授業内容を的確に理解したレポートを最低限の到達度(60~69点)とし、さらにそれを各自発展させたレポートのうち筋道だった考察をしているものを望ましい到達度(80~100点)とする。その間その程度を勘案して70~79点と評価する。

課題へのフィードバック:

次回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。したがって課題へのフィードバックそのものが授業となります。

教科書: 文部省『高等学校学習指導要領』
『教育と教育行政』勁草書房。
宇野重規『民主主義と何か』講談社現代新書。
池上彰『学び続ける力』講談社現代新書。
その他は授業中に指示します。

参考書: 教科書は使わず、資料およびプリントで進める。

授業・準備学習のアドバイス:

今回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。したがって課題へのフィードバックそのものが授業となります。

科目名: 教育心理学特論

クラス:

授業コード: BK30100001

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: この講義では、教師の主な仕事、児童生徒指導、教育の今日的課題、教師に関わる問題等について教育心理学が明確にしてきた成果や知見を提供し検討していくことによって多角的に考え理解していくことを目的とする。

到達目標: 学校現場の様々な問題に対して、教育心理学の知見を活用することにより教師の立場から対応方法を考えることができる。

各回の授業計画:

1. 教育現場における様々な問題
2. 学級づくり
3. 保護者対応
4. 不登校
5. 非行
6. いじめ
7. 教育相談
8. 学級崩壊
9. 学習の動機づけ
10. 主体的学習を支える学習の理論・形態と過程
11. 発達障害
12. 教育評価
13. 課題研究発表とディスカッション1
14. 課題研究発表とディスカッション2
15. まとめと確認

特記事項: なし

授業方法: 講義、グループワーク、ディスカッション
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 授業内容の復習(180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 授業内容の復習(180分)
4. 授業内容の復習(180分)
5. 授業内容の復習(180分)
6. 授業内容の復習(180分)
7. 授業内容の復習(180分)
8. 授業内容の復習(180分)
9. 授業内容の復習(180分)
10. 授業内容の復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. プレゼン準備(180分)
13. プレゼン準備(180分)
14. 課題のまとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 20 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 80 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: (100～80点)レポートの課題に適切に対処できている。
(79～70点)一部の参考文献にしか目を通していない。
(69～60点)思いつきによるレポート課題への対処である。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

レポートの内容は、タイトルを明記し、テーマに沿って具体例を挿入すること。
日頃から学校の問題について関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

科目名: 学校心理学特論

クラス:

授業コード: BK30200001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭<教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等>, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本授業では、心理教育的援助の理論と実践を支える学問である学校心理学の全般について学ぶ。学校心理学の視点から、子どもを取り巻く現状、対応方法、実践例を、日本の研究ばかりでなく海外の研究も視野に入れて学びを深める。これらの理論と実際について、知的理解とともに体験的理解を基に実践的理解を深める。

到達目標: 1. 学校心理学の概念とその意義を理解し、心理学を活用した考え方ができる。
2. 学校における児童生徒への支援の全体像を理解し、具体的な対応ができる。

各回の授業計画:

1. 学校心理学で、子どもを幸せにする(なぜ、学校心理学は必要か)
2. 教育の最新事情(日本の子どもの現状)
3. ピアサポート(人と人をつなぐ)
4. 発達障がい(効果的な対応とは何か)
5. UDL(ユニバーサルデザインと障がい)
6. 協同学習(心理学を用いた勉強方法)
7. 心理テスト①(自己分析と自己理解)
8. ネット問題(いじめ・投稿・自殺・性の問題)
9. 愛着障害(親の愛情のない子どもたち)
10. 虐待(虐待を受けた子どもの未来)
11. ストレス心理学(いいストレス、悪いストレス)
12. 自己肯定感(自信のない人、不安な人の心理)
13. 心理テスト②(深層心理と夢分析)
14. 事例研究(家族の心理、問題の親)
15. 児童心理学の今後の課題と展望

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。全体を通して、アクティブ・ラーニングを展開する。

1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・演習
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・グループディスカッション
12. 講義・グループディスカッション
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習として、各回の内容に関する事前の情報収集が必要である(毎回1時間)。
復習として、「授業アンケート」(体験の振り返り)及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である(毎回1時間)。

また、レポート課題の作成作業が必要である(毎回1時間分)。
なお、予習及び復習課題に関しては、毎回の授業終了時に提示する。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | 30 % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 受講態度(40%)、確認テスト「授業アンケート」(30%)、レポート(30%)を総合的に評価する。
受講態度は、授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を評価する。
授業アンケート及びレポートは、授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。

課題へのフィードバック:

授業アンケートに関しては、次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては、必要に応じて授業外場でフィードバックを行う。

教科書: 教科書は特に指定しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

参考書: 石隈利紀(著)「学校心理学」誠信書房 1999年
大野精一・藤原忠雄(編)「学校教育相談の理論と実践」あいり出版 2018年

授業・準備学習のアドバイス:

授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を大切にする。
授業アンケートへの取り組みを通して授業内容を整理するとともに、自身の気づきや考えの変容等を再認識することを大切にする。

科目名: 発達心理学特論

クラス:

授業コード: BK30400001

担当者: 小山 正

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員(療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本特論では、主な発達の理論について学び、定型発達や障がいのある子どもの発達過程とその支援についての理解を通して、発達心理学における課題を考究できるようになることを目的とする。

①各時期の発達の様相について理解できるようになることを目的とする。

②また、知的発達症や、自閉スペクトラム症をもつ子どもの発達支援に関して理解できるようになることを目的とする。

③そして、子どもの発達、人間発達について、発達心理学的立場から考察することを目的とする。

到達目標: 1.主な発達理論について説明できる。
2.定型発達、非定型発達について説明できる。
3.象徴機能の発達について説明できる。
4.子どもの発達過程を解釈できる。
5.発達支援の視点・方法を考えるうえでの基本的事柄を述べることができる。
6.発達心理学的立場から人間発達について解釈することができる。

各回の授業計画:

1. 発達とは
2. ピアジェ理論の今日的意義
3. 発達における安定性と不安定性
4. 定型発達と非定型発達
5. 発達の段階
6. ダイナミック・システムズ・アプローチ
7. 遊びの発達の意義
8. 人間発達における象徴機能と言語
9. 発達におけるスピードアップ
10. 発達臨床と発達理論
11. 発達における多様性と個人差
12. 障がいをもつ子どもの言語発達支援をめぐって
13. 親になること-現代の親の養育態度と子どもの発達
14. 発達の理論
15. 全体の総括と振り返り

特記事項: なし

授業方法: (授業方法)対面。テキストにそって(必要に応じて資料も配布します)、講義後、討論の形式で行う。

1～15回: 講義と討論

予習・復習・宿題など(内容・時間):

毎回の授業に対して、

テキストの予習(60分)

テキスト、配布資料の復習(120分)

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------|----|---|--------|---|---|-------|----|---|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 | % | 確認テスト: | - | % | レポート: | 40 | % |
| | その他1: | | | | | % | | | |
| | その他2: | | | | | % | | | |

評価基準: 主な発達理論や人の発達段階について説明することができる。発達理論と発達支援の視点・方法を考えるうえでの基本的事柄を述べることができる。(優)

課題へのフィードバック:

レポート提出後の授業においてコメントをフィードバックします。

教科書: 小山 正 著『発達の理論: 発達の多様性とその支援に向けて』ナカニシヤ出版

参考書: 小山 正著『言語発達』ナカニシヤ出版

授業・準備学習のアドバイス:

- ①テキストの該当章を事前によく読んでおいてください。
- ②「授業への取り組み」とは授業態度やディスカッションに対する意欲的な取り組みのことである。「レポート」とは授業内レポートである。

科目名: 生徒指導特論

クラス:

授業コード: BK30600001

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭<教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等>, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本授業では、日本における児童生徒支援のバイブルとして、2022年12月に発刊された「生徒指導提要」を概観し、日本における生徒指導の原理原則について学ぶとともに、生徒指導上の諸問題についての現状理解を深め、その対応と具体的支援方法について検討する。

到達目標: 1. 生徒指導提要の概要を理解する。
2. 生徒指導を学校心理学の立場から構造的に捉えることができる。
3. 学校における生徒指導体制を構想することができる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を理解する。
5. キャリア教育の意義とその内容を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 生徒指導とは
2. 第1章「生徒指導の基礎」
3. 第2章「生徒指導と教育課程」
4. 第3章「チーム学校における生徒指導体制」
5. 第4章「いじめ」
6. 第5章「暴力行為」, 第6章「少年非行」
7. 第7章「児童虐待」, 第8章「自殺」
8. 第9章「中途退学」, 第10章「不登校」
9. 第11章「インターネット・携帯電話に関わる問題」, 第12章「性に関する課題」
10. 第13章「多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導」
11. 隣接領域①: 学校心理学の理論と実際
12. 隣接領域②: 学校教育相談の意義と実際
13. 隣接領域③: キャリア教育の意義と実際
14. 隣接領域④: 今後の展望(包括的支援の重要性)
15. 総括討議, レポート

特記事項: なし

授業方法: 【対面】

全体を通して、アクティブ・ラーニングを展開する。

1. 講義・グループディスカッション
2. 発表&質疑・グループディスカッション
3. 発表&質疑・グループディスカッション
4. 発表&質疑・グループディスカッション
5. 発表&質疑・グループディスカッション
6. 発表&質疑・グループディスカッション
7. 発表&質疑・グループディスカッション
8. 発表&質疑・グループディスカッション
9. 発表&質疑・グループディスカッション
10. 発表&質疑・グループディスカッション
11. 発表&質疑・グループディスカッション
12. 発表&質疑・グループディスカッション
13. 発表&質疑・グループディスカッション
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習として、シラバスに記載されている次回の授業内容を事前学習して臨むことが必要である(1560分)。発表を担当する「章」「領域」に関しては、その概要のプレゼンとともに質疑の対応を担う。復習として、「授業アンケート」及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である(780分)。また、レポート課題の作成作業が必要である(360分)。なお、予習及び復習課題に関しては、毎回の授業終了時に提示する。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 30 % | レポート: | 20 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 受講態度(50%)、課題テスト「授業アンケート」(30%)、レポート(20%)により評価する。
受講態度は、プレゼン発表の取組態度及びその完成度、授業中における討議に対する積極的・能動的な参加態度を評価する。「授業アンケート」及びレポートは、授業で学んだ内容に関して適切な解釈ができていくかについて評価する。

評価指標は、以下の通りである。

【最低限の到達(60～69点)】

1. 生徒指導提要の概要を説明することができる。
2. 生徒指導と学校心理学との関連を説明することができる。
3. 学校における生徒指導体制を構想することができる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を説明することができる。
5. キャリア教育の意義とその内容を説明することができる。

【望ましい到達度(80～100点)】

1. 生徒指導提要に示された原理原則を生かした指導を実際に構想できる。
2. 生徒指導と学校心理学との構造的関連を構想できる。
3. 学校における生徒指導体制を構想し、実際の配慮のポイントを説明できる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を踏まえた実際の展開を構想できる。
5. キャリア教育の意義とその内容を踏まえた実際の展開を構想できる。

課題へのフィードバック:

授業アンケートに関しては、次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては、必要に応じて授業外場でフィードバックする。

教科書: 文部科学省『生徒指導提要(改定版)』2022年12月<Web版>
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

参考書: 大野精一・藤原忠雄(編著)『学校教育相談の理論と実践: 学校教育相談の展開史、隣接領域の動向、実践を踏まえた将来展望』ほんの森出版 2018年
一般社団法人日本学校教育相談学会(企画)春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄(編著)『学校教育相談 理論と実践のガイドブック』ほんの森出版 2025年

授業・準備学習のアドバイス:

生徒指導に関することに対して、日頃から高いアンテナを張り、積極的な情報収集に心掛けることが必要である。

科目名: 学校カウンセリング特論

クラス:

授業コード: BK30700001

担当者: 金山 健一

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 中学校教諭(生徒指導・教育相談担当)、臨床心理士・学校心理士・学生相談室長(カウンセリング・学生相談・教育相談担当)

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: すべての子どもは幸せになる権利がある。しかし、現実には、子どもたちは様々な問題に直面して苦悩している。本授業では、学校カウンセリングの理論と実践を習得し、今日の子どもの抱える様々な問題への具体的な対応方法を学ぶ。学校カウンセリングでは、予防・開発的な包括的支援モデルを理解し実践方法を体験する。カウンセリングには様々な手法があるが、代表的なカウンセリング・心理療法を学び、人生を豊かにすることも目的である。

到達目標: 1. 学校カウンセリングの理論と実践を体系的に学び、課題・問題に対して、対応できるカウンセリングを習得する。
2. 子ども支援、家庭支援に必要な問題解決能力・発表力・表現力などを習得する。

各回の授業計画:

1. 学校カウンセリング概論(人の心を理解する)
2. ロジャーズ理論・来談者中心療法(カウンセリングの基礎の基礎)
3. マイクロカウンセリング(カウンセリングの技を学ぶ)
4. プリーフセラピー(効果的なカウンセリングとは何か)
5. 論理療法・認知療法(考え方・思考へのアプローチするカウンセリング)
6. 認知行動療法(ワークシートでトレーニング体験)
7. 選択理論(人生は選択で決まる)
8. 心理検査(自分の知能を測定する)
9. 事例研究(不登校・引きこもりの現状と対応)
10. 事例研究(いじめ・自殺の現状と対応)
11. 事例研究(虐待・家庭内暴力の現状と、関係機関との連携)
12. ピアサポート(人と人をつなぐ)
13. 心理学の法則(人生に必要な心理学の法則・効果を学ぶ)
14. 学校カウンセリングの倫理(カウンセラーの条件)
15. 学校カウンセリングの課題と展望

特記事項: なし

授業方法: 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、各自が取り組んでいる論文の指導を随時、実施する。

1. 講義・議論
2. 講義・議論
3. 講義・議論
4. 講義・議論
5. 講義・ロールプレイ
6. 講義・ロールプレイ
7. 講義・ロールプレイ
8. 講義・ロールプレイ
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義・議論
13. 講義・議論
14. 講義・議論
15. 講義・テスト

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 復習(180分)
4. 復習(180分)
5. 復習(180分)
6. 各自の研究準備(180分)
7. 各自の研究準備(180分)
8. 各自の研究準備(180分)
9. 各自の研究準備(180分)
10. 各自の研究準備(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. プレゼン準備(180分)
13. 課題まとめ(180分)
14. 課題まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | 30 % | レポート: | 30 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (1)授業への取り組み:授業態度、関心・意欲、発表
 (2)確認テスト:中間テスト、期末テスト
 (3)レポート:期末レポート

課題へのフィードバック:

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

教科書: なし。随時、プリントを配布する。

参考書: 『学校教育相談の理論と実践』大野精一 藤原忠雄(編) あいり出版

授業・準備学習のアドバイス:

教育に関する新聞報道や、文部科学省HP、教育心理学、学校心理学、キャリア教育などの分野の文献にも関心を持つことを期待している。
 授業に関する質問は随時、受け付けている。

科目名: 学校心理臨床特論

クラス:

授業コード: BK30800001

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭<教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等>, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び多様な心理療法の枠組みの理解の下に, 学校における様々な課題・問題の理解と援助の力量を高める。

到達目標: 1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法(本講義ではストレス対処に焦点化)を習得する。
2. 多様な心理療法の枠組みの理解する。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題(不登校, 発達障害等)に対する適切な支援を理解する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 学校における心理臨床
2. 臨床診断基準(DSM-5-TR・ICD-10)
3. 心理療法①: 力動的アプローチ
4. 心理療法②: 認知行動論的アプローチ
5. 心理療法③: パーソンセンタードアプローチ
6. リラクセーション①: 呼吸法
7. リラクセーション②: 漸進性弛緩法
8. リラクセーション③: 自律訓練法
9. リラクセーション④: 臨床動作法
10. リラクセーション⑤: イメージ法
11. 児童生徒の発達・教育上の課題①(不登校)
12. 児童生徒の発達・教育上の課題②(非行)
13. 児童生徒の発達・教育上の課題③(発達障害)
14. 児童生徒の発達・教育上の課題④(危機対応)
15. 総括討議, レポート

特記事項: なし

授業方法: 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。

1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・グループディスカッション
4. 講義・グループディスカッション
5. 講義・グループディスカッション
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・グループディスカッション
12. 講義・グループディスカッション
13. 講義・グループディスカッション
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など(内容・時間):

予習として, 各回の内容に関する情報収集が必要である(780分)。復習として, リラクセーション技法の習得のための一定期間のトレーニング

グとその記録が必要である(1680分)。また、レポート課題の作成作業が必要である(240分)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | 30 % | レポート: | 20 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 受講態度(50%)、課題テスト「授業アンケート」(30%)、レポート(20%)により評価する。
受講態度は授業中に実施する討議・演習に対する積極的・能動的な参加態度を評価する。
課題テスト「授業アンケート」及びレポートは、講義で学んだ内容に関して適切な解釈及び活用ができていくかについて評価する(授業中に体験したスキルの習得のためのトレーニング記録の評価を含める)。

評価指標は、以下の通りである。

【最低限の到達(60～69点)】

1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法について説明できる。
2. 多様な心理療法の枠組みについて説明できる。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題に対する適切な支援について説明できる。

【望ましい到達度(80～100点)】

1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法を理解し、具体的活用を構想できる。
2. 多様な心理療法の枠組みを理解し、学校における様々な課題・問題の理解と援助の枠組みとして参照できる。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題に対する適切な支援を理解し、その具体的展開を構想できる。

課題へのフィードバック:

授業アンケートに関しては、次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては、必要に応じて授業外場でフィードバックを行う。

教科書: 教科書は指定しない。必要に応じて、関連資料の配布及び参考文献の紹介を行う。

参考書: 伊藤良子(編)『臨床心理面接技法1』誠信書房 2004年
倉光修(編)『学校臨床心理学』誠信書房 2004年
藤原忠雄(著)『学校で使える5つのリラクゼーション技法』ほんの森出版 2006年

授業・準備学習のアドバイス:

リラクゼーション技法の習得のためのトレーニングに積極的に取り組み、ストレスマネジメント能力を高めることを期待している。

科目名: 心理教育アセスメント特論

クラス:

授業コード: BK30900001

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 教室場面における心理教育アセスメントを理解し、教育実践に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

到達目標: 到達目標は以下の2点である。

1. 心理教育アセスメントの効用と限界を理解すること。
2. 心理教育アセスメントの理論と方法を理解し、実践に活かすスキルを身につける。

各回の授業計画:

1. 心理教育アセスメントとは何か
2. 教育測定を理解
3. 心理検査の信頼性と妥当性
4. 教育評価の理解
5. 心理検査の理解と活用
6. 知能検査と教育の評価
7. 学習面のアセスメント
8. 心理・社会面のアセスメント
9. 進路面のアセスメント
10. 健康面のアセスメント
11. 学級集団のアセスメント
12. 学級風土のアセスメント
13. アセスの理解と活用(1)
14. アセスの理解と活用(2)
15. 心理教育アセスメントと子ども理解

特記事項: なし

授業方法: 講義、グループワーク、討論
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業の予習・復習とレポート課題の作成等に毎週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 20 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 80 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し適切に活用できる。
(79～70点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し活用できる。
(69～60点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し不十分ではあるが活用できる。

課題へのフィードバック:

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

教科書: 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

予習復習をしっかりと行うこと。日頃から心理教育アセスメントについて関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

科目名: 教育研究法特論

クラス:

授業コード: BK31000001

担当者: 藤原 忠雄

単位数: 2

科目に関連した実務経験: 実務経験有: 6学会・2機関の学会誌・機関誌の査読経験

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 本講義は、教育研究法という大きな枠組みから教育における心理学研究法に焦点化する。
心理学で用いられる種々の研究方法や分析方法について概観し、自らの研究を推進することに資する。

到達目標: 1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを習得する。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを習得する。

各回の授業計画:

1. オリエンテーション, 研究とは
2. 論文検索の方法
3. 選択論文の決定, レジュー作成
4. 選択論文の解説及び発表①
5. 選択論文の解説及び発表②
6. 心理学研究法①: 実験的・実践的研究法
7. 心理学研究法②: 面接・観察による質的研究法
8. 心理学研究法③: 質問紙調査による研究法
9. 量的データ分析法①: データ整理, 基本統計量
10. 量的データ分析法①: t検定
11. 量的データ分析法②: 分散分析
12. 量的データ分析法③: 因子分析
13. 量的データ分析法④: 相関分析
14. 量的データ分析法⑤: 重回帰分析
15. 総括討議

特記事項: なし

授業方法: 【対面】

アクティブ・ラーニング授業であり、次のような流れで展開する。
まず、学術誌掲載論文の中から興味のある論文を選択し、そのレジュームの作成を通して、研究計画・実施・結果のまとめ方を学ぶ。次に教育における心理学研究法の概要を学び、最後に質問紙調査法における量的データの分析方法を実習形式で学ぶ。

1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・演習
3. 講義・演習
4. 発表・質疑
5. 発表・質疑
6. 講義・グループディスカッション
7. 講義・グループディスカッション
8. 講義・グループディスカッション
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・演習
12. 講義・演習
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. 全体ディスカッション・総括

予習・復習・宿題など(内容・時間):

本授業は、授業外の個人作業(論文検索・論文選択とその解説、発表のためのレジュメ作成とプレゼン作成 等)が必要である(1080分)。また、心理学研究法及び量的データ分析法を理解・習得するためには各180分の復習が必要である(1620分)。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|------|-------|-----|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 60 % | 確認テスト: | - % | レポート: | - % |
| | その他1: 発表 | | | 40 % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: 授業態度(60%)と発表内容(40%)を総合的に評価する。
授業態度は、課題への積極的・能動的な参加態度を評価する。
発表内容は、論文の解説・プレゼンテーションの適切さについて評価する。

評価指標は、以下の通りである。

【最低限の到達(60～69点)】

1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを説明できる。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを説明できる。

【望ましい到達度(80～100点)】

1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを踏まえて、自らの研究法を構想できる。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを踏まえて、自らの研究のデザインとともに使用する分析法を構想できる。

課題へのフィードバック:

課題に対する評価及び補足説明等は、必要に応じて授業及び授業外で個人的にフィードバックする。

教科書: 教科書は指定しない。必要に応じて、関連資料の配布及び参考文献の紹介を行う。

参考書: 日本教育心理学会(編)『教育心理学ハンドブック』有斐閣 2003年
山田剛史・村井潤一郎(著)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2004年
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)『心理学研究法入門―調査・実験から実践まで』東京大学出版会 2001年
森敏昭・吉田寿夫(編著)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房 1990年

授業・準備学習のアドバイス:

日本学術会議協力学術研究団体(<https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)が発行している雑誌に掲載された学術論文への積極的なアクセスに努めてもらいたい。
良質な論文から多くのことを学んでもらいたい。

科目名: 障害児教育特論

クラス:

授業コード: BK31100001

担当者: 堀田 千絵

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: 教職課程関連科目: 大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 特別支援教育の理念を理解するとともに、特別支援教育における実際の支援と指導の在り方について学ぶ。

到達目標: 1. 特別支援教育の理念を理解する
2. 特別支援教育の理念に基づいた実際の支援を習得する
3. 特別支援教育の支援、指導のあり方について各自の理解を深める

各回の授業計画:

1. オリエンテーション
2. 特別支援教育の理念
3. 特別支援教育の実際
4. 知的障害
5. 肢体不自由
6. 発達障害(LD、ADHD)
7. 神経発達症
8. 聴覚障害
9. 視覚障害
10. 重度重複障害
11. 特別支援教育の教育課程とその特質
12. 発達段階を踏まえた支援について(1)アセスメントの方法
13. 発達段階を踏まえた支援について(2)授業デザイン
14. 事例による理解
15. まとめと発表

特記事項: なし

授業方法: 1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、視聴覚教材
5. 講義、視聴覚教材
6. 講義、視聴覚教材
7. 講義、視聴覚教材
8. 講義、視聴覚教材
9. 講義、視聴覚教材
10. 講義、視聴覚教材
11. 講義
12. 講義、演習、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、発表、ディスカッション

予習・復習・宿題など(内容・時間):

1. 特別支援教育はなぜ必要なのか自分なりの考えを記録しておく(140分)
2. 特別支援教育に携わる自分をイメージして何を大切にするひつようがあるか、自由に考え記録しておく(140分)
3. 特別な支援を必要とする子どもの支援にとって必要な知識や技能等を自分なりに記録しておく(140分)

4. 知的障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 5. 肢体不自由児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 6. 発達障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 7. 発達障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 8. 聴覚障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 9. 視覚障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 10. 重度重複障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
 11. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編並びに自立活動編の総説を通読しておく(140分)
 12. 発達段階に関する文献等を通読しておく(140分)
 13. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説教科編を通読しておく(140分)
 14. 興味のある障害種について文献等を調べ、通読しておく(140分)
 15. 授業を通じて学んだことを発表できるようにまとめておく(140分)
- ※小レポート作成150×4回

| | | | | | | |
|-------|-----------|---------------------|--------|------|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 15 % | 確認テスト: | 15 % | レポート: | 45 % |
| | その他1: | 授業への参加に対する発言等を重視する。 | 15 % | | | |
| | その他2: | その他2として発表の質を評価する。 | 10 % | | | |

| | |
|-------|---|
| 評価基準: | 課題レポート:課題を正しく把握し、自分の意見が述べられている(60～69)。 課題レポート:課題を正しく把握し、他の考えなどを取り入れながら、自分の意見が述べられている(80～)。 |
| | グループワーク:話し合いに参加し、自分の意見を述べることができる(60～69)。 グループワーク:話し合いに積極的に参加し、人の意見も取り入れながら、自分の意見を述べることができる(80～)。 |

課題へのフィードバック:

提出物については、適宜コメントをしたり、指導を行い返却する。

教科書: 読んでわかる教育心理学(2018). 第11章 障害の発達と学習
※授業中に適宜資料を配布します。

参考書: 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚園・小学部・中学部)
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
特別支援学校学習指導要領解説各教科等偏(小学部・中学部)

授業・準備学習のアドバイス:

授業と共に、予習、復習を通して特別支援教育に対する理解を深めてください。

科目名: 身体教育学特論

クラス:

授業コード: BK31150001

担当者: 杉山 真人

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: スポーツなどの身体運動は幼児から高齢者に至るまで実生活に浸透しており、生涯にわたる営みであると捉えられる。他方で、高度に文明が発達した今日において、身体運動を健康や教育と関連づけた場合、種々の問題を見いだすことができる。そこで、本講義ではこれらの問題を前提として身体運動の教育的意義を理解し、科学的根拠に基づいた運動指導における知識を習得することを目的とする。

到達目標: 科学的知見に基づいた諸理論を通して身体運動の原理を理解し、運動実行者の指導や援助ができる。

各回の授業計画:

1. 身体を通じた教育の重要性
2. システムとしての身体
3. 身体運動と環境情報
4. 運動の学習過程
5. 運動技能の評価
6. 身体運動制御の情報処理的アプローチ
7. 環境との相互作用を通じた身体運動制御
8. 運動の発達過程
9. 身体教育及び健康を取り巻く現状と課題
10. 運動の個人差と体力・運動能力
11. 子どもの体力・運動能力の現状と課題
12. 学校教育における運動指導の実際
13. 生涯スポーツとしての身体運動
14. 運動指導における安全教育と安全管理
15. まとめと確認(総合的な討議)

特記事項: なし

授業方法:

1. 講義
2. 講義, ディベート, グループワーク
3. 講義, ディベート, グループワーク
4. 講義, ディベート, グループワーク
5. 講義, ディベート, グループワーク
6. 講義, ディベート, グループワーク
7. 講義, ディベート, グループワーク
8. 講義, ディベート, グループワーク
9. 講義, ディベート, グループワーク
10. 講義, ディベート, グループワーク
11. 講義, ディベート, グループワーク
12. 講義, ディベート, グループワーク
13. 講義, ディベート, グループワーク
14. 講義, ディベート, グループワーク
15. 講義, ディベート

※全て対面で行います

予習・復習・宿題など(内容・時間):

各回の授業につき1時間の予習と3時間の復習を課す。
復習はテキストや資料、関連文献の振り返りを行い、予習は次回の授業用資料等について学習することを求める。

| | | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|---|---|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 40 % | 確認テスト: | － | % | レポート: | 60 % |
| | その他1: | | | | % | | |
| | その他2: | | | | % | | |

評価基準: 身体教育に関する基礎的知識を身につけている(可)
身体教育に関する基礎的, 応用的知識を身につけている(良)
身体教育に関する知識を身につけ他の事象と関連づけて論じることができる(優)

課題へのフィードバック:
小レポートや小テストについては採点后講評する。

教科書: シュミット, R. A. (1994) 運動学習とパフォーマンス 大修館書店

参考書: なし

授業・準備学習のアドバイス:

ヒトの運動は合目的に果たされることが多いため、課題(原因)と成果(結果)が直接的に結びついていると捉えがちです。しかし、複雑な身体構造や神経システムは必ずしも直接的な因果関係だけで説明できるものではありません。これらの基盤となる諸原理を理解するためには、現象の巨視的及び微視的な視点が必要となります。この点を踏まえた上で学習に臨んでほしいと思います。

科目名: 英書講読(教育心理学)

クラス:

授業コード: BK31200001

担当者: 小川内 哲生

単位数: 2

科目に関連した実務経験: -

教職課程における位置づけ: -

含めることが必要な事項: -

教科に関する専門的事項: -

一般的包括的科目: -

授業の目的: 目的は2点。

- ①教育心理学の学習・認知過程に言及したテキストを講読し、英語表現になじむことによって、テキストの内容である学習・認知過程の理解を深めること。
- ②各自の興味ある研究テーマに関係する英語論文が読めるようになること。

到達目標: 積極的に英語論文が読めること。

各回の授業計画:

1. introduction 使用する文献の内容・執筆者の紹介等
2. 文献の講読・討論1
3. 文献の講読・討論2
4. 文献の講読・討論3
5. 文献の講読・討論4
6. 文献の講読・討論5
7. 文献の講読・討論6
8. 文献の講読・討論7
9. 文献の講読・討論8
10. 文献の講読・討論9
11. 修士論文に関連する英語論文の紹介・討論1
12. 修士論文に関連する英語論文の紹介・討論2
13. 修士論文に関連する英語論文の紹介・討論3
14. 修士論文に関連する英語論文の紹介・討論4
15. まとめ・講評

特記事項: なし

授業方法: 毎回、各学生による発表と討論による授業。
全ての授業を対面で行う。

予習・復習・宿題など(内容・時間):

授業で使用する英語文献、ならびに各自の関心のある英語論文の訳と理解の準備のために、予習と復習に各週4時間の学習時間を必要とする。

| | | | | | | |
|-------|-----------|------|--------|-----|-------|------|
| 評価方法: | 授業へのとりくみ: | 50 % | 確認テスト: | - % | レポート: | 50 % |
| | その他1: | | | % | | |
| | その他2: | | | % | | |

評価基準: (100～80点)訳がこなれていて、論文の拝啓が理解できる。
(79～70点)訳はできているが、論文の拝啓の理解が不十分である。
(69～60点)訳がこなれていない。

課題へのフィードバック:

毎回、次回の翻訳をおこなう担当者を決定するので、次回までにしっかりと訳しておくこと。

教科書: Dweck, C. S. (2006). Mindset: The new psychology of success. New York: Random House.
テキストはコピーして配布する。

参考書: 必要に応じて紹介する。

授業・準備学習のアドバイス:

日頃から英語文献に関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。